

史跡 齋宮跡

平成5年度発掘調査概報



1994

齋宮歴史博物館

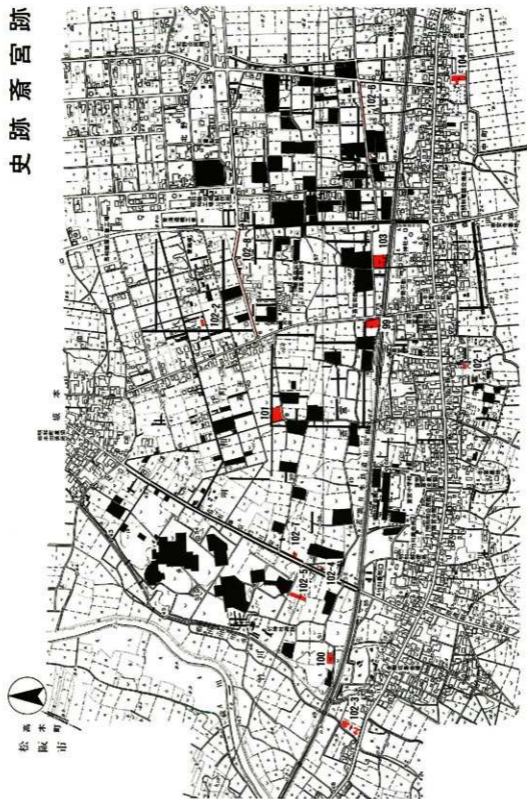


第99次調査区遠景（北から）



第103次調査区遠景（北西から）

史跡斎宮跡



第1圖 平成5年度発掘調査地区（1：10,000）

はじめに

「幻の宮」と呼ばれていた齋宮跡の解明のために続けられてきた発掘調査・研究も昭和45年以來本年度で早くも25年が過ぎようとしています。この間、とくに10年毎の節目には、国史跡への指定、普及・公開の場としての齋宮歴史博物館の開館などを得て、史跡の保存も大きく前進いたしてきております。これも一重に地元住民の皆様をはじめ、関係各機関、諸先輩各位のご努力とご理解・ご協力の賜物と感謝いたしております。

また、地元明和町が事業主体となり、国・県の補助を得て進めておられます史跡公有化事業もすでに20ヘクタール近くに達し、その整備と有効な活用の促進は各方面から強く求められているところでございます。そこで本年度は三重県といたしましても、この整備・活用の指針ともいえます「史跡齋宮跡整備基本構想」を策定すべく予算化し、専門の先生方をはじめ関係各方面の方々のご指導・ご助言・ご協力をいただき、その作業に努力してまいりました。しかしながら、その具体化・事業化に向けて土地公有化と発掘調査の整合、周辺の様々な開発事業との調整、地域生活環境との調和など、今後検討・解決してまいらなければなりません課題は山積していると認識いたしております。

その課題の一つであります史跡の実態解明のための発掘調査も、漸くその調査率が史跡全体の12%に達し、おぼろげながら史跡の概観が判りかけるところまで進んでまいりました。これらの作業は一朝一夕に進むものではなく、長い期間の中での成果の積み上げにより成しえるものと思っておりますので、この冊子が一助となるよう念願いたしております。

最後になりましたが、平素から当齋宮跡の保存・調査・研究等に種々ご指導・ご助言を賜っております文化庁及び調査指導委員の先生方並びに関係各位にお礼申し上げてご挨拶に代えさせていただきます。

平成6年3月

齋宮歴史博物館

館長 久保富子

例 言

1. 本書は、齋宮歴史博物館が国庫補助金の交付を受けて平成5年度に実施した史跡齋宮跡の発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 明和町教育委員会が、国庫補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の報告書は別途、明和町教育委員会が刊行している。
3. 遺構の実測にあたっては国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。
4. 遺構の時期区分は、「齋宮の土師器（三重県齋宮跡調査事務所年報1984）」による。
5. 遺構表示記号は次の通りである。
SB；建物 SK；土坑 SD；溝 SE；井戸 SA；欄列 SF；道路 SX；その他
6. 遺物実測図は、特に標示がない限り実物の4分の1である。
7. 齋宮跡の調査全般については、次の先生方の指導を得た。

京 都 府 立 大 学 名 誉 教 授	門 脇 禎 二
千 葉 大 学 教 授	北 原 理 雄
福 山 女 学 園 大 学 名 誉 教 授	久 徳 高 文
奈 良 国 立 文 化 財 研 究 所 所 長	鈴 木 嘉 吉
財 大 阪 文 化 財 セ ン タ ー 理 事 長	坪 井 清 足
名 古 屋 学 院 大 学 教 授	楠 崎 彰 一
三 重 大 学 教 授	八 賀 晋
名 古 屋 大 学 教 授	早 川 庄 八
財 京 都 府 埋 蔵 文 化 財 調 査 研 究 セ ン タ ー 理 事 長	福 山 敏 男
皇 学 館 大 学 教 授	渡 辺 寛

8. 本概報の編集・執筆は齋宮歴史博物館調査研究課の吉水康夫、野原宏司、大川勝宏があたり、赤岩操、大滝靖子がこれを補佐した。

また、遺物整理には島村紀久子、角谷和代、奥田康子、鈴木美智子の協力を得た。

目 次

I. 調査の経過と概要	1
II. 第99次調査	3
III. 第100次調査	17
IV. 第101次調査	23
V. 第103次調査	32
VI. 第104次調査	53

表・挿図目次

[表]	1. 平成5年度発掘調査地区一覽	2
	2. 第99次調査 時期別遺構分類表	4
	3. S E 6920出土土器構成	14
	4. 第100次調査 時期別遺構分類表	19
	5. 第101次調査 時期別遺構分類表	24
	6. 第103次調査 時期別遺構分類表	33
	7. S B 7045・S K 7017・S K 7040出土土器構成	49
	8. 第104次調査 時期別遺構分類表	54
	9. S E 7060出土土器構成	59
	10. 掘立柱建物・櫓列一覽表	61
	11. 竪穴住居一覽表	62
	12. 遺物(土器)観察表	63
	13. 竊冢跡発掘調査次数一覽表	80
[図]	1. 平成5年度発掘調査地区(1:10,000)	i
	2. 第99次調査 調査区位置図(1:2,000)	3
	3. ♪ 遺構実測図(1:200)	5
	4. ♪ S X 6900実測図(1:20)	7
	5. ♪ 調査区北部遺構実測図(1:100)	8
	6. ♪ 出土遺物実測図(S E 6920)	10
	7. ♪ 出土遺物実測図(S E 6920)	11
	8. ♪ 出土遺物実測図(S E 6920)	12
	9. ♪ 出土遺物実測図(S E 6920・S K 6890・6914・6875・6905 ・6894・S D 6870・Q-39攪乱土城)	13
	10. ♪ 出土遺物実測図(S X 6900)	14
	11. ♪ S E 6920出土土師器杯径高比	14
	12. ♪ 猿面硯実測図(1:2)	15
	13. 第100次調査 調査区位置図(1:2,000)	18
	14. ♪ 遺構実測図(1:200)	20
	15. ♪ 出土遺物実測図(包含層 他)	22
	16. 第101次調査 調査区位置図(1:2,000)	23
	17. ♪ 遺構実測図(1:200)	25
	18. ♪ S D 0081・0082・S F 6983断面図(1:50)	26
	19. ♪ 土城・中世墓実測図(1:40)	29
	20. ♪ 出土遺物実測図(S K 6979)	29
	21. ♪ 出土遺物実測図(S X 6975・6976・6977・S D 6984・0081 ・S F 6983・S K 6973・包含層)	30
	22. 第103次調査 調査区位置図(1:2,000)	32
	23. ♪ 遺構実測図(1:200)	35

24.	第103次調査	出土遺物実測図 (S B 7045・S K 7046・S A 7000)	40
25.	◇	出土遺物実測図 (S K 7017)	41
26.	◇	出土遺物実測図 (S K 7017)	42
27.	◇	出土遺物実測図 (S K 7017)	43
28.	◇	出土遺物実測図 (S K 7030)	44
29.	◇	出土遺物実測図 (S K 7030)	45
30.	◇	出土遺物実測図 (S K 7030)	46
31.	◇	出土遺物実測図 (S K 7040)	47
32.	◇	出土遺物実測図 (S K 7040・7029・7052・7051・S D 7014・7007)	48
33.	◇	S K 7030・7040出土土師器杯径高比	48
34.	◇	周辺主要遺構分布図 (1:2,000)	51
35.	第104次調査	調査区位置図 (1:2,000)	53
36.	◇	遺構実測図 (1:200)	55
37.	◇	出土遺物実測図 (S E 7060)	57
38.	◇	出土遺物実測図 (S E 7060・7065・S D 7063・包含層)	58
39.	◇	S E 7060出土土師器杯径高比	59
40.	斎宮跡地区表示		84

写真図版

巻頭	上: 第99次調査区遠景 (北から)	下: 第103次調査区遠景 (北西から)
1.	第99次調査区全景 (真上から)	
2.	上: 調査区全景 (北から)	下: 調査区北東部 (南から)
3.	上: 調査区南東部 (北から)	下: S B 0251 (東から)
4.	上: 調査区北部 (南から)	下: S D 6919・S B 6922 (東から)
5.	上: S B 6918 (南から)	下: S B 6923 (東から)
6.	上: S E 6920 (東から)	下: S X 6900検出状況 (南から)
7.	第100次調査区全景 (真上から)	
8.	上: 調査区全景 (西から)	下: S A 6940・6941~6943 (東から)
9.	第101次調査区全景 (真上から)	
10.	上: 第101次調査区全景 (北から)	下: S F 6983南端 (西から)
11.	上: S F 6983 (南から)	下: 中世墓群 (北から)
12.	上: S X 6975 (南から)	下: S X 6975遺物検出状況 (東から)
13.	上: S X 6977 (東から)	下: S X 6976 (南から)
14.	第103次調査区全景 (真上から)	
15.	上: 調査区全景 (西から)	下: 調査区全景 (北西から)
16.	上: S A 7000 (東から)	下: 調査区南東部 (西から)
17.	上: S B 7024 (北から)	下: S B 7020 (西から)
18.	上: S K 7017 (東から)	下: S K 7040 (北から)
19.	上: S K 7030 (東から)	下: S K 7030遺物検出状況 (北東から)
20.	上: 第104次調査区遠景 (南から)	下: 調査区遠景 (東から)
21.	上: 調査区全景 (南から)	下: S D 7067 (西から)
22.	上: S E 7060 (東から)	下: S D 7063 (南から)
23.	第99次調査 出土遺物	
24.	第100次調査 出土遺物	
25.	上: 第101次調査 出土遺物	下: 第104次調査 出土遺物
26.	第103次調査 出土遺物	

I. 調査の経過と概要

年度末の3月30日まで調査現場の対応に追われた平成4年度が5年度と替わっても、心機一転する暇もなく本年度最初の計画調査は第99次調査として約740㎡を対象に、昨年に引き続いて近鉄斎宮駅の北側、内山地区で平成5年4月5日から開始した。当該地は方格地割のうち、斎王の森から南に延びる道路の西側に接し、南北4列を想定する区画の中央を東西に延びる道路との交差点に相当し、その詳細が明らかになることを期待した調査である。

調査の結果、掘立柱建物や近年その検出例が増える生垣、井戸等を検出したほか、区画道路の溝と思われる溝も検出されたが、交差点の詳細については十分に把握できなかった。

また、出土遺物については、これまでの斎宮跡でわずか3例目の資料である猿面硯が出土している。そのほか、大半が小片とはいえ緑釉陶器の出土が80点近くになる点は注目される。従来から斎宮駅周辺の地域ではその集中する傾向が知られていたが、斎宮跡全体の中での当該地域の位置づけを考察するうえで貴重な知見である。なお、これら調査結果は6月6日に行われた「斎王まつり」に併せて開催した現地説明会で600名余りの参加者を得て公開している。

続く第100次調査は、史跡西部の竹川字中垣内地内で約280㎡の調査区を設定し、平成5年7月8日から10月6日まで実施した。当該地域は斎宮成立期の飛鳥時代～奈良時代前期の遺構や遺物が比較的集中していることが知られており、その確認や例年の「体験発掘教室」をここで実施することを考慮して設定したものである。面積が狭く、これまであまり調査が進んでいないこともあって、重複する4条の溝列や8棟の掘立柱建物を検出したがその意義付けについては十分に明らかにすることはできなかった。

さらに、第100次調査とほぼ並行して平成5年7月19日から10月13日の期間で、斎宮字篠林で約540㎡を対象に第101次調査を実施した。昭和63年度以降5か年で上園地区で史跡整備の一環として芝生広場の造成を行い、遠足で史跡を訪れる児童や地域住民から好評を得ており、農道を隔ててその北側に隣接する当地区でその充実を図るべく検討していたところである。そこで、文化庁からの指導もあり事前に発掘調査を実施し、その成果も含めた整備とすることを意図したものである。調査の結果、方格地割の北西角から北にのびる平安時代中期以降の道路跡や中世墓等が検出された。そこで整備に当たってはとりあえず、道路跡に限って砂利広場として表示している。なお、毎年8月上旬に斎宮歴史博物館で受け入れている博物館実習では、学生諸君にここで斎宮跡の調査研究の片鱗を実体験してもらった。

次に、第103次調査は平成5年10月4日から、竹神社の近鉄線を隔てて北側の斎宮字柳原内地内で約1,170㎡の調査区を設定して実施した。竹神社を含め、方格地割におけるこの一画は歴史的にも地域住民から長らくタブー視されてきた区域と考えられ、「斎宮」にとって重要な位

置を占めていた場所であることが想定されていた。調査の結果は、方格地割の交差点を検出したほか、大型の柱掘形を持つ横列や掘立柱建物を検出し、極めて重要な一面であることは想像に難くないが、その核心部分は近鉄線路敷及びその南側の竹神社の境内地に広がるものと思われる。この調査では、当館が平成5年度及び6年度の2か年事業として進めている映像展示の更新ソフトの作成のための現地ロケーションを実施しているほか、平成5年12月12日には現地説明会を開催して約210名の見学者の参加を得、平成6年1月25日に調査を完了した。

本年度の計画調査はもう1か所、旧参宮街道沿いの集落の南側、斎宮字笛川で平成6年1月31日から3月25日まで約350㎡を対象に実施した。当該地は方格地割の南東隅に当たる区画の南辺中央に位置し、調査前には門等の存在も予想された。調査の結果はこれに類する遺構は検出されず、斎宮の南限を画する溝と平安時代前半の井戸1基等を検出したにすぎない。

その他、史跡現状変更に伴う事前の発掘調査を明和町教委が調査主体となり、斎宮歴史博物館が担当して第102-1～8次調査として8件実施した。その概要は別途明和町教委より刊行の予定であるが、昨年度の調査で検出された八脚門に取りつく横列の延長部の検出をはじめ、史跡の保存にとって様々な問題を残しつつも、多くの成果を収めることとなった。（吉水康夫）

調査次数	地区名	調査面積㎡	調査期間	地番・地番	所有者	備考	区分
99	6ADN	740	H.5.4.5～H.5.7.13	明和町斎宮字内山5046-11 他	明和町 他	計画発掘調査	1
100	6ABI-T	280	H.5.7.8～H.5.10.6	明和町竹川字中屋内423	沢 恒一	計画発掘調査	3
101	6ADG	540	H.5.7.19～H.5.10.13	明和町斎宮字笹林3194 他	明和町	計画発掘調査	1
102-1	6ADS	60	H.5.4.9～H.5.4.23	明和町斎宮字木葉山119-5	澄野園 謙	草庫の新築	3
102-2	6AED-J	90	H.5.6.16～H.5.7.26	明和町斎宮字赤殿2682-5 他	杉本 雅之	住宅の新築	3
102-3	6AAQ	390	H.5.5.11～H.6.3.30	明和町竹川字花園663-1 他	中川 達雄	産土工事	3
102-4	6ACF-A	50	H.5.9.17～H.5.9.30	明和町竹川字東高365-1	樋口 善弘	住宅の新築	3
102-5	6ABJ-D	260	H.5.10.12～H.5.11.25	明和町竹川字中屋内493-6 他	川口 清一	店舗の新築	3
102-6	6AGN 他	270	H.5.12.16～H.6.1.25	明和町斎宮字諏治山 地内	明和町	僧湯の改修	2
102-7	6ACG-E	250	H.6.2.2～H.6.3.17	明和町竹川字東高318-1	川本 正武	住宅の新築	3
102-8	6AEI 他	310	H.6.2.3～H.6.3.14	明和町斎宮字赤殿 地内	明和町	僧湯の新設	1
103	6AEQ-A	1,170	H.5.10.4～H.6.1.25	明和町斎宮字松原2779-3	吉田 寿	計画発掘調査	1
104	6ACT	350	H.6.1.31～H.6.3.25	明和町斎宮字笛川1049-1 他	佐々木 茂	計画発掘調査	3

第1表 平成5年度発掘調査地区一覧

Ⅱ. 第99次調査

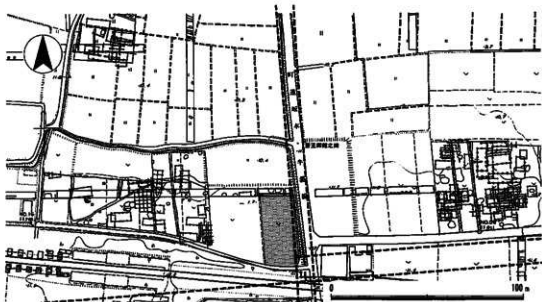
6ADN (内山地区)

1. はじめに

平成5年度第1回目の計画調査は第93次、第95次調査に引き続き、近鉄斎宮駅北側の地域で実施した。史跡東半の平安時代前半の方格地割は、昨年度の第96-5次調査で発見された八脚門S B 6850と柵列S A 6849によって南辺は最大で東西7列分の区画が想定できるようになった。

第99次調査は方格地割を構成する道路のうち、これまで少なくとも確実視されていた最も西側の道路である東から6本目の道路と、北から3本めの道路の交差点部分を調査し、この交差点からさらに西へ道路が延長するのかどうかを確かめ、さらに近鉄斎宮駅北側一帯で将来予想される史跡環境整備に資する情報を得ることを目的として4月5日から7月13日まで、740㎡を対象として実施した。

周辺の調査としては、先述の第93次、第95次調査が実施されてきており、E4°Nの方格地割の軸線に横方向を描いた平安時代初期の掘立柱建物S B 0241・0242などや、平安時代前期まで遡る可能性のある生垣S A 6645、それに並走する平安時代後期～末期のS D 0244やS D 6671など方格地割との関連を窺わせる遺構が多数見つかっている。その反面、平安時代前期から方格地割とは向きを異にする掘立柱建物もある。北方約100mの水田地で実施した第78次調査の検出建物は奈良時代古道に関わる溝に向きを揃える平安時代前期の掘立柱建物のみで、この一帯の土地利用の状況は複雑な様相を呈している。また、第95次調査で発見された延喜通寶を入



第2図 調査区位置図 (1:2,000)

れた土師器壺を埋納する平安時代中期のSX6666は墓塚等の可能性もあり、当地域の性格は依然不明瞭な部分が多いと言える。

調査区の現況は標高11.2m～11.5mほどの畑地で、北東に向かって緩やかに傾斜している。また、調査区の北側約5m先は0.9mほど落ち込んで水田となっており、土取りなどがあった可能性がある。遺構面は灰色系の耕作土と黒褐色壤土系の包含層を30cm～50cm掘削した下部の粘性の強い黄褐色土（地山）を遺構面として捉えた。遺構面は現地表面とはやや異なり、北西部で標高約11.2mと最も高く、南東で10.8m、北東部で10.7mと南東方向にも緩やかに傾斜している。

2. 遺構

遺構の分布は、調査区全体でも東部に溝が集中し、北部に径30cm～40cmを中心とする柱穴が極度に密集して検出された。遺構の時期は平安時代初期から鎌倉時代に至るまでのものがあるが、特に平安時代末期のものが量的に卓越している。

(1) 平安時代初期の遺構

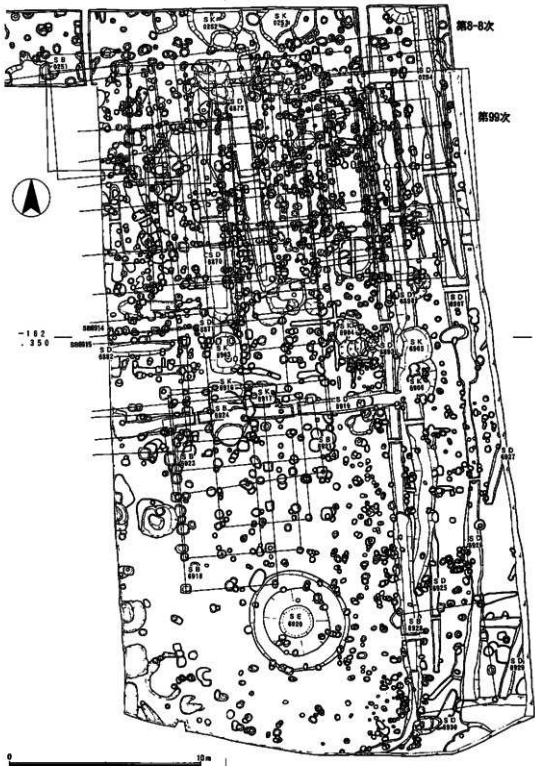
掘立柱建物1棟、土塚が2基ある。

掘立柱建物SB0251は第8-8次調査のMトレンチにかかり確認されていたものだが、今回3間×2間の規模である事が確定した。柱掘形は一辺1m弱と比較的大型に関わらず、柱間寸法は桁行、梁間とも1.9mと狭い。棟方向はN4°Wと、方格地割と同一である。

土塚はSK6903とSK6916がある。SK6903は、長径約2.2m、深さ約20cmの隅丸方形の土塚

		遺 構 の 種 別								
		SA	S B				S D	SE	S K	SX
平 安 時 代	初 期		0251						6903 6916	
	前 期		6915					6920	6917	
	中 期		6918 6922							6900
	後 期		6914 6921 6923 6924							
	末 期	6863	6860	6861	6862	6864	0254	6871	6876 6877 6899 6894 6895 6904 6905 6906	
			6865	6866	6867	6868	6872	6879		
6869			6873	6874	6875	6880	6881			
6878			6879	6883	6884	6882	6893			
6885			6886	6887	6888	6896	6907			
6889			6890	6891	6892	6919	6925			
6897			6898	6899	6906	6926	6927			
6909			6910	6911	6912	6929	6930			
6913			6931			6931				
鎌倉時代						6870				
時期不明		6928						6901 6902		

第2表 時期別遺構分類表



第3圖 遺構実測圖 (1:200)

で、杯・皿・壺・鉢・甕・瓶といった土師器類、杯・蓋・甕といった須恵器類が出土している。S K 6916はS K 6903の南約0.5mで隣接する3.0m×2.2m、深さ約30cmの長方形土塚で、土師器杯・皿・壺、須恵器蓋・甕、灰軸陶器碗や鉄滓が出土した。

(2) 平安時代前期の遺構

掘立柱建物S B 6915と井戸S E 6920、土塚S K 6917がある。

調査区西端中央で検出されたS B 6915は、西辺は調査区外に延びて全容は窺い知れないが、約2.4m間の桁行が3間、1.9m間の梁行2間の東西棟の南側に、約2.0mの出の庇が付くものとみられる。棟方向もE 4°Nに近く、依然方格地割の規制が残っている。柱穴から平安時代前II期の新段階の遺物が出土しており、9世紀後葉の建物と考えられる。

S E 6920は、遺構の分布の薄い調査区の南半で検出された。遺構面での検出段階では直径約5.2mの円形で、約30cmほど掘削した段階で幅の広い肩部をもって、直径3.2mの井戸掘形になる。遺構面から約2mの深さまで砂質を多量に含んだ黒色土に平安時代前II期新段階の土器片が多量に包含されている。灰軸陶器では黒笹90号窯式期～折戸53号窯式期までのものがみられる。最終的な埋没は10世紀前葉であろう。深さ約4mまでは比較的遺物の少ない埋土層が続き、約5m前後でオリーブ黒色砂質層から黒色シルト質壤土層になり、僅かな土器片が出土したが、期待された有機質の遺物は発見できなかった。遺構面下約5.6mの井戸底の上部層からは土師器壺の底部とみられるものが出土し、深さ4.5m程では前I期に属する土師器片も包含されており、掘削時期は前期以前に遡る可能性がある。なお、S E 6920は方格地割がここより西に拡がる時とみられる際に、東方からの東西道路（北から3番目の道路）の北側溝が延長してくると予想された部分だったが、この部分で平安時代前期の井戸が検出された事は、方格地割の道路の復元という点で問題を残したと言える。

土塚S K 6917は初期のS K 6916の東に隣接する1.4m×1.1m、深さ約20cmの方形土塚で、前II期の新段階に相当する土師器杯・鉢・壺、須恵器片が出土している。

(3) 平安時代中期の遺構

掘立柱建物2棟、不明土塚1基がある。

S B 6918は今回の調査区では最大の建物で、桁行10.5m、梁行4.8mの5間×2間の南北棟で、柱穴埋土から折戸53号窯式期の灰軸陶器碗が出土している。S B 6922は4間×2間の東西棟だが、S B 6918が方格地割と棟方向を揃えるのに対し、S B 6922はE 9°Nと異なった傾向を示す。

S X 6900は40cm×36cm、深さ約35cmの柱穴状の小土塚で、底部に土師器壺を正置し、その上部に土師器杯5枚以上が埋納されていた。壺内部には「延喜通寶」約9枚と骨片の可能性のある白色物が底部に見られ、その上に焼成されない径約3cmの白色粘土玉2個が入っていた。第

95次調査で検出されたSX6666とほぼ同一の内容を持ち、土器の形式からもほぼ同時期のものである。斎宮の平安時代中期に位置づけられてきた土師器類に、10世紀前葉（907年初鑄）の絶対年代を付与する資料が再度補強されたと言える。遺構の性格については、墓の可能性がまず考えられるが、胞衣壺や地鎮に関わる祭祀遺構の可能性も残されている。

（4）平安時代後期の遺構

掘立柱建物4棟がある。

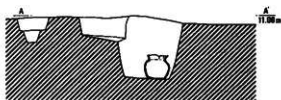
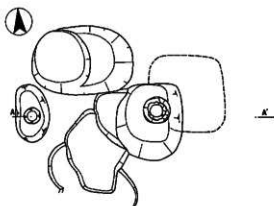
SB6914は調査区の中央西端で検出された5間×2間とみられる東西棟、SB6921は4間×2間の東西棟、SB6923は柱間2.0mの3間×2間の南北棟の身舎の東側に2.1mの出の庇が付くものである。SB6924は3間×2間の南北棟である。これらの棟方向はN

4°W～N5°Wあるいは、E5°Nと概ね方格地割の棟方向に沿うものである。柱穴埋土にはSB6923に後Ⅰ期～後Ⅱ期、SB6921とSB6924に後Ⅱ期、SB6914に後Ⅱ期～末期にかけての遺物が含まれており、それぞれ若干の時期差が認められる。

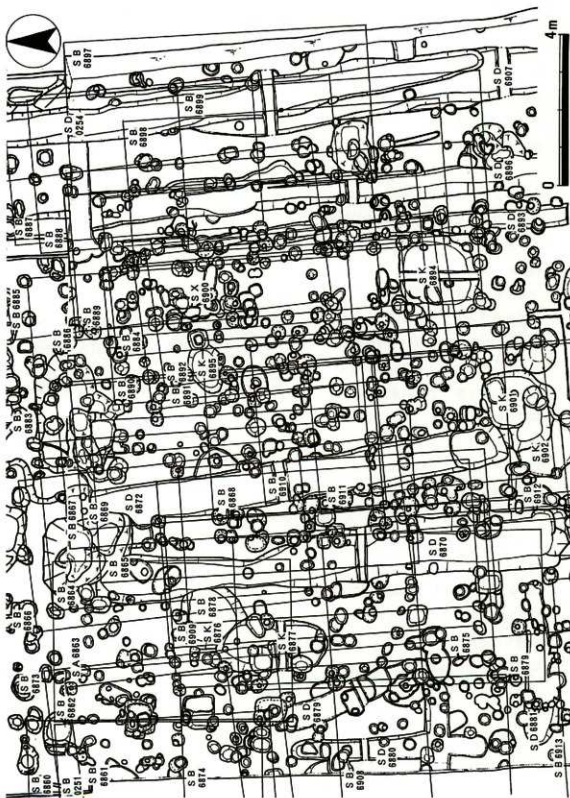
（5）平安時代末期～鎌倉時代初頭の遺構

当該期に比定される遺構が最も多く、掘立柱建物33棟、欄列1条、溝17条、土坑7基がある。

掘立柱建物は柱穴の径が30cm前後の小規模なものが大半で、4間×2間の南北棟が中心になる。煩雑になるために個々の記述は避けるが、タイプ別に分類すると、棟方向ではN1°Wが2棟、N2°Wが1棟、N3°Wが2棟、N4°Wが5棟、N5°WあるいはE5°Nが13棟、N6°Wが3棟、N7°Wが5棟、N8°Wが2棟で、すべて調査区北半に集中し、N4°WとN5°Wが約60%を占める。建物規模は最大規模の5間×2間のものが1棟、4間×2間のものが26棟、3間×2間が3棟、不明が3棟で79%が4間×2間のものである事が分かる。柱間寸法は1.9m～2.2mで、梁・桁の間にも統一性は認められない。建物の重複関係は詳細に全てを確認しきれないが、調査区北半の西側と東側でそれぞれ4～5群ほどが3～4回ほど建て替え



第4図 SX6900実測図（1：20）



第5图 調査区北部遺構実測図 (1:100)

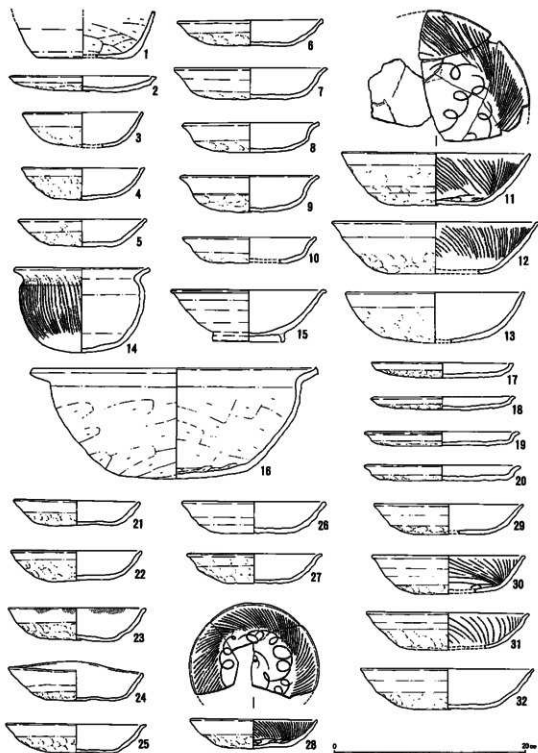
られているものと考えられる（例えば、S B 6890・S B 6891・S B 6892やS B 6884・S B 6885・S B 6886・S B 6889の関係など）。斎宮の土器編年観で平安時代末期を概ね12世紀代と捉えているので、単純にみると1軒あたり20年程度までの時間幅が想定できる。

次に溝についてみると、多くは調査区東部を縦断する南北溝と調査区西北の長さ10m強の南北溝、調査区中央部を東西に横断する溝がある。調査区東部の南北溝は、N 4° Wの方向を取り、今回の調査で検出が期待された方格地割に関わる南北道路の西側溝になるとみられるもので、S D 0254・S D 6893・S D 6896・S D 6907・S D 6925・S D 6926がある。この中で重複関係上最も古いとみられるものは最も西側のS D 6893で、幅0.3m～0.5mの断面U字形の溝が南に向かって広がりながら続き、調査区南端で再度収束して西南西に折れていく。溝底部の標高は10.7m～10.8mで高低差はほとんどない。埋土はやや粘性を持つ黒色土で土師器杯・皿・高杯・甕、土鍾、須恵器蓋・甕片の他、ロクロ土師器碗・杯や山茶碗が出土している。土師器類については、奈良時代の皿や平安時代前Ⅱ期の杯・甕が多数混入しており、平安時代末期とみられる土器類も古相のものである点から、S D 6893は少なくとも11世紀代以前には掘削年代が、11世紀末葉～12世紀初頭に埋没年代が想定できる。このS D 6893が調査区南端で西に屈曲する点は、その大部分が調査区外になるため明言できないが、この付近が東西道路と南北道路の交差点であった可能性を示唆していると言えよう。他の当該期の溝にこうした明確な屈曲部分は認められないものの、S D 6896は調査区南部で西にカーブしている様子が窺われ、S D 6927・S D 6929・S D 6930はN 15° Eほどでこれに向きを揃えている。これらの溝も12世紀末葉までこの部分に道路が曲がる地点＝交差点が存した可能性を示している。他の南北溝も、この道路側溝が道路の幅や位置を僅かずづらしながら数次にわたって掘削されたものとみられる。次に調査区西北部の溝をみると、南北溝ではS D 6872がN 12° Wと他の遺構とやや向きを違えるが、S D 6870はN 6° Wで一部の掘立柱建物と揃っている。また、東西溝S D 6919は幅90cm、深さ35cmほどの断面逆台形状の溝で、E 6° Nの方向をとってS D 6896に接続する。こうした溝は掘立柱建物群に伴う区画溝であると考えられる。なお、S D 6870からは常滑産の山茶碗が出土しており、13世紀初頭まで継続する可能性がある。

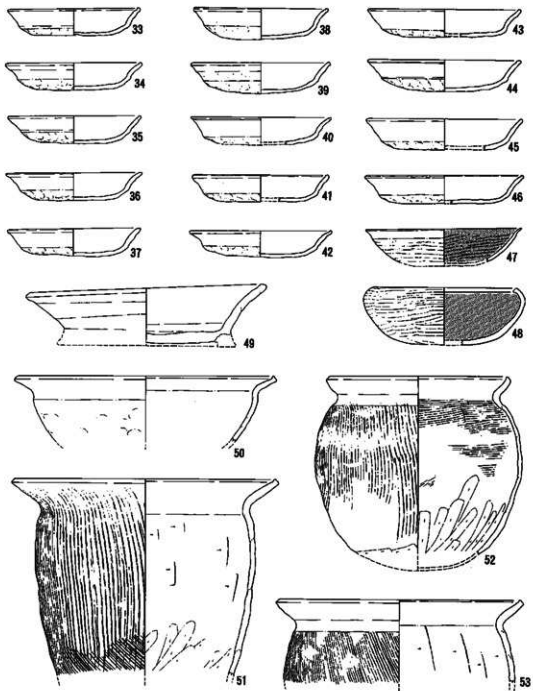
土坑も調査区北半に集まっており、楕円形ないし不整形を呈する。S K 6876からは灰釉陶器碗を模倣したロクロ土師器碗が、S K 6905からは「て」の字口縁の土師器皿が出土している点が注目されるが、この他にもこれらの土坑からは土師器杯・皿・甕片、ロクロ土師器杯類、山茶碗が出土している。

3. 遺物

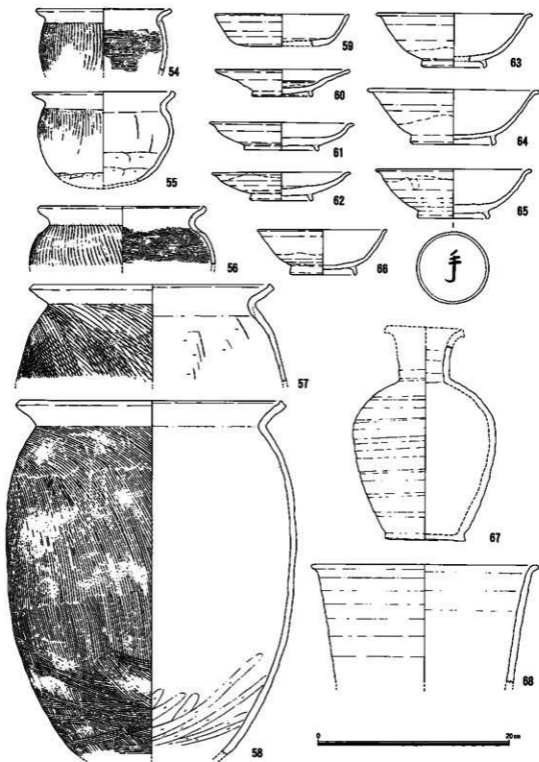
奈良時代から鎌倉時代にかけての土器類を中心に整理箱で72箱の遺物が出土している。この中でも最も多量の遺物を出土した平安時代前Ⅱ期の井戸S E 6920出土の主として土器類を中心



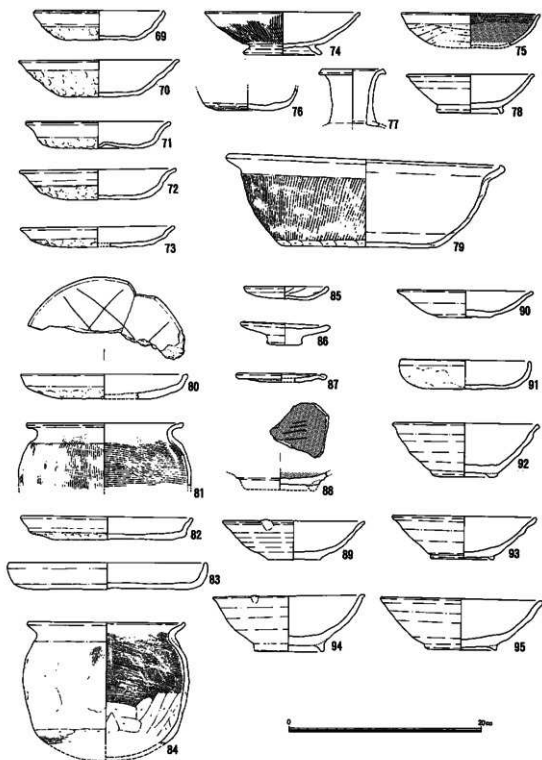
第6图 出土器物实测图 SE 6920



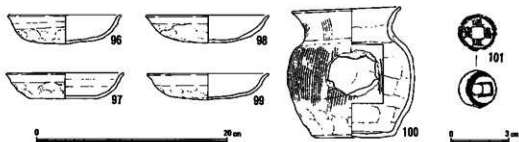
第7圖 出土遺物実測圖 SE6920



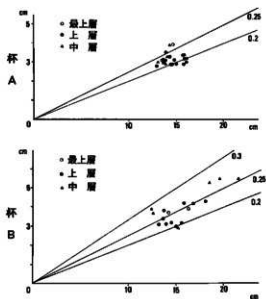
第 8 图 出土物实测图 SE 6920



第9圖 出土遺物実測圖 SE6920 : 69~79, SK6890 : 80・81, SK6914 : 82~84,
SK6875 : 85・86, SK6906 : 87・88, SD6870 : 89, SK6894 : 90,
SD6870 : 91~93・95, Q-39攪乱土城 : 94



第10図 出土遺物実測図 SX6900 96~100 (1:4), 101 (1:2)



第11図 SE6920出土土師器杯径高比

器 種	破片数	器種別比率(%)	類別比率(%)	
土師器	杯・皿・高杯類	1167	44.28	92.93
	竈・鉢類	81	3.07	
	甕・瓶・壺類	1137	43.16	
	製塩土器	63	2.30	
	土 鍋	1	0.03	
黒色土器	杯 類	14	0.53	0.53
須恵器	杯・皿・高杯類	13	2.04	3.53
	甕・壺類	80	0.49	
灰釉陶器	罎・瓦類	61	2.32	2.93
	甕・瓶類	16	0.61	
緑釉陶器	罎 類	2	0.08	0.08
総 計	2635	100.00	100.00	

第3表 SE6920出土土器構成

に報告したい。

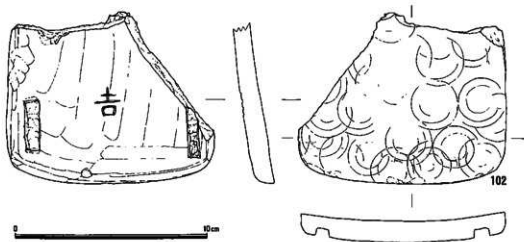
SE6920から出土した遺物の量は土器類で整理箱22箱になるが、破片数をもとに種別の出土量をみたのが第3表である。土師器の比率が90%を越えるのは斎宮における一般的傾向といえる。また、土師器の中でも供膳形態と煮沸形態がほぼ同率となっている。黒色土器類約0.5%、須恵器類が3.5%、灰釉陶器約3.0%の他に製塩土器が約2.4%含まれている点が留意される。出土遺物は遺構検出面から約30cm下の肩部までを最上層(69~79)、遺構埋土上部のうち遺構面から1.4mまでの上層(2~68)、1.4m~2.0mまでの中層、深さ5m付近の黒色砂壤土の下層(1)に分けた。このうち土師器杯類を口径と器高でみた分布図が第11図である。杯類で口縁が外方に屈曲してのびるものを杯A類、口縁部が内弯するものを杯B類としたが、中層では杯Aは口径13.5cm前後の中型品と16cm前後の大型品に分離できる。杯Bも口径20cm前後を越える

ような大型品、15cm程度の中型品、12cm～13cmの小型品に分離できる。上層では、杯Aは口径13cm～16cmの間にまんべんなく分布し、大中小の区別がやや困難になる。杯Bでも大型品が欠失するとともに、やはりサイズの区別が難しくなる。最上層の資料も量的に少なく混入の危険性もあるが、この傾向が進んでいると見ることができるだろう。暗文は杯Bの中型品以上に放射状暗文や螺旋状暗文が施されるが、再上層では認められない。共存する灰軸陶器は中層では黒笹90号窯式期の新段階の碗が、中層以上はこれに折戸53号窯式期の碗・皿類が加わる。

次にS X 6900の遺物についてみる。土師器杯5個以上、平底の土師器壺1個が小土塚に納められる。壺は胴部に径5cmほどの穿孔があり、内部には銅銭が9枚以上納められる。これらは腐蝕が進んでいるが数枚は「延喜通寶」と判読された。ここまでの内容については第95次調査のS X 6666と全く同様であり、土師器杯は同形式、同一のサイズである。先述したように木簡などの紀年銘資料が全く出土していない斎宮では土師器類に絶対年代の一点を付与する上で貴重な資料である。なお、壺内部に今回は未焼成の白色の粘土玉が2個入っていたが、内部の状態などは今後の非破壊検査に委ねたい。

その他特筆すべき遺物としては、須恵器猿面硯(102)がある。およそ1/2を欠失するが、視面にはスタンプの同心円によって青海波文を表現し、ケズリ調整によって平滑にされる背面には木製の脚が挿入されたとみられる臍穴が刀子状の工具で開けられる。また、背面の中央には「吉」の文字を線刻する。側縁部までていねいにケズリ調整され、木枠等に装着されていたものとは考えられない。猿面硯の出土例としては斎宮では3例目である。

墨書土器は3点あるが、鮮明なのは(65)の灰軸陶器碗で「手」と判読できる。(87)は所謂「て」の字口縁の土師器皿で、斎宮では僅かながら12世紀代まで散見される。胎土は精良だが、京都産のものとは考えられない。黒色土器(88)はロクロ成形の碗で、内面のみ黒化処理され



第12図 猿面硯実測図(1:2)

る。これまでロクロ成形のものは報告されておらず、斎宮では初出であろう。近江産の搬入品だろうか。(89)は須恵器の杯で、底部は糸切り痕が残る。口縁部には輪花表現が認められる。産地は今のところ不明である。緑釉陶器は79片出土しており、近江産、狭投産のものが多く、史跡中央部一帯の一般的傾向を示していると言える。また、明示していないが、調査区北半の各地から鉄滓が出土しており、フイゴの羽口も出土している。焼土などは未検出ながら鍛冶工房に関わる遺構が周辺に存在していたものと考えられる。

4. まとめ

今回の第99次調査は、昨年度の八脚門S B 6850の発見をうけて、方格地割の区画道路の交差点を確認する事で、方格地割の西方への広がりを探索する事を最大の目的として実施した。その結果、平安時代末期を主とする多数の南北道路の西側側溝は検出する事ができたが、御館・柳原地区から伸びてくると予想された道路側溝の想定部分で、平安時代前期の井戸が発見され、東西方向の溝も明確にする事ができなかった。しかしながら、この南北道路側溝のいくつかは西へ屈曲あるいはカーブする様子がうかがわれ、調査区の東南端から調査区外にかけて、当初予想されたよりも幅員の狭い道路がこの部分を巡っていたという想定ができ、また大半が平安時代末期に属するとはいえ、平安時代初期から多少の振れはあっても概ねN4°Wを基調とした軸線を持つ遺構が多い。第93次調査や第95次調査の成果と同様、土地利用の上でこの一帯に方格地割の規制が生きており、なおかつ今回の調査地では平安時代末期まで軒余曲折しながらも南北道路が存続し、現在の「斎王の森」の前から伸びてくる町道に引き継がれているものとみられる。以上の点は、方格地割が上園地区や内山地区にかけてさらに広がっていた可能性に対するささやかながら傍証となるものと考えられる。

S X 6900出土の遺物は、第95次調査のS X 6666と並び、10世紀前葉の実年代観を付与する点で斎宮の土師器編年に寄与するものは極めて大きいと言える。しかし、遺構そのものの性格は依然不明のままで、史跡斎宮内における当地域の意味付けの上での大きな問題は残されたままである。壺の内容物の分析など別の機会に譲る点もまた大きい。

調査区北半に密集して検出された平安時代末期を中心とする掘立柱建物群は、第95次調査の東南端で同様の遺構密度を持った部分が見つかっているが、これまでの斎宮跡の発掘調査ではこれほど平安時代末期の遺構が集中して検出された例は少ない。かねがね史跡中央部一帯には平安時代後半から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が卓越する点が指摘されてきている。今回の調査データのみでは、残念ながらこの地域の正当な評価には及ばなかったが、平安時代前半の方格地割の構造と内容の解明とともに、斎王制度終焉のこの時代の様相もまた古代史研究あるいは中世史研究の上での重要課題と言えよう。今後の再検討の機会に期したい。(大川勝宏)

IV. 第100次調査

6ABI-T (中垣内地区)

1. はじめに

第100次調査は、本年度第2回目の計画調査として平成5年7月8日から10月6日にかけて実施した。調査地は史跡西部の台地縁辺部にあたる大字竹川字中垣内423番地に所在し、斎宮歴史博物館の南方約500m、近鉄山田線北側の現況畑地に立地する。西側の段丘低位面は蔵川の沖積地で現況水田地帯となる。調査区は東西24m×南北12mを設定し、面積は280㎡である。

史跡西部の古里・中垣内地区はかつて古里遺跡と呼ばれ、斎宮跡発見の端緒となった地域であるが、これまでの調査成果から飛鳥時代～奈良時代と平安時代末期～鎌倉時代を中心とする遺構分布が顕著であり、弥生時代の遺構・遺物の存在も知られる地域である。

調査区周辺では、計画調査として昭和55年度第30次調査、昭和56年度第36次調査が行われ、飛鳥時代～奈良時代を中心とする竪穴住居・掘立柱建物等の遺構や三彩陶器・円面硯等の遺物が発見され、当該時期の斎宮跡を考える上では貴重な資料を得ている。また、昨年度実施した第97次調査では所謂鎌倉時代大溝と重複すると考えられた奈良時代大溝が現在山林となっている旧竹神社・小倉神社跡地内に延びていくことが確認された。

近年この地域では現状変更に伴う事前調査として小規模な調査が数箇所で行われているにすぎないが、調査区の西隣、平成2年度第85-8次調査では飛鳥時代の欄列S A 6280やそれに伴う掘立柱建物S B 6279が検出されている。また、線路を挟んで南側でも昭和60年度の第58-6次調査において飛鳥時代の欄列S A 4281・4282が確認されている。

今回の調査は、斎宮跡の成立期及び終末期を考える上でこれまで面的な調査が充分とは言えない状況であった当該地域の遺構・遺物の実態を解明するための資料を蓄積することを主たる目的とした。

2. 遺構

遺構検出面(地山)は現況表土面から60cm～80cm下で検出したが、調査区東辺で標高13.4m、西辺で13.6mと西から東に向けてやや傾斜している。基本層序としては上層より表土(褐灰色土)、遺物包含層(黒褐色土)、地山(黄褐色土)である。

主な遺構としては、欄列4条、掘立柱建物8棟、溝4条、土坑14基がある。東西溝を境として南半に欄列・掘立柱建物等の柱穴が密集し、北半には土坑が疎らに見られる。

(1) 弥生時代の遺構

土坑S K 6944～6946がある。S K 6944は深さ約20cm、直径約1.4mの円形土坑で南半分を検出した。S K 6945は2.8m×2.6mの不整形円形、深さは約60cmである。S K 6946は深さ約30cmで1.6



第13图 調査区位置图 (1 : 2,000)

m×1.0mの隅丸長方形を呈する。埋土からはいずれも弥生土器小片が出土した。

(2) 奈良時代前期の遺構

楕円4条、掘立柱建物8棟、溝4条がある。楕円 S A 6940～6943は調査区南部、東西方向でほぼ一直線上に重複しながら柱穴が並んでおり、柱列の方位はいずれも E 0°W を示す。

楕円 S A 6940の柱間はほぼ2.1m等間であり、東西方向で10間分を検出した。柱掘形は重複のため不明瞭だが、柱穴の直径は20cm～40cm、深さは40cm前後を測る。S A 6941の柱間は2.0m～2.2mとやや一定でなく9間分を検出したが、東端で検出した柱穴から南折する可能性をもつ。

楕円 S A 6942は柱間2.4m等間で S A 6940と重複して9間分確認した。S A 6940・6942は調査区外の東西に延びるものと考え、S A 6943は調査区の中央付近で終わっており、しかも北あるいは南に延びる柱穴は見られず楕円とした。柱間は2.7m等間で4間分を確認し、柱穴は直径約30cmで深さ40cm前後を測る。これらの楕円は出土した遺物が細片のため包含層・遺構上面で奈良時代前期の土器が比較的多いことを根拠に時期決定をした。なお、新旧関係は柱穴の切り合いより古い方から S A 6940→S A 6941→S A 6942→S A 6943と考えられる。

調査区南部で掘立柱建物 S B 6950～6955、北東部で S B 6956・6957を検出したが、桁行や梁行の総長が確認できないためその規模全体は不明である。また、柱穴からの出土物があまりに細片であるため詳細な時期決定は難しいが、棟方向はいずれも楕円に対してほぼ並行あるいは直交し、楕円と重複する S B 6951・6954を除くと同時期の可能性をもつ。

掘立柱建物 S B 6950は柱掘形が一辺約60cmの方形を呈し、深さ約60cm、柱痕跡は直径約25cmを測る。柱間は2.4mで東西1間分を検出したが、対応する柱列を確認できなかった。S B 6951は桁行2間以上×梁行1間以上の東西棟と思われ柱間は2.1m等間、桁行の柱列は楕円 S A 6941と重複する。

	遺 構 の 種 別			
	S A	S B	S D	S K
弥生時代				6944 6945 6946
奈良時代前期	6940 6941 6942 6943	6950 6951 6952 6953 6954 6955 6956 6957	6950 6951 6962 6963	
平安時代後期				6949
時期不明				6947 6948 6958 6959 6964 6965 6966 6967 6968 6969

第4表 時期別遺構分類表

S B 6952・6953は南北棟と考えられ、梁行2間分を検出し、柱間隔はそれぞれ2.1m、2.3mを測る。S B 6954は柱間2.1m等間で東西1間×南北1間を確認したが、柱掘形は一辺約50cmの方形で柱痕跡は直径約20cm、深さ約30cmを測る。S B 6955は柱間2.1mで東西1間分を検出した。柱掘形は一辺約60cmの方形で柱痕跡は直径約20cm、深さは45cm程である。S B 6956・6957は東西1間以上×南北1間以上を検出したが、柱間はそれぞれ2.1m、2.7mである。

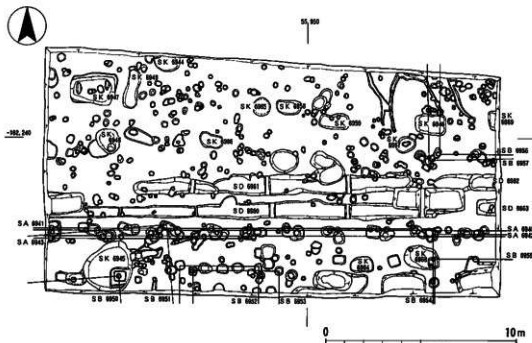
溝S D 6960～6963は調査区中央で検出した東西溝で横列S A 6940の北側に位置し、幅50cm～80cm、深さ10cm～30cmを測る。S D 6960は確認長20.5m、東へ約2mの間隔をおいてS D 6993が続く。S D 6961・6962はS D 6960のさらに北側約1.2mで並行し、確認総長はそれぞれ14.8m、3.2mである。出土遺物は少ないが、横列と並行することから同時期の可能性がある。

(4) 平安時代後期の遺構

土坑S K 6949は、2.0m×0.7m、深さ約30cmの南北に長い楕円形土坑で、土師器杯がほぼ完形で出土した。

(5) 時期不明の遺構

土坑S K 6947・6948・6958・6959・6964～6969がある。遺物としては弥生土器や奈良時代、平安時代末期～鎌倉時代の土師器及び山茶碗の細片が混在するなど時期決定が難しいものである。S K 6965は完掘できなかったが、深さ1.5m以上、直径1mの素掘りの井戸と考えられる。S K 6967は直径1mの不定円形で深さ40cmを測り、埋土には木炭片が多量に含まれていた。



第14図 遺構実測図 (1:200)

3. 遺物

第100次調査での出土遺物は遺物整理箱にして42箱あるが、遺構に伴うものは少なく大半が包含層からの出土で完形品は皆無に等しい。弥生時代の土器としては、前期から中期の壺・甕破片が少量出土しているが、前期後半（1～12）と中期前半（13～17）のものがある。飛鳥時代の遺物では、須恵器杯（18）と古相と考える土師器碗（19）がある。奈良時代前期に比定する土器（20～24）は出土遺物の中心となり、b手法による調整の土師器皿（21）・杯（22）がある。SD6960出土の杯B（23）は、口縁端部をヨコナデし、体部外面をヘラミガキ、内面は放射状と螺旋状2段の暗文を施したものである。また、平安時代初期から前期とみられる土師器（25～28）や平安時代後期の土師器杯（29・30）や灰釉陶器皿（31）が出土している。平安時代末期としては、山茶碗（32）、土師器皿（33）がある。特殊な遺物としては、緑釉陶器片3点、黒色土器片5点、青磁片3点、転用硯2点、その他ふいごの羽口及び鉄滓も出土している。

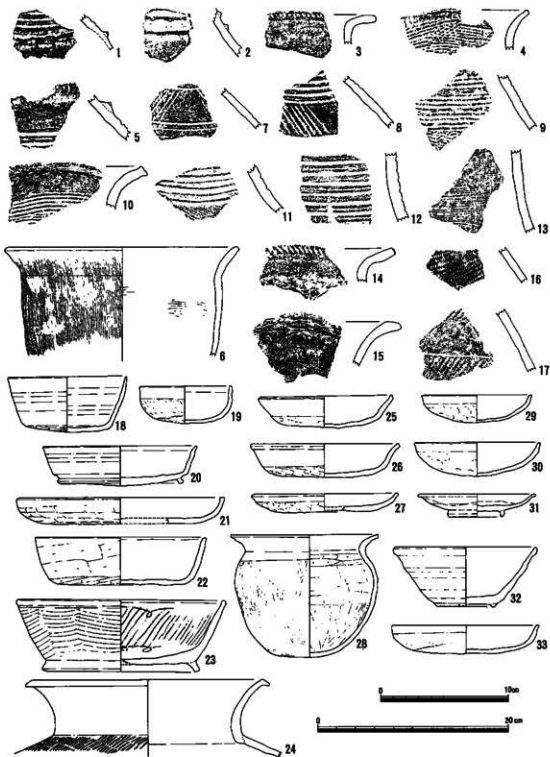
4. まとめ

中垣内地区を中心とした台地西辺部における遺構・遺物の状況等を知ることを主たる目的の一つとした今回の調査では、弥生時代前期から中期の遺構・遺物を確認した。周辺ではこれまで当該時期の竪穴住居が検出されているが、調査区の南西約800mに所在する金剛坂遺跡など蔵川にのぞむ台地西辺には弥生時代において小単位の住居群が点在する集落が営まれており、斎宮成立以前の当地域を解明する上でも貴重な資料となった。

今回検出された櫓列の柱通りは東西の方位とはほぼ合致するものであるが、調査区北側の古里・中垣内地区で確認された飛鳥時代～奈良時代の建物の棟方向はいずれも北に対して東や西に相当大きく振れるものが多く、竪穴住居から掘立柱建物への変遷が見られることが判明している。

これまでの調査結果では、第30次調査の奈良時代のSB1616・1620の棟方向はN37°Eを示し、SA1674はN31°Eの方位を持つ。第36次調査における奈良時代の掘立柱建物群の棟方向はN30°EからN19°Eへと変移する。調査区西隣、第85・8次調査のSA6280やSB6279の方位はN33°Eを示し、新旧関係よりSB6290の棟方向はN1°Eと移行する。また、近鉄線を挟んですぐ南側の第58・4次調査で検出したSA4281・4282はN1°Eである。

すなわち櫓列や建物の柱通りは飛鳥時代から奈良時代にかけてはN30°E前後→N1°Eへ、奈良時代ではN1°E→N30°E→N19°Eへの変遷が考えられる。今回奈良時代前期とした櫓列SA6940～6943の柱筋は東西方向のE0°Wを示し、N1°Eとの関連性が重要視される。したがって、これらの櫓列は飛鳥時代末から奈良時代初頭にかけて大幅な変換期を迎えることと、新たな櫓列による大規模な区画が構成されることが想定される。なお、これらの検証は今後の面的調査の展開に拠るところが大いだが、当該地区や古里地区を合わせた史跡西部一帯は、飛鳥時代～奈良時代の斎宮を解明するための重要な鍵を握るものと考えられる。（野原宏司）



第16圖 出土遺物実測圖 包含層出土：1～6，8～22，24～28，31～33 SK6945：7
SD6960：23 SK6949：29，30（1～5，7～17は1：3）

IV. 第101次調査

6 ADG (篠林地区)

1. はじめに

今年度3回目の計画調査は今年度史跡整備を予定している上園公園の北西の旧畑地の調査である。これまでの調査で確認されてきている史跡東部の方格地割は、昨年度の史跡現状変更に関わる第96-5次調査で八脚門 S B 6850 と横列 S A 6849 が発見されて東西の広がり最大で7区画までであった事が確認された。第101次調査は方格地割の南北方向が4列とみた場合、北西の隅と目される地点を調査し、方格地割の範囲を明確にする事を主たる目的として実施した。

これまでの周辺の調査では、東南東で第82次調査が実施されている。この調査では、調査区の北端で方格地割の北辺の区画溝 S D 0291 の延長部分の可能性のある S D 0136 と S D 5602 が確認されている。また南南西の第87次調査では、方格地割範囲に沿って S D 0207 が屈曲する事が確かめられている。これらの溝はいずれも鎌倉時代に埋没したもののだが、何らかの形で方格地



第16図 調査区位置図 (1:2,000)

割の規制を受けていたものと考えられている。今回の調査地には史跡範囲確認の際に実施した第8-1次調査のFトレンチがかかるが、平安時代の南北溝SD0083と鎌倉時代の南北溝SD0081、SD0082が見つかった。他の遺構としては史跡西部には一般的に言えるが、奈良時代や鎌倉時代のものが中心になる事も知られている。

第101次調査はこれらの成果を受けて、方格地割の北西隅と推定される部分の具体相の解明が期待された。調査は平成5年7月19日から10月13日まで、540㎡を対象に実施した。

調査地は標高10.8mほどの畑地であったものを公有化しており、0.5m～0.6mの掘削で遺構面に達する。遺構面は10cmほどの高低差で西から東に極めて緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦である。表土の下は砂質を含んだ黒色土の包含層で、飛鳥時代～奈良時代・鎌倉時代の遺物を多量に含み、緑釉陶器も27片出土している。

2. 遺 構

今回の調査では建物跡は全く発見されず、奈良時代～鎌倉時代の溝11条と道路とみられる遺構、鎌倉時代の墓3基が確認された。また、樹木の根の痕跡とみられる不定形の小穴が多数散在しており、倒木痕とみられる攪乱土壌もあるところから、以前は一時期林地となっていたものとみられる。

(1) 飛鳥時代の遺構

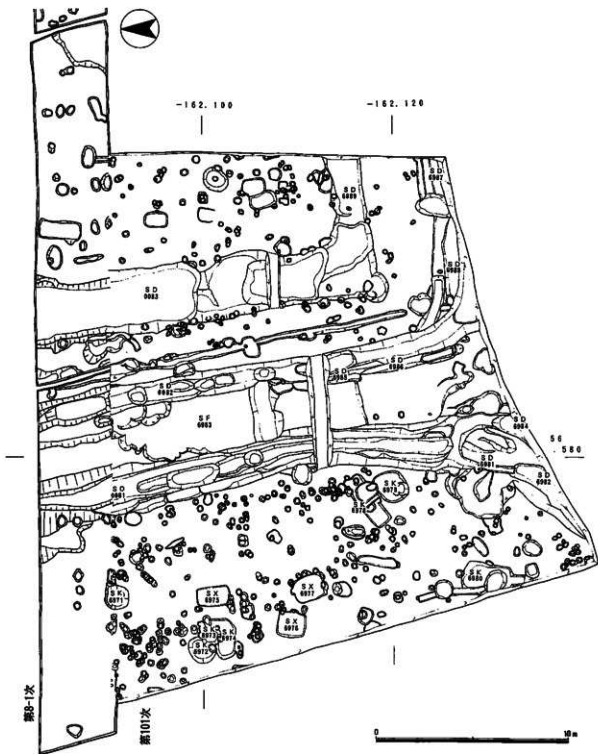
土坑S K6979がある。径1.7m×1.5m、深さは遺構面から約30cmで土坑内からは飛鳥時代後葉の土師器直口壺1個、甕3個体以上が出土した。近辺では第82次、第87次調査でも当該期の遺構は見つかっていない。

(3) 奈良時代の遺構

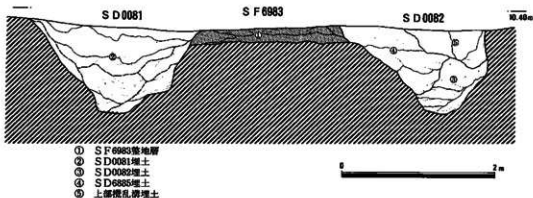
土坑S K6978は2.7m×1.0mの長方形の土坑で、深さは遺構面から約20cmである。遺物は少なく、須恵器片や土師器片がわずかにみられるのみだが、土師器皿にはb手法による調整が施されており、奈良時代でも後半のものと思われる。

		遺 構 の 種 別				
		S	K	S X	S F	S D
飛鳥時代		6979				
奈良時代		6978				
平 安 時 代	前期					6988
	後期					0083 6987 6989
	末期	6972 6973 6974				6981
鎌倉時代		6971 6980		6975 6976 6977	6983	0081 0082 6982 6984 6985 6986

第5表 時期別遺構分類表



第17圖 遺構実測圖 (1 : 200)



第18図 S D 0081・0082・S F 6983断面図(1:50)

(4) 平安時代の遺構

土坑3基、溝5条がある。以下時期別にみていく。

平安時代前期では道路側溝と考えられる東西溝 S D 6988がある。遺構埋土は漆黒色で、幅は80cm以上、断面は緩やかな逆台形状になる。遺物は少なく土師器杯・甕片や須恵器甕片が僅かにみられ、埋没は平安時代前II期(9世紀後半)、掘削はさらに遡るものとみられる。現農道に沿って素王の森の方向へ直線的に伸びて第8次調査Fトレンチと繋がると考えるならば、第82次調査の S D 5604や S D 5605など、平安時代後期とされる溝と溝心間で約6mの間隔を持つ東西道路が延びていたものと考えられる。

後期では道路側溝とみられる溝が3条ある。調査区の東部をL字状に掘削された S D 0083はそのまま S D 6989に続き、東にのびていく。後述する鎌倉時代の S F 6983の東側溝 S D 0082などに先行する溝の可能性はある。幅3.4m~2.0m、深さ40cmほどの浅い溝で、埋土は黒色土である。調査区内での溝底の高低差はほとんどない。東山72号窯式期の灰軸陶器碗の他、土師器杯・皿、須恵器片、土錘が出土しており、これらの遺物から後I期(11世紀前半)に埋没時期が求められる。この東方での延長部分と考えられる溝が第8次調査Fトレンチの S K 0133と繋がるとみると、第82次の S D 0136や S D 5602と溝心間で9.4m、肩間で約8.0m幅の道路が想定できる。S D 6987は S D 6988に重複するほぼ同規模の溝で、灰軸陶器模倣のロクロ土師器碗や土師器片が出土しており、後II期に相当するものとみられる。

末期では土坑3基、溝1条がある。

S K 6972・6973・6974は調査区北西部の土坑で、重複関係からは S K 6974→S K 6972→S K 6973の順になる。いずれも不整楕円形で S K 6972からは土師器片が、S K 6973からはロクロ土師器杯片や土師器小皿・鍋、瀧英産とみられる山茶碗・山皿が、S K 6974からは土師器片が出土しているが、遺物の上では時期差は看取できない。溝では道路側溝と考えられる S D 6981が

ある。鎌倉時代に埋没するS D 0081などの下部で確かめられた検出幅35cmほどの溝で、山茶碗片、青磁片、土師器鍋片が出土した。

(5) 鎌倉時代の遺構

土塚2基、中世墓3基、溝6条、溝に面される道路遺構がある。

S K 6971とS K 6980は調査区の北西端と南西端で検出されている。S K 6971は直径1.3m、遺構面からの深さ約30cmの円形土塚で、土師器片が出土しており鎌倉時代のものとみられるが、詳細な時期は判別できない。S K 6980は長径2.8m、深さ約25cmの土塚で、土師器鍋・皿・小皿が出土した。伊藤裕偉²⁾氏の分類で第Ⅱ段階c型式の土師器鍋が含まれ、13世紀後葉から14世紀初頭のものと考えられる。

中世墓S X 6975は長辺1.8m、短辺1.0m、深さ25cmで、北側に古瀬戸施陶器碗片1片、土師器鍋1点・皿4点・小皿1点・鉄製刀子1本がかためて埋納され、土師器皿(7)は鍋(10)の中に入れていた。遺物から13世紀前葉に属するとみられる。S X 6976とS X 6977はS X 6975の南2.5m～3.0m離れたところに隣接して掘削されている。いずれも長辺1.5m～1.6m、短辺1.3m、深さ30cm～40cmで、S X 6976からは土師器皿3点、小皿2点が、S X 6977からは土師器皿1点、小皿6点、鉄製短刀1本が墓塚の北あるいは北西にかためて埋納されていた。この2基の遺物はいずれも13世紀後葉から14世紀初頭のものともみられ、時期差は判断しがたい。

溝はいずれも道路側溝と考えられる。S D 0081とS D 0082は道路遺構S F 6983の東西の側溝で、断面はいずれも弱いV字状を呈する。埋土から数次の掘削および堆積が認められるが、径5cm～7cmの円礫や砂質を多量に含む黒褐色土で、溝底はS D 0081で9.3m～9.0m、S D 0082で9.5m～9.3mで北から南に傾斜している。S D 0081は南で緩やかに南西にカーブして一度溝底が持ち上がった後、S D 6982やS D 6984に繋がる。さらにS D 6982は調査区外で再び南に方向を変えて第87次調査のS D 0207に続くものと考えられる。ただしこのS D 0207は逆に南から北に傾斜しており、これらの溝は道路側溝あるいは区画溝の性格が強い事が看取される。S D 0082も南でS D 6985に続き調査区南端で大きく東に折れ、現農道に沿って続くものとみられる。これらの埋土内の遺物には土師器皿・小皿・鍋、ロクロ土師器杯、山茶碗、常滑産陶器変片などがみられ、最終の埋没年代は13世紀後葉から14世紀初頭の中で考えられる。

道路遺構S F 6983は地山面まで掘削したため、遺構面に凹凸があるが、この上面には土器片や径約15cmの亜角礫による整地層がある。道路幅は両肩間で2.8m～3.0mで側溝底からの高低差は1m前後となる。遺物は磨耗が著しい物が多く、高杯・変片などの土師器片、ロクロ土師器片、瀬美産とみられる第7型式の山茶碗や須恵器片が混在し、この整地層は道路側溝の最終埋没時期に近い13世紀後葉から14世紀初頭に位置付けられるものとする。因みに道路の方向はN10°Wほどと想定され、方格地割とは様相を違える。

3. 遺物

今回の調査では整理箱で23箱の遺物が出土している。ほとんどが土器類で、包含層からの出土が多く、溝からの出土はあまり多くはないが、中世墓と一部の土塚からはまとまった資料があり、これらについて述べたい。

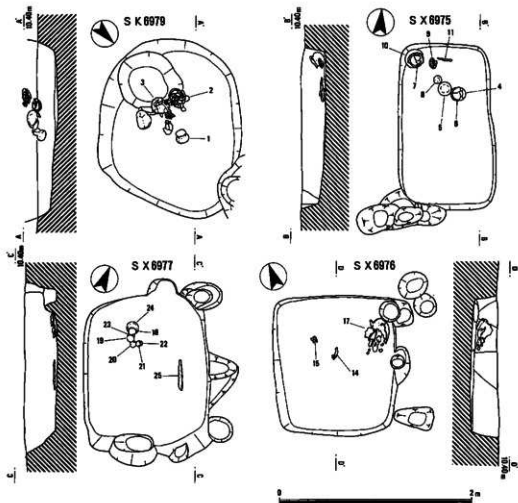
S K 6979からは飛鳥時代の遺物がある。いずれも土塚の底部からは浮いた形で出土しているが、図示した資料は共時性の高いものとみられる。土師器直口壺(1)は器表面を細かいハケメで調整するが、緻密な胎土で精良なつくりである。6世紀代の資料は南勢地方でも伊勢市豊河古墳・南山古墳、多気町河田古墳群など古墳出土の資料が認められるが、7世紀代には少なく、近辺では明和町北野遺跡で出土しているのみである。共存する土師器甕(2・3)は円形のもので口縁部が強く外方へ屈曲し、概ね球形の体部で飛鳥時代でも後葉のものともみられる。

奈良時代の遺物は比較的少なく、包含層から土師器杯・皿片などが見られるにすぎない。

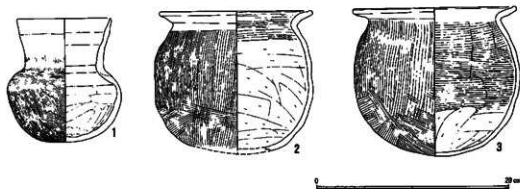
平安時代の遺物も包含層からの出土が大半で土師器、灰釉陶器がある。また緑釉陶器が比較的少量に出土しており特筆できる。灰釉陶器は折戸53号窯式期から東山72号窯式期にかけての碗・皿がある。緑釉陶器は27片あり、近江産とみられるものが顕著だが、被投産とみられるものも少量ある。土師器は杯・皿を主とするロクロ土師器を含んだ平安時代後期のものが主体となり、全般に10世紀～11世紀の遺物が大半を占めている。

鎌倉時代の遺物は今回の調査では最も多量に出土しているが、まず3基の中世墓からの出土品があげられる。S X 6975からは最も豊富な資料が出土しており、土師器皿・小皿・鍋、古瀬戸施釉陶器碗片、鉄製刀子がある。土師器鍋(10)は伊藤裕偉氏の編年で第Ⅰ段階b型式に相当し、また土師器皿(4～7)は口径13.6cmほどのものと15cmを越えるものがあり、第49次調査のS X 2990に相当する時期のものともみられることから、13世紀前葉に位置付けられるであろう。古瀬戸施釉陶器(9)は2分の1ほど欠失した状態で埋納されたもので、淡緑青色の灰釉が内外面に施される。

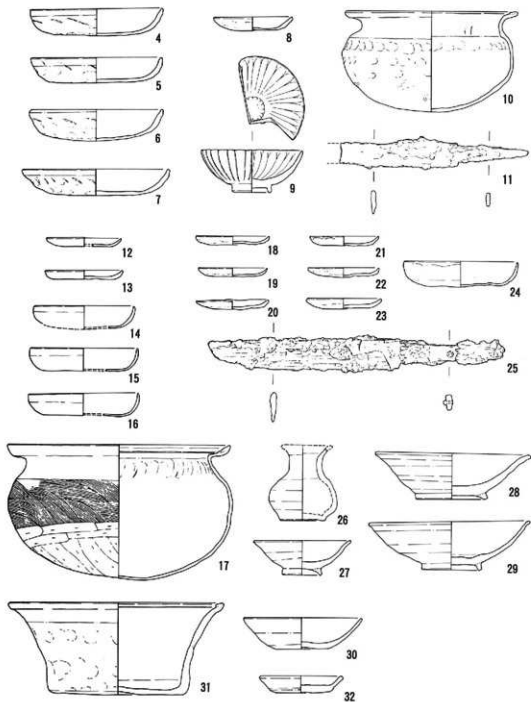
S X 6976からは土師器皿・小皿・鍋が、S X 6977からは土師器皿・小皿と鉄製短刀が出土している。これらの土師器皿は口径10.2cm～11.8cmで口縁部がやや内弯気味に立ち上がるもの、小皿は口径7.2cm～8.0cmで、口縁端部をやや上に引き上げてまとめるもので、S X 6976の鍋も伊藤氏の分類の第Ⅱ段階c型式に相当すると考えられ、13世紀後葉～14世紀初頭のものともみられる。S X 6976とS X 6977の間には遺物の上でも時期差はほとんどないものとみられる。鎌倉時代の遺物はこの他にS F 6984の路面整地層から磨耗した多量の手茶碗類が、またこの両側溝S D 0081・0082などからも山茶碗、土師器皿・鍋片が出土しているが、これらも13世紀後葉～14世紀前葉のものともみられる。その他の遺物としては無釉陶器の小瓶(26)や灰釉陶器模倣のロクロ土師器碗(29)が目される。また粗製の土師器鉢(31)は13世紀後葉以降のものとも考



第19圖 土坑·中世基突刺圖 (1 : 40)



第20圖 出土遺物突刺圖 SK 6979



第21圖 出土遺物実測図 SX6975: 4~11, SX6976: 12~17, SX6977: 18~25, SD6984: 26~27, SK6973: 28, SF6983: 29, SD0081: 30, 包含層31・32

えられるが、類例が知られない資料である。

平安時代末期～鎌倉時代の特殊遺物とされるものとしては、他に中国陶磁器類があり、白磁片2点、青白磁片2点、青磁片4点が出土している。

4. まとめ

方格地割の北西隅の確認を目的とした第101次調査であったが、明確には平安時代前半の道路角や交差点を見出す事ができなかった。しかし、鎌倉時代の終わり頃には埋没あるいは廃絶した道路やその側溝が調査区の南側で東と東南東に分かれていく事から、この時期には道路交差点が存在していた事が窺われ、間接的ながらこの周辺が少なくとも鎌倉時代以前まで遡って「角」の意識が持たれていた事、その道路「角」はやや位置を西へずらして現在の農道の交差点にまで生き続けている事は判明した。また、道路側溝とみられる平安時代前期のS D 6988やS D 0083・6989などが残る事から、この「角」の意識はさらに遡及できる可能性は充分にある。

方格地割の北西地域では、第78次調査などでみられるように、史跡を北西から南東に横断する奈良時代古道の影響もまた根強く残る地域として知られている。また、今回調査地の南方の第49次調査などでも方格地割の規制はむしろ希薄であるといえる。しかしながら、こうした複雑さの解明という課題は残されたものの、今回調査地の一角が地割りのコーナーの部分である事はほぼ判明したと言えるだろう。

最後に中世墓についてふれたい。今回発見された3基の中世墓他にも周辺では第49次調査のS X 2990（13世紀前葉）、第50次調査のS X 3084（平安時代中期）、第93次調査のS X 6533・6534・6537（13世紀中葉～後葉）などの墓遺構が見つかっている。こうした遺構はその性格上齋宮とは相いれないはずのものであるが、現在までのところ齋王制度廃絶後の14世紀中葉以降に入る墓遺構は見つかっていない。これは建物などの遺構でも共通して言える点で、こうした墓であっても齋宮の消長とは何らかの関連があった可能性は考えられる。墓の規模・性格あるいは分布について今後再検討が必要であろう。

（大川勝宏）

注) 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』Vol. 1 1990

V. 第103次調査

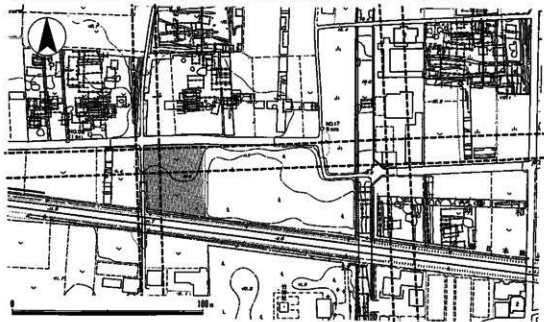
6AEQ-A (柳原地区)

1. はじめに

史跡斎宮跡東部に東西7列南北4列まで想定されている方格地割の中でも、第44次、第46次、第98次調査などで大規模な欄列や大型の掘立柱建物などが発見され、鍛冶山地区を含む区画が平安時代前半の斎宮の極めて重要な部分である事が判明してきている。そしてその西隣の区画も、式内社竹神社が鎮座する事からも重要なポイントである可能性が考えられてきた。

この一帯では、第19次、第20次、第28次、第55次という一連の御館・柳原地区の調査で、二面庇の大型掘立柱建物などがL字形に配置されたり、多数の建物が重複して建て替えが行われた様子が窺われ、竹神社のすぐ北側の区画では官衙として重要な部分があった可能性が指摘されてきている。しかしながら、竹神社を含む区画そのものの調査は、大半が近鉄山田線の南側に入り、近世の参宮街道沿いの住宅密集地にもかかる事から、広域園道建設に先立つ第10次調査や第44次調査の一部で調査された以外はほとんど資料の蓄積がない。

しかし、これまでの僅かな調査の中でも、第44次調査区の西半部で方格地割を構成する幅約13.7mの南北道路とその内側の区画東辺を画する柱間約3mを測る大型の欄列SA2655が見つかっており、方格地割内でも一部でしか同様な欄列が見つかってきていない点は、この竹神社を含む区画が斎宮において重要なポイントである事を示唆しているとみられる。



第22図 調査区位置図 (1 : 2,000)

第103次調査は、この竹神社を含む区画の情報、就中、区画北西の東西・南北の道路交差点の検出と、先述の第44次調査のS A 2655に対応する北辺、西辺の横列を確認し、この区画の性格を解明する事を目的とした。調査は、柳原地区の農道と近鉄線に沿って1,170㎡の調査区を設定し、平成5年10月4日から平成6年1月25日にかけて実施した。現況は標高約10.7m~11.1mで、南から北へ緩やかに傾斜している。黒褐色系の表土と包含層は比較的薄く、調査区北で約30cm、南でおよそ40cm~60cm掘削した段階で認められる橙色から黄褐色の粘性が強い洪積層(地山)を遺構面として捉えた。遺構面は標高10.5m前後でほとんど起伏差がない。

包含層は調査区の北半では多量の粘土質や直径5cm前後の礫を含み、遺物の出土はほとんどみられないが、南半では奈良時代から平安時代後期の土器類が含まれていた。

2. 遺構

遺構は、奈良時代後期から鎌倉時代までおよび、堅穴住居1棟、掘立柱建物23棟、溝26条、土坑12基を検出した。調査区の北半と西3分の1に東西と南北の道路遺構が広がり、東南部の面積にして4分の1ほどに建物跡などの多数の遺構が密集する。この部分の標高は10.2mで、やや下がるが、その他は全体に10.4m~10.5mでほぼ均平である。

(1) 奈良時代後期の遺構

堅穴住居S B 7045が調査区の南端で検出された。南辺が調査区外に伸び、東側にS K 7046が重複するため全体は窺い知れないが、一辺約4mの方形プランになるものとみられる。遺構面からの深さは約40cmで、土師器杯・皿・把手付鍋、須恵器杯・無台杯・蓋など床面から浮いた状態だが比較的多数の遺物が出土している。柱穴やカマド等の施設は検出されなかった。

		遺 構 の 整 別				
		S A	S B	S F	S D	S K
奈良時代			7045			
平 安 時 代	初期	6999 7000		6990 7010		7046
	前I期		7050		6991 6992 7003	
	前II期	7016	7020 7024 7033 7047 7049		7004 7032 7034 7035	7008 7017 7039 7053 7055
	中期		7018 7019 7021 7023 7025 7028		6995 7009 7011 7036	7030 7040
	後I期		7022 7026 7027 7037 7038 7041 7042 7043 7044		7012 7013 7014 7015 7054	
	後II期		7048		6993 6994 7005 7006 7007	7029 7031
	末期					7051 7052
鎌倉時代				6996 6997		
時期不明				6998 7001 7002		

第6表 時期別遺構分類表

(2) 平安時代初期の遺構

この時期に成立したと考えられる道路遺構と柵列2条、土塚1基がある。

調査区北半の東西道路SF6990と南北道路SF7010は平安時代初期に成立したと考えられている方格地割の区画道路である。後述するが、側溝は埋没時期が平安時代の前I期から後期にわたるが、後II期にはSF7010にはSD7005やSD7007が、末期にはSF6990の中央部には土塚SK7051とSK7052が掘削されるなど、調査区内では廃絶していったようである。しかし、その後も東西道路は北へ、南北道路は西へ幅員を狭めて現代の農道に継承されている。道路面はSF7010は後世の攪乱のため詳らかではないが、SF6990は他の遺構が比較的に少ないため、明瞭に観察される。なおSF6990の遺構面上は、径2cm～4cm程度の重円礫や固結した粘質土が5cm～10cmの厚みで覆っていた。

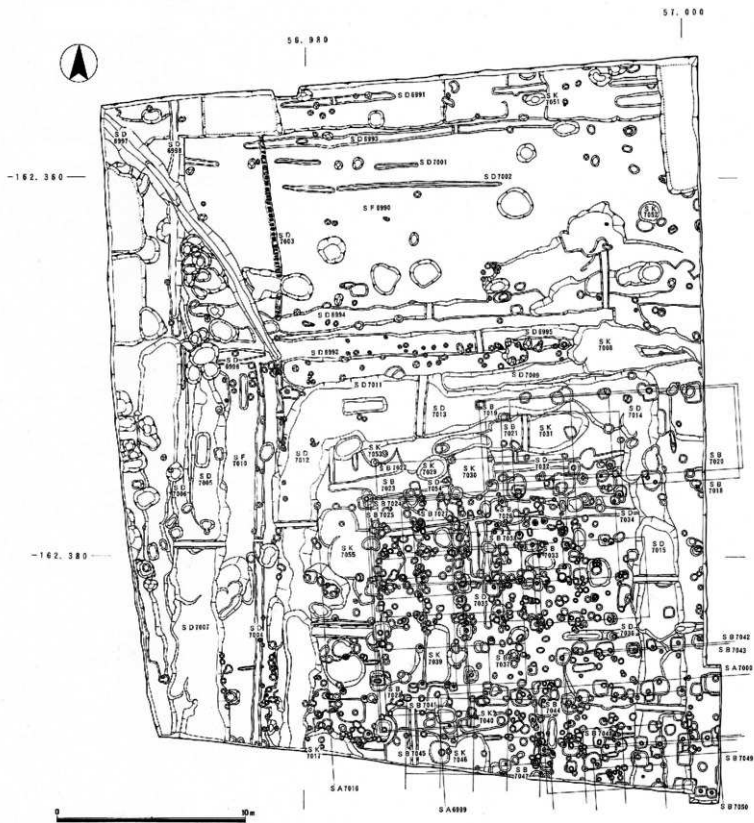
柵列はコーナー部分を挟んで東西方向と南北方向の調査区外に伸びている。SA7000は東西に5間、SA6999は南北に1間分が検出された。いずれも柱穴の掘形が一辺1.1m～1.3m、柱痕跡は直径約40cmを測る。柱間寸法はSA7000、SA6999いずれもほぼ3mを測り、平安時代初期の基準尺のひとつと考えられている1尺=0.296mでみると1間10尺の規模といえる。これは第44次・第46次・第88次・第92次・第98次調査で確認されている鍛冶山地区のSA6760・6770等、第83次・第84次調査でのSA5840、第70-3次・第96-5次調査のSA5110・6849と同等の規模を持つ極めて大型の区画施設であり、平安時代初期のうちに廃絶すると考えられるものもある中で、当地区では前I期までは存続していたものと考えられる。

調査区南端で検出されたSK7046は、短径で約2m、遺構面からの深さが約60cmの楕円形土塚で、土師器杯・高杯・甕、須恵器甕が出土している。

(3) 平安時代前I期の遺構

調査区南東端で検出されたSB7050は、柱穴2個が調査区東壁にかかって検出されたのみだが、柱穴掘形は一辺約1mの大型建物であろうか。E4°Nの棟方向を取り、先述のSA7000などと共存していた可能性もある。

溝は3条あるが、このうちSD6991とSD6992はSF6990の側溝となるものである。北側溝SD6991は後世の攪乱・削平を受けているため断続的に確認され、南側溝SD6992は平安時代中期のSD6995に北肩を掘削されているがいずれも幅約50cmで、概ねE3°Nの方向を取る。SD6991は溝底高が10.1m～10.3mと東へ緩やかに傾斜するものの、SD6992にはほとんど溝底の高低差がない。この溝によって画される道路の規模は、2条の心々間で約13.3mを測り、平安時代初期で基準尺とみられる1尺=0.296mでみると道路幅の規格は45尺とみることが出来る。また、SF7010の東側溝となるものにSD7003がある。幅は約30cmと細く、溝底高はおよそ10.3cm～10.4cmと緩やかに北へ傾斜している。長さ約16m分を検出したが、平安時代後I



第23回 遺構実測図 (1 : 200)

期のSD7012に南部は掘削されている。なお、この溝底には10cmほどの間隔で掘削時の鋭先痕とみられる窪みが連続して残っている。SF6990の中央部で北と南に分かれて溝の掘削を進めた様子が窺われ、掘削後短期間のうちに埋没したものとみられる。これら3条の道路側溝は埋土に含まれる土師器片から埋没時期を前I期に比定できるが、掘削時期は平安時代初期まで遡らせて考えられるだろう。

(4) 平安時代前II期の遺構

掘立柱建物5棟、欄列1条、溝4条、土竈5基がある。

SB7020とSB7024はL字形配置で共存した建物と考えられ、SB7020は東辺が調査区外へ延びているものの、両者共5間×2間の規模を持つものと考えられる。SB7020南側柱とSB7024の北妻柱はその柱筋を揃えており、共通の計画性を窺わせる。SA7016はSB7024の西側に2.8mの間隔をおいて並列する欄列で、検出された北端の柱穴もSB7020とSB7024のラインに揃い、2棟の建物と共存した施設と考えられる。これらは柱穴の遺物から前II期でも新段階のものとみられる。なお、平安時代初期に作られた大型の欄列SA7000・6999は当該期までには消失している。SB7033は東辺の柱列をSD7015に掘削されているが、3間×2間の東西棟とみられる。この建物の周囲には、柱筋から約2mおいて西側に、約1.5mおいて北側に雨落溝とみられる幅50cm～70cmのSD7034とSD7035が巡る（これらの最終的な埋没時期は平安時代中期～後I期）。柱穴内の遺物は前II期の古段階のもので、SB7020・7024に先行するものとみられる。調査区南端のSB7047は東西で1間分まで、SB7049は2間分が検出された。いずれも東西棟と考えられるが、桁行の柱筋を揃える事、柱間寸法が2.4mと共通である事から、相互に関連の強い建物とみられる。ただし柱掘形の規模はSB7047で一辺約70cm、SB7049で約1mと格差が認められる。

溝SD7004はSF7010の東側溝SD7003を踏襲した溝と考えられる。幅約50cm～60cmで、溝底の高差はない。土師器杯や灰陶陶器片が出土しており、前II期新段階に埋没している。ほぼ真北に向き、SD7003とはやや異なる方向を取る。SD7032もE6°NとSD6992などとやや異なる。幅約50cmで、前II期新段階の土師器杯・皿などの大型破片が埋土に混入する。

SK7008・7017・7039・7053・7055はいずれも円形あるいは不整形の土竈だが、特に調査区南端のSK7017は長径約3mの不整形の土竈で、北半分を検出した。前II期新段階の土器が大量に投棄されており、整理箱で17箱の土器が出土した。大半は土師器で、杯・皿・鉢・甕と若干の須恵器片、木炭片がある。

(5) 平安時代中期の遺構

掘立柱建物6棟、溝4条、土竈2基がある。

SB7018とSB7025は前代のSB7020・SB7024が建て替えられたもので、いずれも5間×

2間の規模を受け継ぐものとみられる。さらにSB7028はSB7025の敷地を踏襲している可能性がある。なおSB7028の柱穴からは折戸53号窯式期の灰釉陶器碗を模倣したとみられるロクロ土師器碗が出土している。SB7021はSB7018に重複して建てられた3間×2間の身舎に南面庇を持つE2°Nの東西棟で、SB7018のE4°Nとはやや棟方向は振るものの、位置的にはSB7028と対応する関係にあるものと考えられる。SB7019は5間×2間の南北棟の身舎に東面庇を持つものである。SB7023もSB7025のプランに重複するが東西棟に変化し、SB7019に後出するものである。

溝では前I期頃に埋設したSD6992を踏襲するSD6995と、E6°Nとやや向きを変えて掘削されたSD7009・SD7011がある。後二者の埋土には若干のロクロ土師器が混在し、中期から後I期にかけて存続したものであろう。SD7036は幅60cmの溝だが、深さは10cm～30cmで部分的に落ち込み状の部分がある。

SK7030は2.4m×2.9mの円形土壇で、遺構面から約30cmの深さがある。整理箱で20箱出土した遺物の大半が土師器杯で、他に皿・鉢・台付鉢・壺と僅かに灰釉陶器碗・皿、須恵器片がある。検出した段階で数枚がまとまって投棄された状況がみられ、また大まかなブロックを想定して遺物は取り上げた。中期の古い段階から新段階にかけての形式幅が想定される。調査区南端のSK7040は2.7m×0.9m、深さ約30cmの長楕円土壇で、ここからも整理箱で9箱の土器類が出土した。遺物の上ではSK7030より新相で、中期の新段階に属するものである。

(6) 平安時代後I期の遺構

掘立柱建物9棟、溝5条がある。

SB7022は先代のSB7023を規模を縮小して北へずらす形で建てられている。SB7026は3間×2間の東西棟で、これらは柱穴が直径30cm～40cm程度の小規模なものになる。調査区東南部のSB7042とSB7043は建て替えの関係を持つ。東辺が調査区の外へ続くが、(3)間×2間で柱穴の掘形は90cm×70cmと当該期の斎宮においては大型建物と言える。SB7042は柱間が2.4m取られ、規模などの点から前代に近く、中期末葉～後I期前半にかけての間に存続したものとみたい。なおSB7042が先行し、SB7043は桁行の柱間寸法を約2.0mに縮小される。SB7044も4間×2間で、桁行の柱間が約1.9mとSB7043に近似する点からSB7043に後出するものとみてよいだろう。これら5棟の東西棟は、いずれもE3°～4°Nに桁行の柱筋を揃え、方格地割の区画が意識されている。この他に4棟の総柱建物がある。SB7037は4間×3間の身舎の南側に3間分の庇が付くもので、比較的大型の総柱建物と言える。2間×2間のSB7027とSB7038は全く同一の規模を持つ。重複関係はないが、柱穴埋土の遺物からSB7038が先行するものと考えられる。調査区南端のSB7041も4間×(2)間の総柱建物で、N1°Eの棟方向を取り、当区画内において方格地割の遺制がこの段階で弊えた事を示すと思われる。SB

7037等との先後関係を示す証左は無いが、この点からS B 7041は後I期でも最後出のものとして捉えておきたい。

S D 7012・7013・7014・7015はこれまでの建物密集地を「コ」の字形に囲むように掘削されている。幅が約2.0m～2.7m、深さは遺構面から30cmほどで、断面が浅いU字形を呈する。溝底の高低差は顕著ではない。この溝によって画される範囲は東西で約17m、南北で20m以上になるが、溝の北辺と西辺は初期からの区画道路の内側に収まるように掘削されている。なお、後I期に存続したとみられるS B 7042・7043・7044の柱穴に重複しており、後I期は「コ」の字区画成立の前後2時期には分離できるとみられる。なお、「コ」の字区画に伴う建物としてはS B 7037がそのほぼ中央に位置し、調査区内では単独で建てられていたものと考えられ注目される。これらの溝からは比較的多量の遺物が出土しており（整理箱約15箱）、土師器類、ロクロ土師器類、須恵器類、黒笹14号窯式期～折戸53号窯式期までの灰釉陶器類、青磁、白磁、緑釉陶器片や製塩土器片が出土している。土師器の中には「て」の字口縁の皿や台杯皿が含まれており、また朱の付着した須恵器片も混入しており注目される。S D 7054はS D 7032に沿うように掘削された幅約50cm、深さ10cmほどの溝で、土師器杯・皿、ロクロ土師器杯・高台付杯、灰釉陶器碗、須恵器片が出土した。

(7) 平安時代後II期の遺構

独立柱建物は調査区東南端のS B 7048のみとなる。40cm程度の柱穴を持つ2間×(1)間の柱柱建物で、後II期から末期にかけて存続したものとみられる。

S D 6993とS D 6994は東西道路S F 6990に関わる南北側溝である。幅はそれぞれ約50cmと1.0m～1.3mでS D 6993は緩やかに東へ傾斜している。土師器片、須恵器片、ロクロ土師器類や百代寺窯式期とみられる灰釉陶器碗などが出土している。この両者は溝心間で約9.5mあり、幅30尺前後の道路として機能していたと考えられる。それに対しS D 7005・7006・7007は一連の南北溝で、かつての南北道路S F 7010の上に掘削される。幅は最大で約3m、深さは30cm～50cmほどあり、単純に道路側溝としての性格は看取し難い。S F 7010はS F 6990に比べて早くから西へ変遷していったのであろう。

(8) 平安時代末期の遺構

2基の土坑S K 7051・7052はいずれもS F 6990路面上に穿たれている。S K 7051は1.1m×0.6m、深さ約30cmの長楕円形土坑で、土師器皿やロクロ土師器杯・台付杯・高台付杯・碗が一括して投棄されていた。S K 7052は直径約1.2m、深さ約30cmの円形土坑で、同様に土師器片、ロクロ土師器片が出土している。

(9) 鎌倉時代の遺構

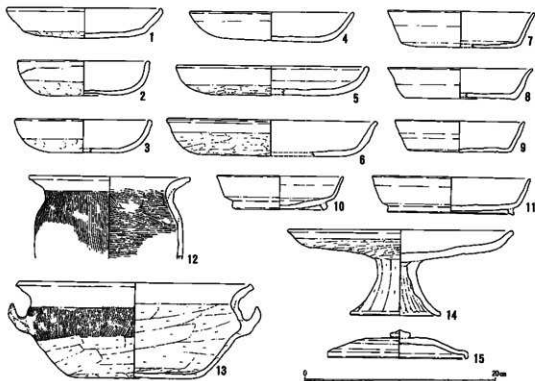
調査区西北部のS D 6996とS D 6997がある。S D 6996は幅約25cm、残存する深さは約10cmの

もので、位置的にみて平安時代前I期に埋没したSD6992がSD7008との交差部分を越えて西へ伸びていた部分の痕跡である可能性もあるが、今回出土した山茶碗からは13世紀後半に埋没したものとみられる。SD6997はSF6990とSF7010の交差点部分を斜めに横断するように掘削された溝で、溝底高は10.4m～9.9mで北西に向かって傾斜しており、N35°Wの方向を取る。土師器類やロクロ土師器類が出土しており、平安時代末期から鎌倉時代の初めにかけてのものであろう。なお、時期不明の遺構として3条の溝があるが、他の溝との重複関係からSD6998・7001・7002はいずれも鎌倉時代以降の掘削と判断される。

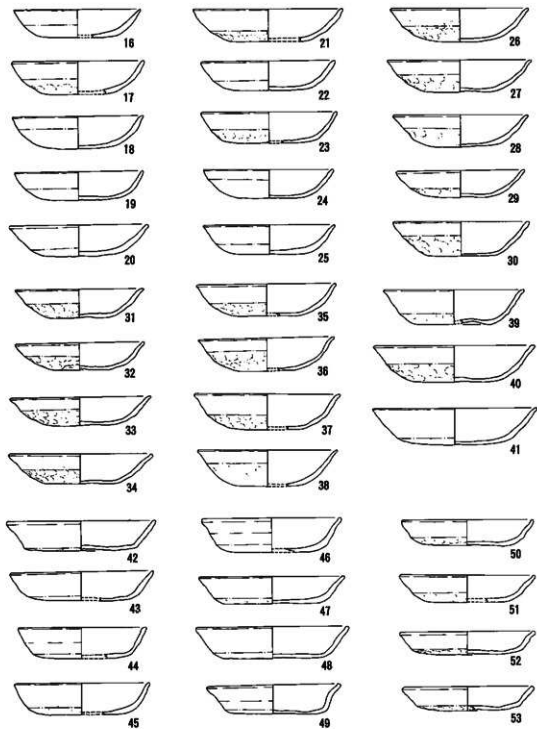
3. 遺物

第103次調査では、整理箱154箱の遺物が出土しているが、若干の鉄滓を除けばすべて土器類である。緑釉陶器は41片出土しているが、比較的特殊遺物は少ない。

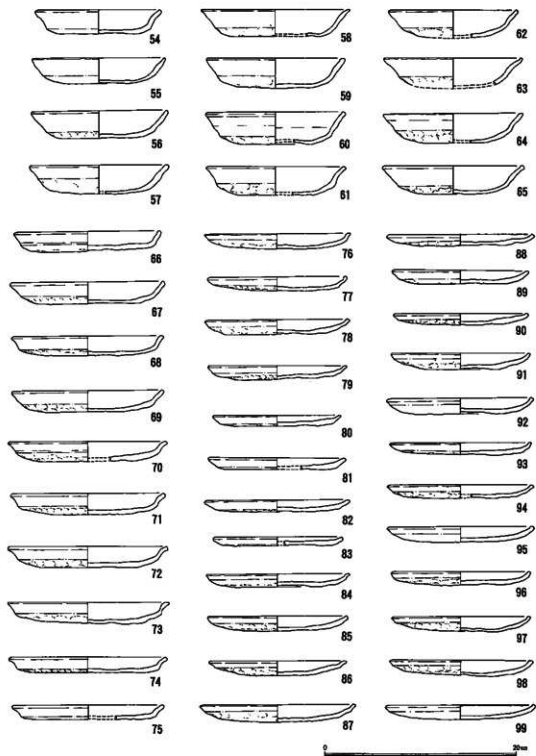
奈良時代の遺物ではSB7045から後期の良好な遺物が出土している(1～13)。出土状況から廃絶した竪穴住居内に投棄した状態のものとみられるが、土師器約90%、須恵器約10%の割合で、土師器の供膳形態と煮沸形態の比はおよそ2:1になる。また、土師器杯の中では破片数でカウントすると丸い体部と厚い器壁を持つ在地系の杯(2・3など)が約7割を占める。須恵器は供膳形態と貯蔵形態が破片数の発現率でほぼ同数といえる。杯類では有台のものとも無



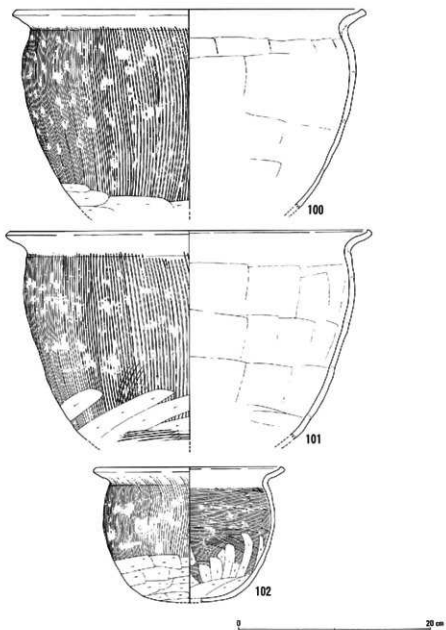
第24図 出土遺物実測図 SB7045: 1～13, SK7046: 14, SA7000: 15



第25图 出土器物实测图 SK7017



第26圖 出土遺物実測圖 SK7017

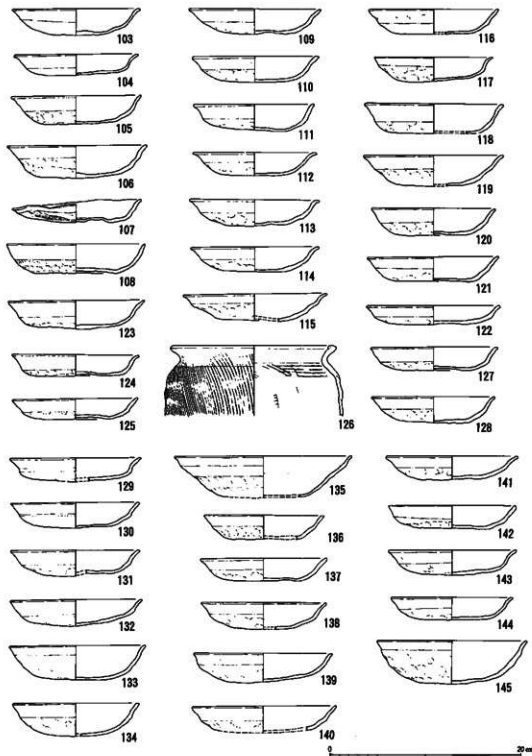


第27図 出土遺物実測図 SK7017

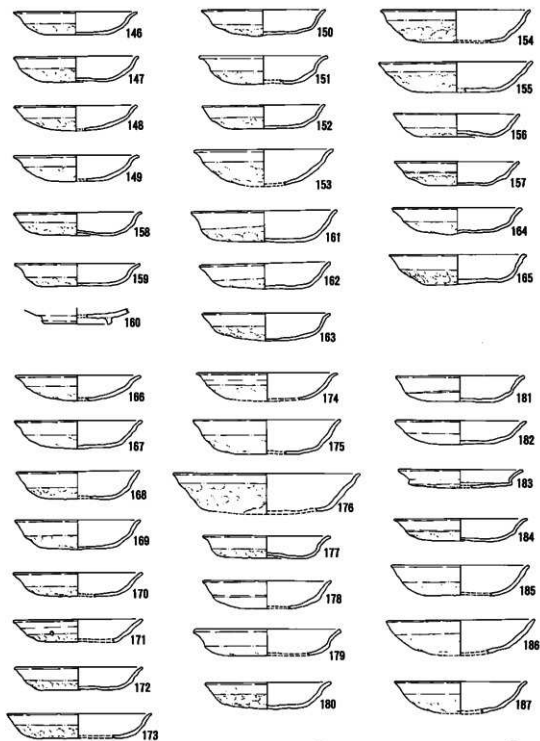
台のものがほぼ同数で、これらは猿投窯編年で鳴海32号窯式期に相当すると考えられる。

平安時代の遺物では、3基の土塚から出土した大量の土器群が着目され、今回これらの一部について概観したい。

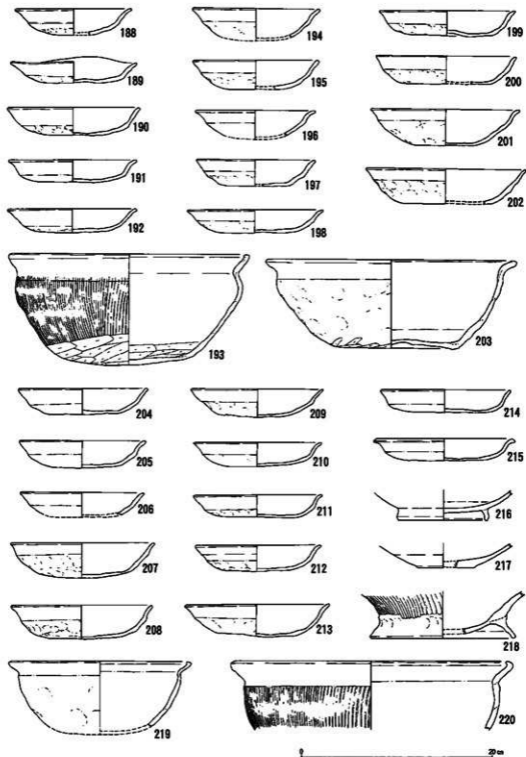
SK7017から半截分で総数6651片の土器類を取り上げたが、その99%以上が土師器であり、そのおよそ88%は杯・皿などの供膳形態のものである。杯には口縁が幅広くヨコナデされてや



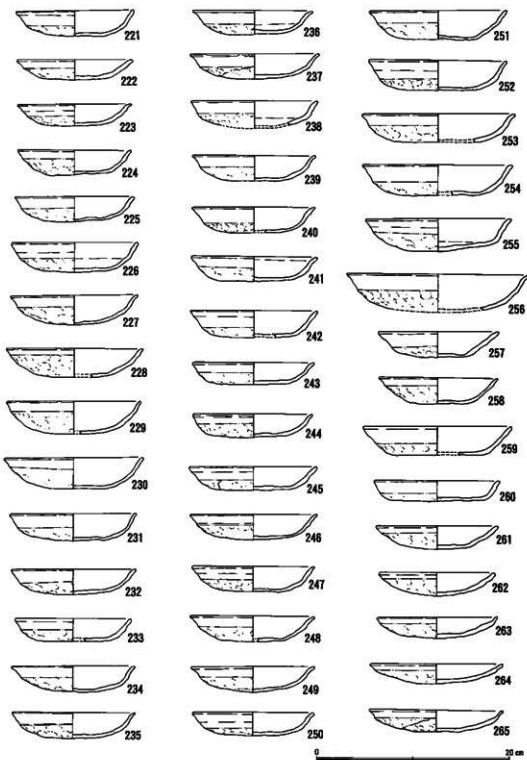
第28图 出土遺物実測図 SK7030



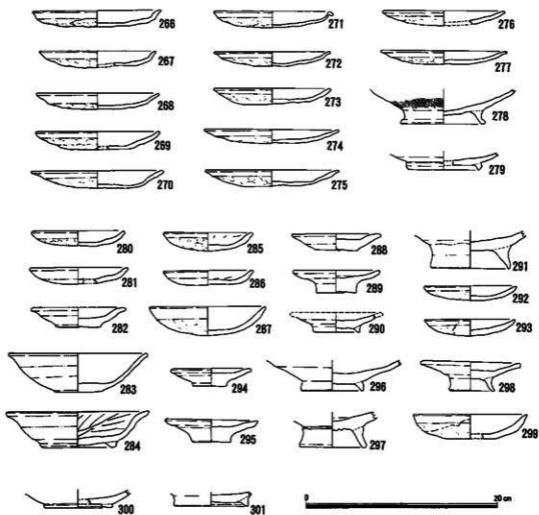
第29圖 出土遺物実測圖 SK7030



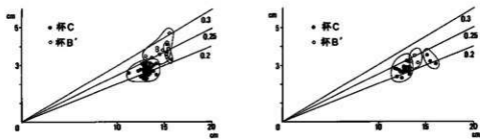
第30图 出土遗物实测图 SK 7030



第31圖 出土遺物実測圖 SK7040



第32圖 出土遺物実測圖 SK7040: 266~279, SK7029: 280~284, SK7052: 285~291, SK7061: 292~299, SD7014: 300, SD7007: 301



第33圖 SK7030・7040出土土器杯徑高比

S B7045

部 類	部 類	部片数	数量比率(%)	割合(%)
土器	杯・高脚杯	298	57.97	90.66
	盃	30	7.59	
	盃・高脚盃	125	25.10	
陶器	杯・高脚杯	26	5.06	9.34
	盃・高脚盃	22	4.28	
総 計		514	100.00	100.00

S K7017

部 類	部 類	部片数	数量比率(%)	割合(%)
土器	杯・盃類	6627	98.63	99.68
	盃・高脚盃	126	1.89	
	製塩土器	100	2.14	
	不 明	540	7.22	
	杯・盃類	4	0.05	
陶器	盃・高脚盃	12	0.16	0.28
	不 明	5	0.07	
	炭焼土器	3	0.04	
総 計		7477	100.00	100.00

S K7040

部 類	部 類	部片数	数量比率(%)	割合(%)
土器	杯・盃類	5367	89.89	99.28
	盃	58	0.97	
	製塩土器	8	0.13	
	不 明	497	8.29	
陶器	杯 類	10	0.17	0.57
	盃・高脚盃	23	0.38	
	不 明	1	0.02	
炭焼土器	盃・高脚盃	4	0.07	0.15
	盃 類	2	0.03	
	不 明	3	0.05	
総 計		5993	100.00	100.00

第7表 SB7045・SK7017・SK7040出土土器構成

や外反する杯A(42~64)と、内湾して底部と口縁部の境が不明瞭な杯B(16~41)があり、杯Bの中でも口縁部のヨコナアがやや強くなり、肉薄の体部から心持ち外反する口縁を持つもの(31~41)は新しい傾向と言える。なお杯Aと杯Bは破片数で47:53とほぼ同率といえる。皿では、強く屈曲した口縁部が真直ぐ(66)、あるいは外反して立ち上がる皿A(67~75)と、明瞭な口縁部を作らず、端部のみ上方へ引き上げて口縁部を成形する皿B(76~99)がある。両者の破片数の比率は32:67で後者の割合が高い。これは皿Bが、後代に至って主流になるほとんど口縁部に成形を加えないタイプのものに連続する事を示していると思われる。この他土師器では大型の鉢が2個体分出土している点や、製塩土器の比率が比較的高い点、また炭化材も混入している点も注意される。これらは土器群全体の用途・性格を示すものとみられるが、現時点では祭祀に関わる器物の廃棄土塚と考え得るに止まる。陶器類はほとんどないが、灰釉陶器碗片は黒笹90号窟式期のものと思われ、土師器に若干の形式幅は窺われるものの前II期の終わりから中期にかけてのものが主体となる。

SK7030は最も多量の遺物を出土しているが、やはり土師器の杯・皿類が中心となる。出土破片数が多いため現在集計していないが、今後データを整理したい。器種としては前代からの杯A、杯Bに加え、薄手の器壁で底部から口縁にかけて内湾する体部を持ち、口縁部はヨコナアされてゆるやかに外反するタイプのものがある。杯Aと杯Bの形質を受け継いでおり、杯Cとして分離できると考える。杯Cは口径13cm~14cmを中心とする中型のタイプと15cmを越える

大型のタイプに分けられる。また、杯Bにも底部が丸く半球状に成形されるもの杯B' (133・134・145・207・208)がみられるようになる。皿はほとんどみられず、若干の皿Bの破片が散見されるに止まる。なお、SK7030では遺構に50cmメッシュを設定して分割し、またブロック状のものを区分して取り上げた。この中では(103~108)が重ねられた状況で出土している。廃棄の1単位としては口径12.8cm~14.5cmの杯A、杯B、杯Cを含み、器種の区別はない。遺物の時期は、土師器類の形状や僅かに共伴する灰軸陶器の椀片が折戸53号竊式期のものとみられる点から平安中期のものと判断できるが、先述のSK7017の土器群とは若干の時期差が窺われる。

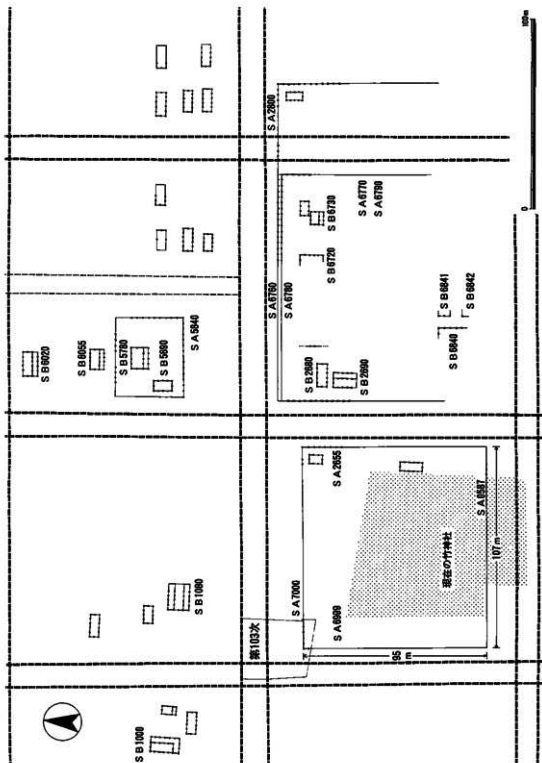
SK7040から出土した遺物も破片数で99%が土師器であり、その9割以上が杯・皿類である。須恵器や灰軸陶器はそれぞれ1%にも満たない。ほぼSK7030と共通した性格が窺われるが、製塩土器の比率は低い。炭化材片は僅かだが出土している。土師器杯と皿の比率は6:4で、杯類はA類、B類、C類とC類から派生するとみられる皿との識別が困難なタイプ(261~265など)がある。器種ごとの発現率をみるとA類約14%、B類約20%、C類約65%となる。最終的にはC類の系譜のものが後期の杯・皿類に変化するものとみられる。皿類はA類、B類に加えて口縁部と底部の境がなく、口縁部は軽くヨコナデするのみで屈曲が全く見られない円盤状になるまで成形や調整を省略したものが含まれ(272~277)、C類として分離する。皿類の発現率をみるとA類10%、B類36%、C類54%ほどになる。皿C類は口径12cm~14cmあるが、これが退化して、平安時代的な土師器皿は終束する。ロクロ土師器は含まれていない点からSK7040は中期に属するものと判断できるが、SK7030との比較を試みると、第33図に示した通り、多数を占める杯C類は口径が僅かに縮小傾向にあり、杯B'がSK7040では杯Cに収束していく点も看取できると考える。これらの点からこの二つの土器群の間には中期の中でもSK7030→SK7040の若干の時期差が想定される。

その他特殊遺物に、黒色土器片2点、判読不能な墨書土器片4点、朱の付着した陶器片5点、転用碗片3点、製塩土器片約110点、白磁片3点、青白磁片1点、青磁片1点がある。

4. まとめ

史跡東部に想定されている平安時代前半を中心とする方格地割内において、これまでの調査成果から中核部の候補に挙げられてきた地点での調査だったが、SF6990・SF7010という道路の状況を明らかにし、また、この区画道路の内側に大型の横列SA6999とSA7000や、平安時代前期から後期(9世紀~11世紀代)にかけて、多数の掘立柱建物が幾度にもわたる建て替えを経ながら存続していた様子が確かめられるなど多大な収穫をあげる事ができた。

東西道路については、南北両側溝を他の遺構と重複なく明瞭に検出する事ができたため、道路幅が溝心々間から約13.3m、45尺という規格が看取された。また、この道路が平安時代後期(11世紀後葉)まで幅員を縮小させながら存続し、現農道にまで遺制をとどめている事も明ら



第34図 周辺主要遺構分布図 (1 : 2,000)

かにする事ができた。

しかし、今回の調査で最も大きな成果は大型の横列の確認だろう。柱間約3mを測る横列による区画は、これまでの調査においても重要と考えられる地区のみに見られたものである。第103次調査地を含む方形区画内での調査は、第10次・第44次など僅かな例を数えるのみだが、これらの成果とあわせて区画の規模を検討すると、東西横列SA7000は第10次の2個の柱穴を経て、第44次調査の南北横列SA2655に続くものとみられる。SA2655に接続した後、南下して西折し、再び第10次調査区内でSA0587の3個の柱穴に続くと推定される。このように考えるとこの大型横列が圍繞する方形区画の規模は、東西延長で約107mで、これは0.296mを1尺と取ると360尺=36間のものになる。南北方向は約95mを測るが、尺単位ではおよそ321尺と明快に10尺等間では割り切れず、東門が存在する可能性も想定しなければならない。なお、この区画の北辺SA7000は、東接する鍛冶山地区の横列SA6780より約11m南に下がっており、やや小規模な区画であると考えられるが、こうして想定された区画は、現在の竹神社の敷地を囲むようにある事は注意されるべき点である。式内社竹神社は明治44年に史跡西部の中垣内地区から、当地にあった斎宮神社(旧野々宮神社)を合祀してここに鎮座したもので、当地には明治以前から郷社等があった事が知られ、また、『勢陽雜記』には、野呂三郎が弘治元(1555)年の徳政一揆の際に拠った斎宮城があったという伝承がある。いずれにしても近世の参宮街道沿いの立地でありながら、社殿地などとして近代まで空閑地のまま遺存してきており、推測の域を出ないが、地元でもこの地を特別視するような慣習があったとも考えられる。

次に、東隣の区画と比較すると、第44次・第98次調査区には平安時代後期の遺構・遺物はほとんどみられず、この時期の掘立柱建物10棟や区画溝などを検出した当調査地とは歴然とした差がある事が分かる。こうした差異が何に起因するのかは今のところ明らかではないが、方格地割内において、大規模な横列を造営する重要区画の中でも、存続時期に差がみられる点は、斎宮寮の構造を考える上でも大きな問題を内包していると言えよう。

遺物の上では平安時代前Ⅱ期から中期にかけての土器溜まりが検出された。当該期は斎宮においても古代的な有り方から中世的なそれに変わる大きな変換点であり、平安時代後期の土器様式の重要な構成要素である碗形やロクロ土師器類の発生期である。今回はこの時期の土師器の変遷について若干の観察を述べるに止まったが、これらの資料を十分に咀嚼できたとは言えない。別の機会を待って幅広い評価を試みたい。

以上のように第103次調査は多大な成果と課題を残したと言える。先述したように、当区画の調査はまだ縁辺の一部で実施されたにすぎず、竹神社社殿地など、中心部分は全く解明されていない。しかしながら、史跡斎宮跡の実態解明と史跡整備の重要ポイントとしてこの地の評価を高める上で第103次調査の果たした役割も極めて大きいと言えるだろう。(大川勝宏)

VI. 第104次調査

6AGT (笛川地区)

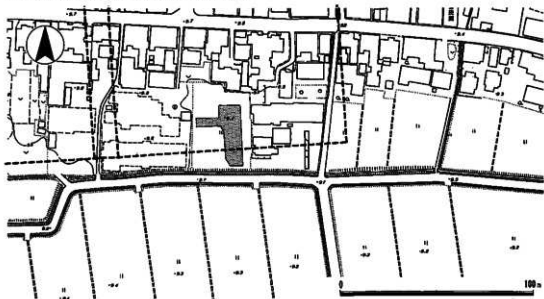
1. はじめに

平成4年度の第96・5次調査で発見された八脚門SB6850と櫓列SA6849によって、史跡東半に広がっていたとされる方格地割の東西の幅が最大で7区画分におよぶとともに、その南端がほぼ確定したと考えられる。

SB6850は現在明らかになっている最も南西の方形区画の南面中央の正門と考えられるが、これまでの調査では、この方格地割の南辺地域において他の区画施設や門に係わるとみられる遺構は明確にはなっていない。また、八脚門の持つ格式から考えて、方格地割の中でこれが存する区画とそうでない区画では、おのずと格差や機能差が想定され得る。

第104次発掘調査は今年度最後の計画調査として、こうした門と、それに取付く櫓列等の区画施設が方格地割南面の各区画に普遍的に存在するかどうかを確認する事を目的として、史跡東南端の区画南辺中央付近に調査区を設定し、平成6年1月31日から3月25日まで350㎡を対象に実施した。

現況の地目は水田で、すぐ南を昭和54年度の圃場整備で作られた東西方向の農道と、その両側側溝が走っている。調査地の標高は現地表面で9m～9.3mである。周辺での調査はこれまでほとんど実施されておらず、史跡範囲確認のための第97次トレンチ調査が実施され、東西方向の溝などが検出されたにとどまる。



第35図 調査区位置図 (1:2,000)

現地表面から表土と水田床土を約50cmほど掘削した段階で、亜円礫を含む黄褐色の洪積層面（地山面）が現れ、これを遺構面として捉えた。遺構面の標高は8.6m～8.7mほどで大きな起伏差はない。

2. 遺 構

調査区は推定される方格地割の東南端の区面の東西正中線が通る地点に設定したが、門や区画施設あるいは建物跡などは確認することができなかった。今回見つかった遺構としては、井戸3基、溝5条、土塚1基と樹木の根の痕跡とみられる不定形の小穴が散在するのみだった。

(1) 平安時代前期の遺構

井戸 S E 7060 を発見した。長径で約2.4m、短径で約1.8mの楕円形の掘形を持つ素掘りの井戸で、地下水の影響か、深さが約1mのあたりで壁面の一部が横へ水平に抉れていた。規模が小さく、壁面の崩落の恐れがあるため、遺構面から3.1mほどで掘削を中断した。ここまでの掘土は黒色土と黄灰色砂の互層で、この遺構上部埋土層から斎宮編年で平安時代前Ⅱ期～中期の土器類が多量に出土した。井戸の掘削時期も9世紀の中頃以前に比定できるとみられる。

(2) 鎌倉時代後期の遺構

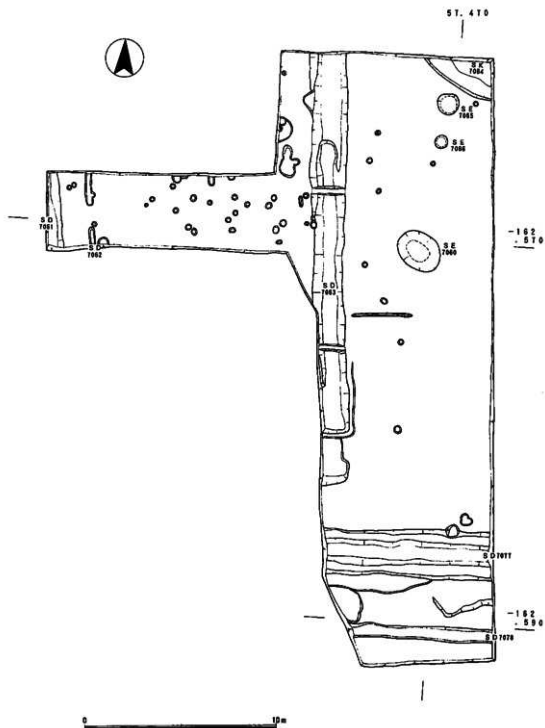
井戸 S E 7065 と S E 7066 がある。両者とも調査区の北部に2mほどの距離で隣接して掘削されており、S E 7065 が直径約1.1m、S E 7066 が直径約0.7mと小規模なものである。井戸枠等の施設は認められなかった。これらも作業の安全上から S E 7065 は遺構面から2m、S E 7066 は1.6mほどで掘削を中断した。それぞれ黒褐色の埋土から13世紀後葉のものとみられる土師器皿、鍋片などが出土しており、遺物の上から両者の時期差は判断できない。かなり近接した時間幅の中で掘削、廃棄されたものとみられる。

(3) 室町時代後期～江戸時代の遺構

溝5条、土塚1基がある。調査区北東隅で発見された S K 7064 は深さ40cmのすり鉢状で、埋

	遺 構 の 種 別		
	S K	S D	S E
平安時代			7060
鎌倉時代			7065 7066
室町時代 以 降	7064	7061 7062 7063 7077 7078	

第8表 時期別遺構分類表



第36图 遺構実測図 (1:200)

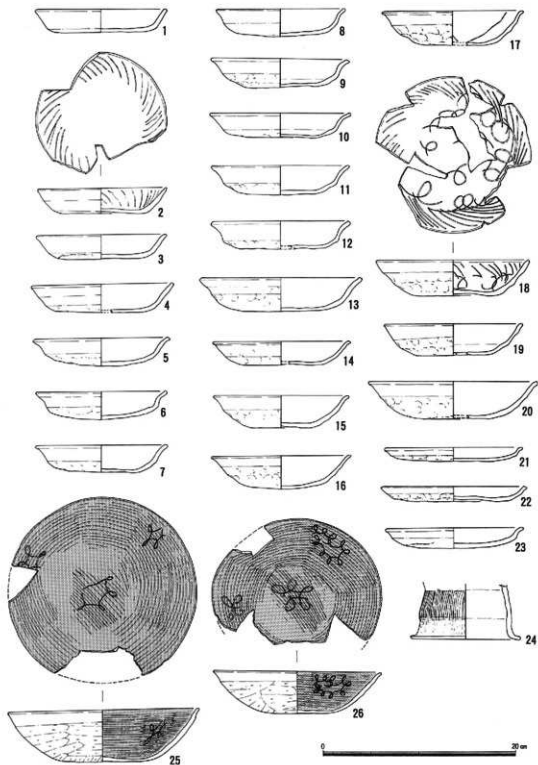
土は一部鉄分の沈着のみられる黄色あるいは灰色のシルト質土壌である。近世以後の溝の肩部である可能性もある。

調査区の西端の南北溝 S D 7061 は東肩部のみ検出されたに止まるが、溝壁は遺構面から深さ約 70cm まで約 65° の傾斜で落ち込む。断面逆台形状の溝であろう。径 3 cm ~ 5 cm の円礫を多量に含む黒褐色の埋土からは 16 世紀後葉以降の土師器皿・鍋や陶器片が狭小な検出範囲にかかわらず多量に出土している。その東側の S D 7062 は深さ 10cm ほどしか残存していないが同時期の土師器細片が出土している。南北溝 S D 7063 は幅 1.4m、遺構面からの深さは 40cm 程だが、調査区内で検出された長さ約 20m の間で、溝底高は北から南まで約 8.3m とほとんど差がない。出土遺物には 16 世紀後葉の土師器皿・鍋の他、鎌倉時代の土師器片、平安時代の土器なども同一調査区内では比較的多量に混入している。また、検出された溝南端は調査区の西へほぼ直角に折れて続く事が確かめられたが、西へ 13m 離れた S D 7061 と合流する可能性が高い。中世末期から近世初頭にかけての旧参宮街道沿いの屋敷地の区画を構成する溝と考えられる。S D 7063 の屈曲部分付近からは、土師器の把手付茶釜と羽釜が並んで正置された状態で出土している。17 世紀には入るものとみられるが、遺構掘形は明確にできなかったものの、溝埋土中に土状状に掘り込んで埋められたものと考えられる。

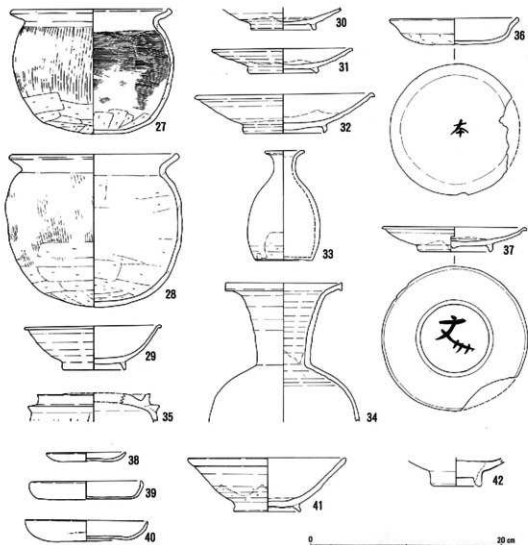
調査区南部では 2 条の東西溝が見ついている。S D 7067 は幅約 2.6m、遺構面からの深さ約 80cm の溝で溝底の標高は 7.9m で調査区内での高低差はない。深さ約 30cm で南北両側に段を作り、数次にわたり掘削された形跡と考えられる。径 3 cm ~ 20cm の円礫や砂質を多量に含み、自然木片もわずかにみられる。埋土上層からは近世後期以後のものともみられる土師器ほうろくが出土している。逆 L 字に折れた S D 7063 との間に幅約 5m の道路を形成する可能性がある。S D 7068 は幅 80cm の断面逆台形状の溝で、溝底の標高 8.3m ~ 8.4m で西から東へ非常にゆるやかに傾斜している。

3. 遺物

全体に遺物の出土量は少ない。調査地が水田に造成されていたために地盤が均平されたと考えられ、特に包含層からの出土が極めて少ない。この中では質・量的に際立つ平安時代の井戸 S E 7060 からの出土品を中心に概述したい。S E 7060 出土遺物は先に述べたように完掘しておらず、遺構の掘削時期を示す物とは考えられない。種別としては土師器杯・皿・鍋・台付杯・瓶・壺片、黒色土器 A 類の杯、灰釉陶器碗・皿・段皿・小瓶・長頸壺、須恵器円面硯・甕・高杯・杯・盤・壺片や製塩土器片がある。遺物量は整理箱で 8 箱になる。これらの破片数での割合を示したのが第 9 表である。約 90% を占める土師器の内、杯・皿などの供膳形態の物と壺・瓶等の煮沸形態の物はほぼ半々になる。須恵器約 5%、灰釉陶器約 3% の割合は一般的な傾向と言える。土師器杯類をみると杯 A 類と杯 B 類があるが、杯 A 類には口縁部が底部から強く屈

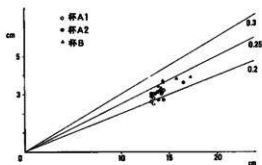


第37圖 出土遺物実測圖 SE7060



第38図 出土遺物実測図 SE7060: 27~37, SE7065: 38~40, SD7063: 41, 包含層: 42

曲して比較的真っ直ぐのびるもの(杯A1類: 1~4)と強いヨコナデのため口縁部が外反して屈曲するもの(杯A2類: 5~14)がある。杯A1類は平均で口径13.3cm、器高2.6cmの中型品と、口径14.5cm、器高3.2cmの大型品が、杯A2類は器高13.9cm、器高2.9cmの中型品と、口径16.6cm、器高3.6cmの大型品がある。杯B(15~20)には口径14.3cm、器高約3.5cmの中型品の他、口径が15cmを越える大型品がある。暗文は杯Bにのみ見られるが、放射状暗文や退化した螺旋状暗文が施される。土師器杯類などからSK2650には併行する段階のものと考えられる。黒色土器はA類の杯(25・26)があり、いずれも外面をヘラケズリし、内面はヘラミガキの後、雑な螺旋状暗文を施す。残存状態は良好である。須恵器では片面硯(35)が出土しているが、



第39図 SE7060出土土師器杯径高比

器 種		破片数	器種別比率(%)	類別比率(%)
土師器	杯・盃・高杯類	346	44.26	89.35
	壺・鉢類	1	0.13	
	甕・甔・甕類	331	42.43	
	製造土器	19	2.44	
黒色土器	人脚 杯・胸類	16	2.05	2.05
須恵器	杯・盃・高杯類	7	0.90	5.39
	壺・甕類	34	4.36	
	甕類	1	0.13	
灰釉陶器	碗・皿類	23	2.96	3.21
	壺・甔類	2	0.26	
総 計		780	100.00	100.00

第9表 SE7060出土土器構成

混入品であろう。灰釉陶器では碗9片に対し皿類が14片と多い。釉はハケ塗りものとツケガケのものが混在し、形式からみると黒塗90号窯式期から折戸53号窯式期にかけてのものが含まれる。壺(34)は白色の胎土で薄い器壁を持ち、透明な灰釉が均等にかかる良品である。完形で出土した小瓶(33)は灰緑色の自然釉が肩から流れ、弱い肩の張りから折戸53号窯式期に相当すると考えられる。墨書土器は5点あるが、文字が判読できるものは2点のみである。(36)は土師器杯A2類の底面に「本」と墨書される。灰釉陶器皿(37)は不明瞭だが、底面に「文」と筆揃えの痕跡が重複するものとみておきたい。「文」は第58-1次調査の黒色土器の例があり、書体も類似する。以上SE7060出土遺物は、遺構埋土上層にまとまって投棄された一群と考えられ、若干の形式差があるが、9世紀末葉に主体を持ち、10世紀初頭までに埋没したものとみられる。

SD7063出土の灰釉陶器碗(41)は混入品で、口縁部をやや肥厚させ外面に沈線をひき、白磁釉を模倣した形態のものである。ツケガケの釉は明灰白色を呈し、内側がやや内弯した三角形の高台をつけ、見込み部に重ね焼き痕が残る。系譜は明確ではないが、直線的にのびる体部や施釉から平安時代後期以後の東濃系のものと考えられる。

鎌倉時代のSE7065・7066からは土師器皿や鍋の破片が出土している。皿は口径13cm～14cmで、ほぼ完形で8個ほど出土している。鍋は小片が多いが、口縁部の形状などから伊藤裕俤氏

分類の2段階b型式～c形式に相当するとみられ、13世紀後半～14世紀初頭に位置付けられるものとする。なお先述したように、この両者間の時期差はほとんどないものとみられ、前後関係は明らかではない。

特殊遺物とされるものの出土は少なく、青磁片5点、青白磁片1点があり、緑釉陶器はみられなかった。また、SE7060などから製塩土器片が約20片出土した。

4. まとめ

八脚門と櫓列の検出が期待された第104次調査だったが、これらの遺構は確認する事ができなかった。しかしながら平安時代の井戸SE7060が検出され、その他の遺構からも混入の形で平安時代前期の遺物は散見される。こうした点からみれば例え後世の削平があったとしても、周辺に当該期の建物等の遺構が分布していた可能性も残されたとと言える。また周辺の調査例が僅少なため、この付近では方形区画を構成する遺構は明確には確認されていないが、SE7060は推定される区画の東西のほぼ正中線に乗る位置にある。方格地割東南の区画の状況は他の区画とは異なった様相を呈する可能性も想定される。

次に調査区南端SD7067についてみると、調査区内での方向はE1°Nであり、東西方向にはほとんど振れがなく、南の現農道の北側溝排水路の部分との間に溝肩間で約6m程の東西道路が想定されうる。また、同様に農道南側溝の部分まで延長して考えると幅約12mほどの道路も想定できる。これらはいずれも仮定であり、比較分析するデータに欠けるが、SD7067が方格地割の南限道路に規制されている可能性もまた残されている。振り返って先の第96-5次調査の八脚門SB6850周辺を見ると、第70-3次調査での櫓列SA5110の西側約7mの未命名の南北溝や、SA6849の南の平安時代初期の東西溝SD5108、鎌倉時代の東西溝とされる第81-3次調査のSD5962、SD5963などが平安時代斎宮寮を圍繞する道路側溝あるいはそれを踏襲する溝である可能性がある。しかし、現状ではこれらもまた、その連続などが確認されておらず、いずれも可能性の域を出ていない。今回の第104次調査も斎宮寮南限の状況を考える上での材料は提供したものの、古代官衙において重要な南面の状況は今後の地道な調査の蓄積に期待するところが依然大きいと言わざるを得ない。

(大川勝宏)

注) 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土器器に関する一試論」『Mie history』Vol. 1 1990

掘立柱建物・柵列一覧表

遺構番号	規模	構方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法(m)		時期	備考
					桁行	梁行		
第99次調査(6ADN)								
S B0251	3×2	N 4°W	5.70	4.00	1.90	2.00	平安初	
S B6915	(1)×2	E 2°N	(2.40)	3.60	2.40	1.80	平安前Ⅱ	南庇出2.0m
S B6918	5×2	N 4°W	10.50	4.80	2.10	2.40	平安中	
S B6922	4×2	N 9°W	8.00	4.00	2.00	2.00	+	
S B6914	(4)×2	E 5°N	(8.40)	3.80	2.10	1.90	平安後Ⅱ	5間×2間か
S B6921	4×2	E 5°W	8.40	4.00	2.10	2.00	+	
S B6923	3×2	N 4°W	6.00	4.00	2.00	2.00	+	東庇出2.1m
S B6924	3×2	N 5°W	6.60	4.80	2.20	2.40	+	
S B6860	(2)×-	N 1°W	(4.40)	-	2.20	-	平安末	
S B6861	(2)×(1)	N 8°W	(4.20)	(1.90)	2.10	1.90	+	
S B6862	(2)×-	N 1°W	(4.20)	-	2.10	-	+	
S B6864	(3)×2	N 5°W	(6.30)	4.00	2.10	2.00	+	4間×2間か
S B6865	(3)×2	N 3°W	(6.30)	4.20	2.10	2.10	+	4間×2間か S B6891より古
S B6866	4×2	N 7°W	8.00	4.00	2.00	2.00	+	
S B6867	(3)×2	N 5°W	(6.45)	4.30	2.15	2.15	+	4間×2間か
S B6868	4×2	N 4°W	8.00	4.40	2.00	2.20	+	S B6894・6910より古
S B6869	(3)×2	N 5°W	(6.00)	3.80	2.00	1.90	+	4間×2間か
S B6873	(2)×(1)	N 7°W	(4.20)	(2.10)	2.10	2.10	+	
S B6874	4×(1)	N 3°W	8.60	(2.00)	2.15	2.00	+	
S B6875	4×2	N 6°W	8.60	3.80	2.15	1.90	+	
S B6876	4×2	N 4°W	8.60	4.00	2.15	2.00	+	
S B6879	4×2	N 2°W	8.00	4.00	2.00	2.00	+	S B6867より古
S B6883	(3)×2	N 6°W	(6.30)	4.20	2.10	2.10	+	4間×2間か
S B6884	4×2	N 5°W	8.40	4.20	2.10	2.10	+	
S B6885	(3)×2	N 8°W	(6.30)	4.20	2.10	2.10	+	4間×2間か
S B6886	4×2	N 5°W	8.40	3.80	2.10	1.90	+	
S B6887	(2)×2	N 5°W	(4.20)	3.80	2.10	1.90	+	
S B6888	(3)×2	N 6°W	(6.00)	4.00	2.00	2.00	+	4間×2間か S B6887より古
S B6889	5×2	N 5°W	10.50	4.20	2.10	2.10	+	S B6885より古
S B6890	4×2	N 4°W	8.00	3.60	2.00	1.80	+	S B6883より古
S B6891	4×2	N 7°W	8.00	4.00	2.00	2.00	+	
S B6892	4×2	N 7°W	8.00	3.80	2.00	1.90	+	
S B6897	4×-	N 4°W	8.00	-	2.00	-	+	4間×2間か S B6886より古
S B6898	(3)×(1)	N 5°W	(6.30)	1.90	2.10	1.90	+	4間×2間か
S B6899	4×-	N 7°W	8.00	4.20	2.00	2.10	+	S B6891より古
S B6908	3×2	E 5°N	6.00	4.20	2.00	2.10	+	北庇出2.1m S B6866・6874より古
S B6909	4×-	N 5°W	8.20	-	2.05	-	+	
S B6910	4×2	N 6°W	7.60	4.00	1.90	2.00	+	S B6883より古
S B6911	4×2	N 5°W	8.00	4.00	2.00	2.00	+	S B6867・6869・6875・6878・6912より古
S B6912	4×2	N 4°W	10.25	4.20	2.05	2.10	+	S B6867・6869より古
S B6913	(2)×3	E 5°N	(3.60)	6.00	1.80	2.00	+	
S A 6863	(9)	N 5°W	(23.40)		2.60		+	9間分検出・柱間不揃
S B6928	(2)×2	N 8°W	(3.60)	4.20	1.80	2.10	不明	

遺構番号	規模	構方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法(m)		時期	備	考
					桁行	梁行			

第100次調査(6ABI-T)

SB6950	(1)×-	E 5°N	(2.4)	-	2.4	-	奈良前期	南北棟の可能性有り	
6951	(2)×(1)	E 5°N	(4.2)	(2.4)	2.1	2.4	+	SA6941より古	
6952	-×2	N 0°S	-	4.2	-	2.1	+		
6953	-×3	N 0°S	-	4.6	-	2.3	+		
6954	(1)×(1)	E 0°W	(2.4)	(2.4)	2.4	2.4	+	南北棟の可能性有り	
6955	(1)×-	E 0°W	(2.2)	-	2.2	-	+	南北棟の可能性有り	
6956	(1)×(1)	N 0°S	(2.1)	(2.1)	2.1	2.1	+	東西棟の可能性有り	
6957	(1)×(1)	N 2°W	(2.7)	(2.7)	2.7	2.7	+	東西棟の可能性有り	
SA6940	00	E 0°W	(21.6)	-	2.1	-	+	10間分検出	
6941	(9)	E 0°W	(19.3)	-	2.1	-	+	9間分検出 SA6940より新	
6942	(9)	E 0°W	(22.3)	-	2.4	-	+	9間分検出 SA6941より新	
6943	(4)	E 0°W	(10.8)	-	2.7	-	+	4間分検出 SA6942より新	

第103次調査(6AEQ-A)

SA6999	(1)	N 4°W	(2.97?)	-	2.97?	-	平安初		
SA7000	(5)	E 4°N	(14.85)	-	2.97	-	+		
SB7050	-×(1)	E 4°N	-	(2.10)	-	2.10	平安前 I		
SB7020	(4)×2	E 4°W	12.00	4.80	2.40	2.40	平安前 II	5間×2間か	
SB7024	5×2	N 4°W	12.25	4.80	2.45	2.40	+		
SB7033	(2)×2	E 4°N	(4.00)	4.20	2.00	2.10	+	3間×2間か・北と西に雨落溝	
SB7047	(1)×-	E 4°N	(2.40)	-	2.40	-	+	SB7049と同一か	
SB7049	(2)×-	E 4°N	(4.80)	-	2.40	-	+	SB7047と同一か	
SA7016	(6)	N 4°W	(12.30)	-	20.50	-	+		
SB7018	(4)×2	E 4°N	(10.80)	4.80	2.70	2.40	平安中	5間×2間か	
SB7019	5×2	N 4°W	9.75	4.80	1.95	2.40	+	東庇出2.1m SB7021より古	
SB7021	3×2	E 2°N	6.20	3.40	2.10	1.70	+	南庇出1.2m	
SB7023	5×2	E 4°N	10.25	4.40	2.05	2.20	+		
SB7025	5×2	N 4°W	12.25	4.80	2.45	2.40	+	SB7023・7028より古	
SB7028	5×2	N 4°W	10.00	4.40	2.00	2.20	+		
SB7022	5×2	E 3°N	10.00	3.80	2.00	1.90	平安後 I		
SB7026	3×2	E 3°N	6.30	4.00	2.10	2.00	+		
SB7027	2×2	N 4°W	3.80	4.00	1.90	2.00	+	総柱建物	
SB7037	4×3	N 2°W	7.20	5.40	1.80	1.80	+	南庇出2.0m・桁3間分 総柱建物	
SB7038	2×2	N 4°W	3.80	4.00	1.90	2.00	+	SB7027より古	
SB7041	4×(2)	E 2°S	8.00	(3.60)	2.00	1.80	+	総柱建物	
SB7042	(3)×2	E 4°N	(7.20)	5.00	2.40	2.50	+		
SB7043	(3)×2	E 4°N	(6.20)	5.00	2.00	2.50	+	SB7042より古	
SB7044	4×2	E 4°N	7.60	5.00	1.90	2.50	+	SB7041より古	
SB7048	(1)×2	N 4°W	(2.10)	4.20	2.10	2.10	平安後 II	総柱建物	

竪穴住居一覧表

遺構番号	規模(m)	長軸方向	深さ(cm)	柱	穴	カマド	時期	備	考
------	-------	------	--------	---	---	-----	----	---	---

第103次調査(6AEQ-A)

SB7045	(4)×-	不明	40	-	-	-	奈良後期		
--------	-------	----	----	---	---	---	------	--	--

遺物（土器）観察表

第99次調査

No	出土遺物	数量	調査・出土の状況	出土	調査	色	調	保存状況	備考	図番
1	5区0920 土器 下層	【口径】9.8cm 【高さ】3.5cm	口縁部ナブ、底部ナブナ	破損	良好	内：黒 外：黒	5YR7/6 2.5YR6/4	底部の2/3	器底面の磨耗が大きい	R 50
2	5区0920 土器 上層下層	【口径】14.2cm 【高さ】1.8cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	7.5YR7/6	約60%		R 53
3	5区0920 土器 中層	【口径】12.4cm 【高さ】3.7cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	器底に砂粒を含むが	良好	内：にじい-黄 外：黒	10YR6/4	約60%		R 54
4	5区0920 土器 中層	【口径】12.6cm 【高さ】3.7cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：にじい-黒 外：黒	7.5YR7/3	約70%		R 27
5	5区0920 土器 中層	【口径】13.0cm 【高さ】3.0cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	やや器底面が平たいが	良好	内：灰黄 外：黒	7.5YR8/3	約60%		R 28
6	5区0920 土器 中層	【口径】15.2cm 【高さ】3.9cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	5YR6/6	約60%		R 29
7	5区0920 土器 中層	【口径】15.6cm 【高さ】3.4cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	5YR6/6	約60%		R 25
8	5区0920 土器 中層	【口径】14.0cm 【高さ】3.3cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	2.5YR6/6	約60%		R 30
9	5区0920 土器 中層	【口径】14.2cm 【高さ】3.9cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：灰黄	5YR6/6 10YR6/4	約60%	器底面に磨耗が大きい	R 51
10	5区0920 土器 中層	【口径】13.9cm 【高さ】3.9cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	5YR6/6	約60%		R 26
11	5区0920 土器 中層	【口径】10.6cm 【高さ】5.5cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：灰黄 外：黒	5YR5/6	約60%	内面に黒粒状文、縦状 模文が施される	R 30
12	5区0920 土器 中層	【口径】21.6cm 【高さ】5.6cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	5YR6/6	約60%	内面に黒粒状文が施す	R 31
13	5区0920 土器 中層	【口径】18.5cm 【高さ】5.3cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	7.5YR6/6	約60%		R 29
14	5区0920 土器 中層	【口径】13.9cm 【高さ】9.0cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	器底に砂粒を多量に 含む	良好	内：にじい-黒 外：黒	7.5YR7/4 2.5YR7/4	約60%	内外面とも灰化が著しい	R 34
15	5区0920 土器 中層	【口径】16.1cm 【高さ】7.3cm 【高さ】5.7cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	器底に砂粒を多量に 含む	良好	内：灰黄 外：黒	5Y6/2	約60%	内面に黒粒状文、縦状 模文が施される	R 47
16	5区0920 土器 中層	【口径】29.7cm 【高さ】11.6cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：灰黄 外：黒	10YR6/6	約60%		R 73
17	5区0920 土器 中層	【口径】14.7cm 【高さ】1.6cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：灰黄 外：黒	5YR5/6	約60%		R 14
18	5区0920 土器 中層	【口径】14.4cm 【高さ】1.4cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	5YR2/6	完全		R 27
19	5区0920 土器 中層	【口径】15.4cm 【高さ】1.5cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：灰黄 外：黒	5YR5/6	約60%		R 30
20	5区0920 土器 中層	【口径】15.9cm 【高さ】1.7cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	7.5YR7/6	約60%		R 11
21	5区0920 土器 中層	【口径】12.9cm 【高さ】3.8cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	器底に、底部に砂 粒の混入が多くやや 平たい	良好	内：にじい-黒 外：にじい-黒	7.5YR7/4 10YR2/1 7.5YR7/4	約60%		R 28
22	5区0920 土器 中層	【口径】13.6cm 【高さ】3.4cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：灰黄 外：黒	7.5YR8/4	約60%		R 7
23	5区0920 土器 中層	【口径】14.2cm 【高さ】3.7cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：にじい-黒 外：にじい-黒	5YR7/4 7.5YR6/4	約60%	口縁部に黒色粒状文	R 40
24	5区0920 土器 中層	【口径】13.7cm 【高さ】3.8cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：にじい-黄 外：黒	10YR7/4	ほぼ完全	器底の中心部が平たい、 内外面の磨耗が著しい	R 16
25	5区0920 土器 中層	【口径】14.2cm 【高さ】3.2cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	5YR7/6	約60%	器底面に磨耗が大きい	R 15
26	5区0920 土器 中層	【口径】15.0cm 【高さ】3.3cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	器底に砂粒が認め られるが	良好	内：にじい-黒 外：黒	7.5YR7/4	約60%		R 27
27	5区0920 土器 中層	【口径】15.9cm 【高さ】3.2cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：にじい-黒 外：黒	7.5YR7/4	約60%		R 12
28	5区0920 土器 中層	【口径】13.2cm 【高さ】3.3cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	7.5YR6/6	約60%	内面に黒粒状文、縦状 模文が施される	R 18
29	5区0920 土器 中層	【口径】15.3cm 【高さ】3.2cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：黒 外：黒	7.5YR7/6	約60%		R 21
30	5区0920 土器 中層	【口径】15.2cm 【高さ】4.2cm	口縁部コナブ、底部ナブ ナブ	破損	良好	内：灰黄 外：黒	2.5YR5/6	約60%	内面に黒粒状文、縦状 模文が施される	R 2

No	出土場所	器種	数量	特徴・注目の特徴	出土	調査	色	調査	保存度	備考	記録番号
31	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)16.5cm (底径) 4.3cm	口縁部コナナ、体部ナナ、オヤエ	遺物	良好	内：K.ぶい-黒 外：*	SYR6/4	約90%	内面に取付状残文が写す れる	R 10
32	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)18.0cm (底径) 4.3cm	口縁部二重コナナ、体部 ナナ、オヤエ	遺物	良好	内：黒 外：*	2.SYR6/9	約90%		R 70
33	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)13.6cm (底径) 3.0cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：黒 外：*	SYR6/6	約70%		R 38
34	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)14.4cm (底径) 2.9cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：K.ぶい-黄緑	7.SYR2/4 10YR6/4	約90%		R 4
35	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)13.2cm (底径) 3.1cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：黄緑 外：*	10YR7/3	約95%		R 3
36	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)13.7cm (底径) 2.9cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：K.ぶい-赤黒 外：*	SYR6/4	約95%		R 9
37	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)13.6cm (底径) 3.1cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：黒 外：黄緑	SYR6/9 SYR6/1	約90%		R 36
38	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)13.8cm (底径) 3.5cm	口縁部コナナ、体部比較的 的丁字ナナ、オヤエ	遺物	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：*	10YR7/4	約90%		R 13
39	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)14.2cm (底径) 3.3cm	口縁部二重コナナ、体部 ナナ、オヤエ	遺物	良好	内：明赤黒 外：*	5YR5/9	約90%	内面に黒色物付着	R 5
40	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)14.9cm (底径) 2.9cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：*	10YR7/4	約95%	口縁部に沈着状に付着 し	R 66
41	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)14.4cm (底径) 2.9cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：明赤黒 外：*	2.SYR5/6	約90%		R 6
42	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)14.7cm (底径) 3.1cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：黒 外：*	5YR7/6	約70%		R 1
43	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)15.7cm (底径) 2.9cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：明赤黒 外：*	5YR5/9	約90%		R 56
44	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)15.6cm (底径) 3.4cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：黒 外：*	7.SYR6/9	約95%		R 23
45	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)15.6cm (底径) 3.5cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：黒 外：*	5YR6/9	約90%		R 58
46	S 50900 上層上層	土師器 杯	(口徑)16.0cm (底径) 3.6cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：明赤黒 外：*	5YR5/9	約95%		R 8
47	S 50900 上層上層	黒色土師 杯	(口徑)16.2cm (底径) 3.5cm	口縁部コナナ、内外面ヘ ラミダシ	遺物	良好	内：黒 外：K.ぶい-黒 7.SYR6/4	SYZ/1 7.SYR6/4	約95%	黒色土師人面	R 101
48	S 50900 上層上層	黒色土師 杯	(口徑)15.0cm (底径) 3.0cm	口縁部コナナ、内面ナナ 付着し、オヤエ	遺物	良好	内：黒 外：SYZ/1 5YR6/9	SYZ/1 5YR6/9	約90%	黒色土師人面	R 103
49	S 50900 上層上層	土師器 碗?	(口徑)24.1cm	口縁部コナナ、体部内外面 ナナ、底面ナナ	遺物	良好	内：黄緑 外：*	10YR6/4	杯帯付 残存	杯帯・胴帯とも 残	R 37
50	S 50900 上層上層	土師器 碗?	(口徑)16.6cm (底径) 7.0cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	遺物	良好	内：黄緑 外：*	2.SYR3/3	口径の1/5 ~1/6		R 64
51	S 50900 上層上層	土師器 実例器	(口徑)27.2cm (底径)20.9cm	口縁部コナナ、体部内面 タテハ、内面コ方向部 ナナ、コ方向ヘラミダシ	遺物	良好	内：黒 ~黄緑 外：*	SYR6/6 2.SYR5/2 5YR6/6	口径の1/2 全体の30%	外壁の一部変色し黒色物 付着	R 49
52	S 50900 上層上層	土師器 碗	(口徑)18.4cm (底径)18.4cm	口縁部コナナ、体部内面 コ方向、ヘラミダシ、内 面コ方向、ヘラミダシ	遺物	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：*	5Y7/3	口径の40% 全体の40%	外壁に多量にスス付着	R 52
53	S 50900 上層上層	土師器 碗	(口徑)25.0cm (底径) 9.8cm	口縁部コナナ、体部内面 タテハ、内面コ方向	遺物	良好	内：黄緑 外：黄緑	2.SYR5/2 10YR5/2	口径の1/4	口唇部にスス付着	R 86
54	S 50900 上層上層	土師器 碗	(口徑)23.2cm (底径) 6.7cm	口縁部コナナ、体部内面 タテハ、内面コ方向	遺物	良好	内：黄緑 外：K.ぶい-黒	2.SYR2/4 5YR7/4	口径の1/3	二次焼成のため外壁変色	R 65
55	S 50900 上層上層	土師器 碗	(口徑)14.4cm (底径) 9.5cm	口縁部コナナ、体部内面 コ方向、内面コ方向、底 面コ方向	遺物	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：*	10YR5/3	約95%		R 63
56	S 50900 上層上層	土師器 碗	(口徑)17.0cm (底径) 6.3cm	口縁部コナナ、体部内面 タテハ、内面コ方向	遺物	良好	内：K.ぶい-黄 外：*	7.SYR7/4	口径の1/4	二次焼成のため外壁一部 変色	R 68
57	S 50900 上層上層	土師器 実例器	(口徑)24.8cm (底径)10.3cm	口縁部コナナ、体部内面 タテハ、内面コ方向	遺物	良好	内：黄緑 外：黄緑 7.SYR6/6(ヤキ不足)	2.SYR7/3	口径の1/4		R 61
58	S 50900 上層上層	土師器 実例器	(口徑)27.4cm (底径)27.5cm	口縁部コナナ、体部内面 コ方向、内面コ方向、コ 方向のナナ付	遺物	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：*	10YR6/4	口径の1/3 全体の30%		R 67
59	S 50900 上層上層	実例器 杯	(口徑)14.3cm (底径) 3.4cm	外面コ方向、底面ナナ 付、内面コ方向	遺物	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：黄緑	10YR7/2 2.SYR7/2	約90%	口縁部一部自然焼 痕あり	R 100
60	S 50900 上層上層	実例器 杯	(口徑)14.0cm (底径) 3.1cm	口縁部コナナ、内外面コ 方向	遺物	良好	内：灰白 外：*	2.SY7/1	約90%	内面に灰緑色の粉	R 43
61	S 50900 上層上層	実例器 杯	(口徑)15.5cm (底径) 2.9cm	口縁部コナナ、体部内面 コ方向、ナナ付、オヤエ ナナ付	遺物	良好	内：灰 外：*	5Y6/1	約90%	内面に灰緑色かか る	R 46
62	S 50900 上層上層	実例器 杯	(口徑)11.4cm (底径) 3.1cm	口縁部コナナ、体部内面 コ方向ナナ付、内面コ方 向	遺物	良好	内：灰白 外：*	5Y7/1	約90%	灰緑フケケガ	R 48

No.	品名	仕様	数量	規格・特徴	品名	規格	色	調	消費材	目	号	備考	
63	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)15.5mm (高さ)4.3mm (重量)2.7kg	1	口径部コナナフ、内周コ ナナフ、底部ナフ	鉄板	良材	塗装：灰白 錆止め	2.5YR7/2 7.5YR/1	約3%	鉄板ハケ塗り	R 50		
64	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)17.5mm (高さ)4.3mm (重量)3.5kg	1	口径部コナナフ、内周コ ナナフ、内面ナフ	鉄板	良材	塗装：灰白 錆止め	2.5YR7/2 5Y7/3	約4%	鉄板ハケ塗り	R 33		
65	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)15.5mm (高さ)4.3mm (重量)2.7kg	1	口径部コナナフ、内周コ ナナフ、内面ナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鉄板	良材	塗装：E.ぶい-黄緑 錆止め	10YR7/2 5Y6/3	約5%	鉄板ツツケテ、灰白 錆止め、内面に黄緑錆 止め	R 72		
66	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)13.5mm (高さ)4.3mm (重量)2.1kg	1	口径部コナナフ、内周コ ナナフ、内面ナフ、底 面ナフ、内面ナフ	鉄板	良材	内：灰白 外：灰白	5Y7/3 7.5Y7/1	約6%	鉄板ハケ塗り	R 32		
67	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)19.5mm (高さ)4.3mm	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ、底面ナフ、底 面ナフ	鋼	良材	内：灰 外：灰	5Y6/1	約6%	内周外周面にハケ塗り	R 74		
68	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)22.5mm (高さ)4.3mm	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ	鋼	良材	内：灰 外：灰	7.5Y6/1	約6%	口径の1/4	R 80		
69	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)13.5mm (高さ)3.1mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鉄板	良材	内：灰 外：灰	5Y6/6	約5%		R 39		
70	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)16.5mm (高さ)3.5mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鉄板	良材	内：E.ぶい-緑 外：E.ぶい-緑	7.5YR7/6 7.5YR6/4	約5%		R 41		
71	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)14.5mm (高さ)2.6mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鉄板	良材	内：硝子硝 外：硝子硝	5YR5/6	約5%	底面に硝子硝のくぼみ	R 19		
72	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)16.5mm (高さ)3.3mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鉄板	良材	内：硝子硝 外：硝子硝	5YR5/6	約5%		R 69		
73	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)15.5mm (高さ)3.5mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鉄板	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	5YR6/6	約5%		R 42		
74	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)18.5mm (高さ)4.3mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鉄板	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	5YR6/6 7.5YR4/2	約4%	底面の目地部分のたぐり 止め、内面ナフ部分の内 面のハケ塗り	R 24		
75	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)14.5mm (高さ)3.4mm	1	口径部コナナフ、内面外 周ナフ、内面ナフ	鉄板	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	5Y7/1 2.5Y7/3	約3%	黒色土留上層	R 104		
76	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (高さ)2.3mm	1	内周外周コナナフ、底面 ナフ	鉄板	良材	内：ヤカにごった灰白 外：ヤカにごった灰白	7.5Y7/2	約5%	底面のみに 内面に一部自然錆がブ クに付く	R 44		
77	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)6.2mm (高さ)6.1mm	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ	鋼	良材	内：灰白 外：E.ぶい-緑	5Y6/2 2.5YR3/1-5/3	約5%	底面のみに 硝子硝	R 45		
78	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)12.8mm (高さ)6.2mm (重量)4.7kg	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ、底面ナフ	鋼	良材	塗装：灰白 錆止め	7.5Y7/3 7.5Y7/3	約7%		R 71		
79	S E 6000 土留上層	既設物 鋼 (口径)20.5mm (高さ)4.3mm (重量)8.6mm	1	口径部コナナフ、内周外 周ナフ、内面ナフ、内 面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい-黄緑 外：E.ぶい-黄緑	10YR7/4	約5%		R 68		
80	S K 6003 土留中層	既設物 鋼 (口径)17.2mm (高さ)2.6mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい-緑 外：E.ぶい-緑	7.5YR7/4	約3%	内面にへら工具による 磨削	R 83		
81	S K 6003 土留中層	既設物 鋼 (口径)16.5mm (高さ)6.7mm	1	口径部コナナフ、内周外 周ナフ、内面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい-緑 外：E.ぶい-緑	10YR6/3 5YR6/4	約4%	口径の1/2	R 82		
82	S K 6015 土留中層	既設物 鋼 (口径)17.5mm (高さ)2.6mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	7.5YR6/6	約5%		R 86		
83	S K 6015 土留中層	既設物 鋼 (口径)20.5mm (高さ)2.6mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい-黄緑 外：E.ぶい-黄緑	10YR7/3 2.5Y7/1	約4%	外周に黒色物付着	R 87		
84	S K 6015 土留中層	既設物 鋼 (口径)16.5mm (高さ)12.3mm	1	口径部コナナフ、内周外 周ナフ、底面ナフ、内 面ナフ、内面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい-黄緑 外：E.ぶい-黄緑	10YR6/3 10YR5/3	約4%	外周にメス付着	R 88		
85	S K 6075 土留中層	既設物 鋼 (口径)8.5mm (高さ)3.5mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	7.5YR7/6	約5%	内面にへら工具の出た り肌	R 90		
86	S K 6075 土留中層	既設物 鋼 (口径)9.4mm (高さ)2.3mm	1	内周外周コナナフ、内面 ナフ、底面ナフ	鋼	良材	内：灰白 外：灰白	5Y6/2	約5%		R 89		
87	S K 6005 土留中層	既設物 鋼 (口径)9.0mm (高さ)0.9mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	7.5YR7/6	約4%	底面を「E」の字口 磨削仕上げ	R 80		
88	S K 6005 土留中層	既設物 鋼 (口径)14.7mm (高さ)5.5mm (重量)4.3mm	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ、内面ナフ、底 面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	10YR7/2 7.5YR7/6	約5%	底面の1/3	硝子硝を底面、底面 の裏にE.ぶい-緑に 付着	R 102	
89	S K 6070 土留中層	既設物 鋼 (口径)13.5mm (高さ)2.3mm	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ、底面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい-緑 外：E.ぶい-緑	5Y6/2 5Y7/1 5Y6/1	約4%	底面にメスが 付着	R 87		
90	S K 6084 土留中層	既設物 鋼 (口径)13.5mm (高さ)2.3mm	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ、底面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	10YR6/4	約5%		R 85		
91	S D 6070 土留中層	既設物 鋼 (口径)14.5mm (高さ)3.5mm	1	口径部コナナフ、内面ナ フ、底面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	7.5YR7/3	約5%	口径の中心がメ ス	R 93		
92	S D 6070 土留中層	既設物 鋼 (口径)14.7mm (高さ)5.5mm (重量)4.3mm	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ、内面ナフ、底 面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	5Y6/1	約5%		R 94		
93	S D 6070 土留中層	既設物 鋼 (口径)14.5mm (高さ)3.5mm (重量)4.3mm	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ、内面ナフ、底 面ナフ	鋼	良材	塗装：E.ぶい 錆止め	5Y7/1 10Y7/2	約7%	底面内面に口径部 の内面に硝子硝を 付着	R 95		
94	S D 6070 土留中層	既設物 鋼 (口径)13.5mm (高さ)6.6mm (重量)6.1mm	1	口径部コナナフ、内周外 周コナナフ、底面ナフ	鋼	良材	内：E.ぶい 外：E.ぶい	2.5Y7/2	約4%	三方面に硝子硝を 付着	R 91		

No	出土品種	品名	数量	調査・技術の特徴	出土	高さ	色	調査	保存率	備考	登録番号
95	S D4870	陶器 山形壺	(口徑)16.0cm (底径) 5.4cm	口縁部ココナテ、器壁内外にタテナテ、底面中央部コナテ	調査	多量	内：灰 外：灰	5YR/2 5YR/4	約90%	口縁部等に部分的に黒色釉付着	R 96
96	S X9000	土師器 片	(口徑)11.6cm (底径) 3.2cm	口縁部ココナテ、体部ナテ、オサエ	調査	多量	内：灰 外：灰	7.5YR/3 5YR/4	約70%		R 76
97	S X9000	土師器 片	(口徑)12.1cm (底径) 2.9cm	口縁部ココナテ、体部ナテ、オサエ	調査	多量	内：灰 外：灰	7.5YR/3	約70%	外側に粘土層を形成	R 75
98	S X9000	土師器 片	(口徑)13.0cm (底径) 2.9cm	口縁部ココナテ、体部ナテ、オサエ	調査	多量	内：灰 外：灰	10YR/4	約90%	外側に粘土層を形成	R 79
99	S X9000	土師器 片	(口徑)12.6cm (底径) 2.8cm	口縁部ココナテ、体部ナテ、オサエ	調査	多量	内：灰 外：灰	10YR/4	約90%	器体部の割傷が深い	R 77
100	S X9000	土師器 片	(口徑)11.2cm (底径) 8.8cm (底径)13.7cm	口縁部ココナテ、器壁外側にタテナテ、内面ナテ、底面ナテ	調査	やや多い	内：灰 外：灰	5YR/3	約90%	器壁に約5mm×約4mmの内側からの割傷痕跡がみられる	R 79
101	E-40 P1	銅製 銅鏡	(径) 10.8cm (厚) 約1.1cm	背面ケズリ、裏面同心円状のストンプ文	調査	1個ほどの破損あり	内：灰 外：灰	5Y5/1	約90%	背面に「六」と刻み残存する	R 98

第100次調査

No	出土品種	品名	数量	調査・技術の特徴	出土	高さ	色	調査	保存率	備考	登録番号
1	F-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	内面ナテ、器壁外側に 縦線ナテの刻み	調査	少量	内：灰 外：灰	2.5YR/3	—	外側に黒か赤色の残存あり	R 13
2	E-12 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	内面ナテ、断面三角形の 刻み	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/4	—		R 22
3	F-8 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	口縁部ナテ目、外側に黒 い平行線文	調査	少量	内：灰 外：灰	10YR/4	—		R 16
4	灰土 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	外縁8本/1.3cmのハテ、 内面ハテの刻み	調査	少量	内：灰 外：灰	2.5Y/2 10YR/3	—			R 25
5	D-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	内面ナテ、器壁外側に 縦線ナテの刻み	調査	少量	内：灰 外：灰	2.5YR/4	—		R 2
6	D-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑)24.6cm (底径)11.6cm	外縁8本/1cm程度のハテ、 内面ハテの刻み	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/6	約90%		R 27
7	S K6945	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	内面ナテ、縦線・斜行平 行線文	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/3	—		R 20
8	F-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	内面ナテ、縦線・斜行平 行線文	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/4 10YR/4	—		R 9
9	F-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	縦線・斜行平 行線文、内面ナテ	調査	少量	内：灰 外：灰	10YR/4 10YR/3	—		R 10
10	F-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	口縁部ココナテ、外側に 縦線文、内面ハテ	調査	少量	内：灰 外：灰	2.5YR/3 2.5Y/2	—		R 17
11	D-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	器壁の平行線文	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/6	—		R 1
12	F-11 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	縦線・斜行平 行線文	調査	少量	内：灰 外：灰	5YR/6	—		R 18
13	D-12 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	8本/1.1cmの縦線・斜行平 行線文、内面ナテ	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/4	—		R 3
14	F-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	口縁部ナテ目、外縁ハテ 内面ナテ	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/4 10YR/4	—		R 12
15	E-8 P2	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	内面ナテ、外縁一帯ハテ 口縁部縦線・斜行平 行線文	調査	少量	内：灰 外：灰	10YR/3	—		R 7
16	F-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	外縁縦線文、内面ナテ	調査	少量	内：灰 外：灰	10YR/4	—		R 5
17	F-9 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑) 一 (底径) 一	外縁縦線・斜行平 行線文、内面ナテ	調査	少量	内：灰 外：灰	10YR/3	—		R 14
18	F-11 包含層II	灰土師 灰土師	(口徑)12.5cm (底径) 5.5cm	器壁ココナテ、器壁外縁 ココナテ	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/1	約70%	外縁に器壁の割傷あり ココナテあり	R 46
19	E-9 包含層II	土師器 片	(口徑) 9.9cm (底径) 3.9cm	口縁部ココナテ、体部ナテ、 オサエ	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/3	約90%	内面に黒色釉付着 粘土層あり	R 49
20	F-13 包含層II	銅製 銅片	(口徑)15.9cm (底径)12.5cm (底径) 4.5cm	口縁部ココナテ、器壁外縁 ココナテ、器壁外縁ココナテ ナテ、斜行平 行線文	調査	少量	内：灰 外：灰	5YR/2	約90%	コナテ右側	R 51
21	E-12 包含層II	土師器 片	(口徑)12.9cm (底径) 2.6cm	外縁ヘラケズリ、内面ナテ	調査	少量	内：灰 外：灰	5YR/6	約90%		R 44
22	E-12 包含層II	土師器 片	(口徑)18.9cm (底径) 5.6cm	外縁ヘラケズリ、内面ナテ	調査	少量	内：灰 外：灰	7.5YR/6	約90%		R 41
23	S D6860	土師器 有付片	(口徑)22.1cm (底径)18.5cm (底径) 7.6cm	口縁部ココナテ、器壁外縁 ヘラケズリ、内縁部 縦線・斜行平 行線文	調査	少量	内：灰 外：灰	5YR/6	約90%		R 34

No	洲土産物	産 品	数 量	調査・検査の特徴	産 土	製 成	色 調	保存状態	備 考	登録番号
24	E-13 惣倉様口	土器 壺	(口径)24.3cm (高さ)7.7cm	口縁部コナナデ、胴部外 面行方ナメヤエ、内面ナデ	庄2m-3mの砂 を含むが微量	良好	内：にぶい黄緑 外： M97R/1	口縁の 約1/6	外側に自然釉かかる	R 52
25	F-10 惣倉様	土器 鉢	(口径)14.2cm (高さ)3.3cm	口縁部コナナデ、体部ナデ、 オヤエ	質	良好	内：黄 外： 7.5YR7/6	約70%		R 53
26	E-15 惣倉様口	土器 鉢	(口径)15.4cm (高さ)3.5cm	口縁部コナナデ、体部内面 ナデ・外側ナメヤ	質	良好	内：黄 外：黄 7.5YR7/6 5YR7/6	約60%		R 48
27	F-12 惣倉様	土器 鉢	(口径)16.3cm (高さ)2.9cm	口縁部コナナデ、体部ナデ、 オヤエ	質	良好	内：黄 外： 5YR7/6	約60%		R 54
28	F-9 惣倉様	土器 鉢	(口径)15.6cm (高さ)3.5cm	外周8cm/1.7cmのハケ、 内面ナメヤ・底ナデ	質	良好	内：黄 外： 2.5YR/3	約80%		R 39
29	S X 6945	土器 鉢	(口径)11.6cm (高さ)2.9cm	口縁部コナナデ、体部ナデ、 オヤエ	質	良好	内：黄 外： 10YR8/3	約90%	自然保存	R 35
30	S X 6948	土器 鉢	(口径)13.2cm (高さ)3.1cm	口縁部コナナデ、体部ナデ、 オヤエ	質	良好	内：黄 外： 10YR8/3	約90%		R 36
31	E-9 瀬戸上原	瓦器 甕	(口径)12.3cm (高さ)5.4cm (底径)4.3cm	口縁部コナナデ、体部コ ナナデ、底面各角切欠調整 底面コナナデ	調査	良好	内：にぶい黄緑 外： 10Y76/3	完全	コナ左磨製	R 47
32	E-12 惣倉様	陶器 (山吹)	(口径)14.8cm (高さ)4.0cm (底径)4.3cm	口縁部コナナデ、体部コ ナナデ、底面各角切欠調整 底面ナメヤ	砂質が多い	良好	内：黄 外： 2.5YR/3	約40%	コナ左磨製	R 38
33	F-9 惣倉様口	土器 壺	(口径)16.7cm (高さ)2.1cm	体部ナデ・オヤエ	質	良好	内：黄 外： 7.5YR8/4	約90%	瓶土焼合焼成	R 43

第101次調査

No	洲土産物	産 品	数 量	調査・検査の特徴	産 土	製 成	色 調	保存状態	備 考	登録番号
1	S X 6979	土器 蓋口壺	(口径)9.8cm (高さ)13.0cm	内径15cm/1.5cm厚位のハケ 内面ナデ・オヤエ	調査	調査	内：黄 外： 7.5YR6/6	良好	完全	R 22
2	S X 6979	土器 壺	(口径)16.6cm (高さ)14.8cm	外周11cm/2.3cm厚位のハケ 内面各角切欠調整	砂質が多いが質	良好	内：黄 外： 2.5YR/3	約70%	自然風酸化著しい	R 23
3	S X 6979	土器 壺	(口径)16.8cm (高さ)15.7cm	外周12cm/2.5cm厚位のハケ 内面各角切欠調整	質	良好	内：黄 外： 7.5YR8/4 2.5YR/3	約80%		R 21
4	S X 6975	土器 皿	(口径)13.7cm (高さ)3.0cm	口縁部コナナデ、体部内 面ナデ・オヤエ	質	良好	内：にぶい黄緑 外： 10Y7/4	良好	外側にヘラ状工具の跡が 残る	R 1
5	S X 6975	土器 皿	(口径)13.6cm (高さ)2.8cm	口縁部コナナデ、体部内 面ナデ・オヤエ	質	良好	内：にぶい黄緑 外： 10Y7/4	完全	外側にヘラ状工具の跡が 残る	R 3
6	S X 6975	土器 皿	(口径)13.6cm (高さ)2.4cm	口縁部コナナデ、体部内 面ナデ・オヤエ	質	良好	内：にぶい黄緑 外： 10Y7/3	完全	外側にヘラ状工具の跡が 残る	R 2
7	S X 6975	土器 皿	(口径)15.3cm (高さ)2.8cm	口縁部コナナデ、体部内 面ナデ・オヤエ	質	良好	内：にぶい黄緑 外： 10Y7/4 7.5YR6/6	約60%	外側にヘラ状工具の跡が 残る	R 4
8	S X 6975	土器 小皿	(口径)8.2cm (高さ)1.5cm	口縁部コナナデ、体部内 面ナデ・オヤエ	砂質が多いが質	良好	内：黄 外： 2.5YR/3	完全		R 5
9	S X 6975	陶器 武蔵瓦	(口径)10.8cm (高さ)3.5cm (底径)4.3cm	口縁に角合、内外面調整 完成、底面内面に角合調整	調査	調査	内外： 緑土：灰白 黄青灰色の胎盤 5YR/2	約40%	産戸原、尾込山部に青花 スタンプあり	R 6
10	S X 6975	土器 鉢	(口径)17.5cm (高さ)10.8cm	口縁部コナナデ、内外面ナ デ・オヤエ	径1-2cm位の砂粒 多量を含む	良好	内：黄 外： 2.5Y7/4	調査 口縁部1/3	外側に黒色物付着	R 7
12	S X 6976	土器 小皿	(口径)7.7cm (高さ)1.3cm	内外面ナデ・オヤエ	質	良好	内：黄 外： 2.5Y7/3	約80%		R 12
13	S X 6976	土器 小皿	(口径)8.8cm (高さ)1.8cm	内外面ナデ・オヤエ	底面に砂粒多量に 含む	良好	内：黄 外： 2.5Y6/4	約40%		R 11
14	S X 6976	土器 皿	(口径)16.2cm (高さ)2.8cm	内外面ナデ・オヤエ	調査	良好	内：黄 外： 2.5Y4/1	約50%		R 9
15	S X 6976	土器 皿	(口径)11.0cm (高さ)3.4cm	内外面ナデ・オヤエ	調査	良好	内：黄 外： 2.5Y6/3	約40%		R 10
16	S X 6976	土器 皿	(口径)11.2cm (高さ)2.5cm	内外面ナデ・オヤエ	砂質が多いが質	良好	内：黄 外： 2.5Y7/3	約80%		R 8
17	S X 6976	土器 皿	(口径)23.3cm (高さ)14.3cm	外周8cm/1.7cmのハケ、ケズ リ、内面ナデ	質	良好	内：黄 外： 10YR8/3 5Y2/1	約60%	外面に多量のメス付着	R 20
18	S X 6977	土器 小皿	(口径)7.7cm (高さ)1.3cm	内外面ナデ・オヤエ	底面に砂質含むが 質	良好	内：黄 外： 2.5Y6/3	完全		R 14
19	S X 6977	土器 小皿	(口径)7.3cm (高さ)0.9cm	内外面ナデ・オヤエ	底面に砂質含むが 質	良好	内：黄 外： 2.5Y6/3	完全		R 15
20	S X 6977	土器 小皿	(口径)7.8cm (高さ)1.3cm	内外面ナデ・オヤエ	底面に砂質含むが 質	良好	内：黄 外： 2.5Y6/3	完全		R 16
21	S X 6977	土器 小皿	(口径)7.3cm (高さ)1.3cm	内外面ナデ・オヤエ	底面に砂質含むが 質	良好	内：灰 外： 2.5Y6/2	完全	瓶土焼合焼成	R 17

No.	地土調査	部 位	取 量	調査・採取の特徴	土 質	状 態	色 調	残存度	備 考	記録番号
22	S X6977	土壌調査 小塚	(口量) 7.4cm (容積) 1.1cm	内外面ナデ・オキユ	腐植質砂質粘土が 多い	良好	内: 灰質 外: #	2.5YR/4	完存	R 18
23	S X6977	土壌調査 小塚	(口量) 7.7cm (容積) 1.3cm	内外面ナデ・オキユ	腐植質砂質粘土が 多い	良好	内: 灰質 外: #	2.5YR/3	完存	やや厚手 R 19
24	S X6977	土壌調査 小塚	(口量) 11.8cm (容積) 2.7cm	内外面ナデ・オキユ	腐植質砂質粘土が 多い	良好	内: 灰質 外: #	2.5YR/4	完存	粘土板が硬質 R 13
25	S D6964	陶器 小塚	(口径) 4.5cm (高さ) 7.7cm	内外面コナダ、底部糸 状の残存も	砂質多いが硬	良好	内: 灰 外: #	7.5YR/1	口縁部の 欠損	R 20
27	S D6964	陶器 小塚	(口量) 10.1cm (口径) 3.8cm (高さ) 3.7cm	口縁部コナダ、体部コナ ダ、底部内面粗砂状の 残存も	やや砂質多いが硬	良好	内: 灰白 外: #	5Y7/2	約70%	R 30
28	S D6973	陶器 小塚 (山形)	(口量) 16.4cm (口径) 7.1cm (高さ) 4.7cm	口縁部コナダ、体部コナ ダ、底部内面粗砂状の 残存も	1cm程度の砂質混入 するが硬	良好	内: 灰白 外: #	7.5YR/1	約80%	口縁部に結晶質見か？ R 22
29	S D6983	コナダ 細砂 付付物	(口量) 16.5cm (口径) 3.8cm (高さ) 3.3cm	口縁部コナダ、体部コナ ダ、底部内面粗砂状の 残存も	やや砂質多いが硬	良好	内: 灰質 外: #	2.5YR/3	約90%	R 24
30	S D0081	コナダ 細砂 付	(口量) 12.4cm (口径) 3.4cm	口縁部コナダ、体部コナ ダ、底部粗砂状の残	硬質	良好	内: 灰 外: #	7.5YR2/6	約80%	R 25
31	包含層	土壌調査	(口量) 22.3cm (口径) 9.9cm	口縁部コナダ、体部ナデ	1cm以下の砂粒多 量に含む	良好	内: 灰白 外: #	5YR/2	約70%	口縁部割折り通して肥厚 する R 31
32	包含層	コナダ 細砂 付	(口量) 8.2cm (口径) 1.8cm	口縁部コナダ、体部コナ ダ	砂質多いが硬	良好	内: 灰白 外: 灰白	10Y7/4 5YR/4	約90%	R 26

第103次調査

No.	地土調査	部 位	取 量	調査・採取の特徴	土 質	状 態	色 調	残存度	備 考	記録番号
1	S B7045	土壌調査 伴	(口量) 14.0cm (口径) 3.2cm	口縁部コナダ、体部外面 ヘラズリ、内面ナデ	硬質	良好	内: 灰 外: #	7.5YR2/6	約100%	R 276
2	S B7045	土壌調査 伴	(口量) 13.5cm (口径) 3.5cm	口縁部コナダ、体部ナデ・ オキユ	硬	良好	内: 灰白 外: 灰白	10YR2/2 5YR/6	約90%	外周に黒土質の包含層、内 面に黒く結晶質の付着 R 273
3	S B7045	土壌調査 伴	(口量) 13.9cm (口径) 3.5cm	口縁部コナダ、体部ナデ・ オキユ	硬	良好	内: 灰白 外: #	7.5YR6/4	約40%	R 274
4	S B7045	土壌調査 伴	(口量) 17.2cm (口径) 3.3cm	口縁部コナダ、体部外面 ヘラズリ、内面ナデ	やや砂質多いが硬	良好	内: 粗砂 外: #	5YR5/8	約80%	表面部の割折りが多い R 272
5	S B7045	土壌調査 伴	(口量) 20.3cm (口径) 3.1cm	口縁部コナダ、体部外面 ヘラズリ、内面ナデ	やや砂質多いが硬	良好	内: 灰 外: #	5YR6/8	約40%	R 281
6	S B7045	土壌調査 伴	(口量) 22.0cm (口径) 3.8cm	口縁部コナダ、体部外面 ヘラズリ、内面ナデ	硬	良好	内: 灰 外: #	7.5YR2/6 5YR6/6	約30%	R 279
7	S B7045	硬質砂 付	(口量) 15.2cm (口径) 3.8cm	口縁部コナダ、体部コナ ダ、底部外面ナデ	厚1mm～3mmの砂 質を含む	良好	内: 灰質 外: #	2.5YR/2	約90%	R 277
8	S B7045	硬質砂 付	(口量) 16.0cm (口径) 3.3cm	外面コナダ、体部コナ ダ、底部粗砂状ナデ	厚1mm～5mmの砂 質、小石を含む	良好	内: ナデ 外: 粗ナデ	5YR6/1 5YR/4	約90%	R 278
9	S B7045	硬質砂 付	(口量) 13.4cm (口径) 3.5cm	外面コナダ、体部コナ ダ、底部粗面ヘラズリ	厚1mm以下の砂粒 を含むが硬	良好	内: 灰 外: #	5YR/1	約70%	R 271
10	S B7045	硬質砂 付付物	(口量) 13.3cm (口径) 3.2cm (高さ) 3.5cm	外面コナダ、体部コナ ダ、底部粗面ヘラズリ	厚1mm以下の砂粒 を含むが硬	良好	内: 灰質 外: #	2.5YR/2	約40%	R 270
11	S B7045	硬質砂 付付物	(口量) 16.4cm (口径) 3.1cm (高さ) 3.8cm	外面コナダ、体部コナ ダ、底部粗面ヘラズリ	硬	良好	内: 灰質 外: #	2.5YR/2	約100%	R 275
12	S B7045	土壌調査 伴	(口量) 16.7cm (口径) 9.8cm	口縁部コナダ、体部外面 ナデ、内面コナダ	腐植質砂質多量に 含む	良好	内: 腐植質 外: 灰 5YR6/6 ~ 灰質 2.5Y/4/1	口縁部の1/4	外周二次焼成による赤化 が一層みられる R 280	
13	S B7045	土壌調査 肥厚付	(口量) 24.2cm (口径) 10.2cm (高さ) 10.2cm	口縁部コナダ、体部コナ ダ、底部粗面ヘラズリ、内 面ヘラズリ	硬質	良好	内: 粗砂 外: #	5YR5/8	約90%	R 269
14	S K7048	土壌調査 高塚	(口量) 23.2cm (口径) 9.2cm (高さ) 9.1cm	口縁部コナダ	硬質・粘状	良好	内: 灰白 外: #	2.5YR5/8	約90%	R 286
15	S A7000	硬質砂 付	(口量) 14.5cm (口径) 3.0cm	口縁部コナダ、上部ヘラ ズリ、内面コナダ	厚1mm～2mmの長 石を含む	良好	内: 粘ナデ 外: 粘砂	2.5YR4/1 10YR2/1	約90%	R 304
16	S K7037	土壌調査 伴	(口量) 13.2cm (口径) 3.0cm	口縁部コナダ、体部ナデ	やや砂質多いが硬	良好	内: 灰 外: #	5YR6/8	約40%	全周部割れが多い R 228
17	S K7037	土壌調査 伴	(口量) 13.7cm (口径) 3.6cm	口縁部コナダ、体部ナデ・ オキユ	硬	良好	内: 灰 外: #	5YR2/6	約40%	R 215
18	S K7037	土壌調査 伴	(口量) 13.6cm (口径) 3.4cm	口縁部コナダ、体部ナデ	硬	良好	内: 粗砂 外: #	7.5YR6/6	約40%	R 214
19	S K7037	土壌調査 伴	(口量) 13.4cm (口径) 3.3cm	口縁部コナダ、体部ナデ	硬	良好	内: 灰 外: #	5YR6/8	約90%	R 237
20	S K7037	土壌調査 伴	(口量) 14.2cm (口径) 2.2cm	口縁部コナダ、体部ナデ	硬	良好	内: 腐植質 外: #	10YR2/6	約70%	R 240

No	社名	種 類	積 量	調査・検査の特徴	勘 土	調 査	色 調	備考	備 考	登録番号
21	S K 7017	土壌 採	(口徑)15.5cm (高さ)3.5cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	調査	良好	内：E.ふい-黄緑 外：#	10YR7/4 #	約60%	R 226
22	S K 7017	土壌 採	(口徑)15.5cm (高さ)3.1cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	やや多い	内：E.ふい-黄緑 外：#	10YR7/4 #	約40%	全国調査用
23	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.2cm (高さ)3.3cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約30%	赤土調査用
24	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.4cm (高さ)3.2cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：#	10YR7/8 #	充	全国調査用
25	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.7cm (高さ)3.1cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：#	7.5YR6/8 #	約60%	赤土調査用
26	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.2cm (高さ)3.6cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約40%	R 232
27	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.5cm (高さ)3.4cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約50%	R 230
28	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.9cm (高さ)3.4cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	やや多い	良好	内：黄 外：#	7.5YR7/8 #	約50%	R 231
29	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.2cm (高さ)2.9cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：黄緑	2.5YR6/8 2.5YR5/8	約60%	R 229
30	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.0cm (高さ)3.6cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	やや多い	良好	内：黄 外：#	7.5YR6/8 #	約40%	赤土調査用
31	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.4cm (高さ)3.1cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：#	7.5YR6/8 #	約60%	R 223
32	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.4cm (高さ)2.9cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	調査	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約70%	赤土調査用
33	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.5cm (高さ)3.3cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	調査	乾燥	内：黄 外：#	5YR5/8 #	約80%	R 225
34	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.7cm (高さ)3.2cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	調査	乾燥	内：黄 外：#	7.5YR7/8 #	約60%	R 224
35	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.5cm (高さ)3.4cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	調査	良好	内：黄 外：#	7.5YR7/8 #	約30%	R 221
36	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.0cm (高さ)3.0cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：E.ふい-黄緑 外：#	10YR7/3 #	約60%	R 213
37	S K 7017	土壌 採	(口徑)15.2cm (高さ)3.7cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	調査	良好	内：E.ふい-黄緑 外：#	10YR7/4 #	約40%	R 244
38	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.5cm (高さ)3.9cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	やや多い	やや多い	内：黄 外：#	7.5YR6/4 #	約40%	全国調査用
39	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.4cm (高さ)3.7cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	やや多い	内：黄 外：#	10YR6/4 #	約40%	赤土調査用
40	S K 7017	土壌 採	(口徑)16.4cm (高さ)3.9cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	やや多い	良好	内：黄 外：#	7.5YR7/8 #	約40%	R 265
41	S K 7017	土壌 採	(口徑)17.0cm (高さ)3.9cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約40%	R 211
42	S K 7017	土壌 採	(口徑)15.4cm (高さ)3.3cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：黄緑	2.5YR5/8 #	約80%	R 266
43	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.9cm (高さ)3.2cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	調査	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約70%	R 286
44	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.4cm (高さ)3.3cm	口徑型二成コナダ、体部 ナ	密	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約30%	R 241
45	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.0cm (高さ)3.3cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	調査	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約40%	R 289
46	S K 7017	土壌 採	(口徑)14.4cm (高さ)3.6cm	口徑型二成コナダ、体部 ナ	密	良好	内：黄 外：#	7.5YR6/8 #	約40%	R 252
47	S K 7017	土壌 採	(口徑)15.0cm (高さ)2.9cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	やや多い	良好	内：E.ふい-黄緑 外：#	10YR7/4 #	約60%	R 246
48	S K 7017	土壌 採	(口徑)15.8cm (高さ)3.4cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	やや多い	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約70%	赤土調査用
49	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.6cm (高さ)3.2cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：黄緑	5YR6/8 10YR7/6 2.5YR6/8	約70%	R 285
50	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.4cm (高さ)2.8cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	やや多い	内：黄 外：黄	7.5YR7/6 10YR6/4 7.5YR7/6	約60%	R 228
51	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.2cm (高さ)2.9cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約40%	赤土調査用
52	S K 7017	土壌 採	(口徑)13.7cm (高さ)3.2cm	口徑型コナダ、体部ナ オキス	密	良好	内：黄 外：#	5YR6/8 #	約70%	R 213

№	出土遺物	数量	調査・注目の特徴	出土	調査	位置	埋没状況	調査	埋没状況	備考	登録番号
53	S KC7017	土師器 鉢 (口径)13.2cm (高さ) 2.5cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	040%			R 179
54	S KC7017	土師器 鉢 (口径)12.8cm (高さ) 2.5cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	040%			R 185
55	S KC7017	土師器 鉢 (口径)13.6cm (高さ) 2.7cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	中々砂質多いが埋	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	040%			R 204
56	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.1cm (高さ) 2.9cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	中々砂質多いが埋	良好	内：埋 外：*	10YR8/4 *	030%			R 236
57	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.2cm (高さ) 3.1cm	口縁部×コナデ、体部ナデ	砂質が多い	ややあまい	内：埋 外：*	10YR8/3 *	030%			R 263
58	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.6cm (高さ) 2.9cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	030%			R 223
59	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.5cm (高さ) 3.2cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	7.5YR6/6 *	030%			R 228
60	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.3cm (高さ) 3.6cm	口縁部二重×コナデ、体部 ナデ×オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	040%			R 260
61	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.4cm (高さ) 3.4cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	7.5YR7/6 *	030%			R 242
62	S KC7017	土師器 鉢 (口径)13.0cm (高さ) 2.9cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	7.5YR7/6 *	030%			R 191
63	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.2cm (高さ) 2.9cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	10YR7/6 *	030%			R 254
64	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.3cm (高さ) 3.1cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	7.5YR6/6 *	030%			R 255
65	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.2cm (高さ) 3.1cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	完全	外周に粘土層あり		R 201
66	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.0cm (高さ) 2.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	中々砂質多いが埋	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	030%			R 187
67	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.8cm (高さ) 2.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	030%			R 181
68	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.2cm (高さ) 2.1cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	030%			R 249
69	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.4cm (高さ) 2.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR7/6 *	030%			R 197
70	S KC7017	土師器 鉢 (口径)16.3cm (高さ) 2.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	7.5YR7/6 *	040%			R 225
71	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.7cm (高さ) 2.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	7.5YR7/6 *	040%			R 180
72	S KC7017	土師器 鉢 (口径)16.5cm (高さ) 2.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	7.5YR6/6 *	030%			R 202
73	S KC7017	土師器 鉢 (口径)16.3cm (高さ) 2.5cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	7.5YR7/6 *	完全			R 204
74	S KC7017	土師器 鉢 (口径)16.2cm (高さ) 1.7cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	7.5YR7/6 *	040%			R 193
75	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.4cm (高さ) 1.6cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	030%			R 208
76	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.2cm (高さ) 1.7cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	ほぼ完全			R 245
77	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.4cm (高さ) 1.6cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	030%	器表面の磨耗が大きい		R 196
78	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.8cm (高さ) 1.6cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	030%			R 226
79	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.4cm (高さ) 1.7cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：埋 外：*	5YR6/6 10YR7/6 *	030%			R 184
80	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.4cm (高さ) 1.2cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	ややあまい	内：埋 外：*	10YR8/3 *	030%	器表面の磨耗が大きい		R 218
81	S KC7017	土師器 鉢 (口径)14.2cm (高さ) 1.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	030%			R 227
82	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.0cm (高さ) 1.2cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：埋 外：*	10YR8/4 10YR7/6 *	040%			R 183
83	S KC7017	土師器 鉢 (口径)13.0cm (高さ) 0.9cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	030%			R 217
84	S KC7017	土師器 鉢 (口径)15.3cm (高さ) 1.4cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤユ	鎌倉	良好	内：埋 外：*	5YR6/6 *	040%			R 194

No	国土建費	部 種	部 量	調査・採集の物産	地 土	採 成	色 調	備考	備 考	図説番号
85	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.5cm (部量)1.7cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：暗赤褐 外： ●	5YR5/3	充存	R 198
86	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.0cm (部量)1.6cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：黒 外： ●	7.5YR6/4	約90%	R 256
87	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)16.0cm (部量)1.9cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：黒 外： ●	5YR6/3	約90%	R 207
88	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.9cm (部量)1.3cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：黒 外： ●	7.5YR7/4	約90%	R 267
89	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)13.3cm (部量)1.6cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	やや多い	内：暗赤褐 外： ●	10YR7/6	充存	断面割断面狭しい R 268
90	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)13.6cm (部量)1.3cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：黒 外： ●	5YR6/4	約90%	R 261
91	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.3cm (部量)1.7cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：こぶい-黒 外： ●	7.5YR7/4	約90%	R 192
92	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.6cm (部量)1.7cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：こぶい-黒 外： ●	10YR7/4	約90%	R 300
93	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.5cm (部量)1.5cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：黒 外： ●	5YR6/4	約90%	R 239
94	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.7cm (部量)1.5cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：黒 外： ●	5YR6/4	約40%	断面内部にネズミの糞が 散る R 243
95	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.9cm (部量)1.7cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	雑樹	良好	内：黒 外： ●	5YR6/6	約70%	R 224
96	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.0cm (部量)1.5cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：黒 外： ●	5YR6/6	約90%	R 308
97	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.1cm (部量)1.3cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	やや多い	内：黒 外： ●	7.5YR7/6	充存	断面割断面狭しい R 206
98	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)14.4cm (部量)1.9cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	雑樹	良好	内：黒 外： ●	5YR6/8	充存	R 203
99	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)15.1cm (部量)1.6cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：黒 外： ●	7.5YR6/6	約90%	断面割断面狭しい R 208
100	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)26.0cm (部量)21.0cm	口部Ⅲコナダ、体部外層 オキエ、オキエ、内層 オキエ	やや多いが菅	良好	内：暗赤褐 外：暗赤褐 ●	10YR8/8 10YR8/8 10YR8/2	口部の90%	断面二次酸化による黒化 とスリ層 R 201
101	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)27.6cm (部量)22.0cm	口部Ⅲコナダ、体部外層 オキエ、オキエ、内層 オキエ	菅	良好	内：暗赤褐 外：こぶい-黒 ●	10YR8/2 10YR7/4	口部の1/4	R 230
102	SK7017	土壌部 Ⅲ	(口量)19.4cm (部量)14.3cm	口部Ⅲコナダ、体部外層 オキエ、オキエ、内層 オキエ、オキエ	菅	良好	内：暗赤褐 外：こぶい-黒 ●	10YR8/4 10YR7/2	約90%	R 188
103	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)13.1cm (部量)2.8cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	雑樹	良好	内：暗赤褐 外：こぶい-黒 ●	7.5YR7/6 7.5YR7/4	約90%	R 89
104	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)12.8cm (部量)2.3cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：暗赤 外： ●	2.5YR3/2	約90%	R 61
105	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)13.4cm (部量)3.1cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	やや多いが菅	良好	内：暗赤褐 外： ●	10YR7/6	約90%	断面割断面による大きな オキエ層がみられる R 63
106	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)14.5cm (部量)3.5cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：暗赤褐 外： ●	10YR8/4	約90%	断面割断面狭しい R 62
107	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)13.7cm (部量)2.4cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：こぶい-黒 外： ●	7.5YR7/4	約90%	中がふらふら、中がふら ふらについてとみられる 断面二次酸化による R 64
108	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)14.4cm (部量)3.1cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	雑樹	良好	内：暗赤 外：こぶい-黒 ●	10YR8/1 10YR8/2	約90%	R 60
109	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)13.8cm (部量)2.7cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：こぶい-黒 外： ●	10YR7/2	約70%	断面割断面狭しい R 65
110	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)12.8cm (部量)2.1cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	やや多いが菅	良好	内：こぶい-黒 外： ●	5YR7/2	約90%	R 67
111	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)12.6cm (部量)2.1cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：暗赤褐 外： ●	10YR8/3	約90%	断面割断面狭しい R 66
112	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)12.5cm (部量)2.8cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	雑樹と砂質、動物 の糞、若干の小 石あり	良好	内：こぶい-黒 外： ●	10YR7/4	約90%	断面割断面による大きな オキエ層がみられる R 146
113	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)13.3cm (部量)2.8cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：こぶい-黒 外： ●	7.5YR6/4	約90%	R 145
114	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)13.3cm (部量)2.8cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	やや多いが菅	良好	内：こぶい-黒 外： ●	10YR6/4	約90%	R 151
115	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)15.0cm (部量)3.1cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：こぶい-黒 外： ●	10YR7/4	約90%	断面割断面狭しい R 150
116	SK7030	土壌部 Ⅲ	(口量)13.4cm (部量)2.6cm	口部Ⅲコナダ、体部ナダ、 オキエ	菅	良好	内：黒 外： ●	5YR6/8	約90%	R 153

No	品名	数量	単位・仕入の特長	施工	用途	色	調	備付率	備考	登録番号
117	S K7000 土部群 林	(口徑)12.2m (樹高) 2.7m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常緑な樹葉が 多い	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/4 *	約80%	樹葉が小さく葉裏面の緑が 下りた	R 147
118	S K7000 土部群 林	(口徑)14.0m (樹高) 3.1m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/4 *	約100%		R 152
119	S K7000 土部群 林	(口徑)14.4m (樹高) 3.3m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：緑 外：*	7.5YR2/6 *	約100%		R 117
120	S K7000 土部群 林	(口徑)12.8m (樹高) 3.0m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄緑 外：黄緑	10YR4/2 2.5YR2/3	充分		R 58
121	S K7000 土部群 林	(口徑)13.6m (樹高) 2.7m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄緑 外：*	2.5YR/3 *	約80%		R 114
122	S K7000 土部群 林	(口徑)13.7m (樹高) 2.5m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄緑 外：*	2.5YR/3 *	約80%	樹葉のゆがみ大きい	R 116
123	S K7000 土部群 林	(口徑)14.3m (樹高) 3.1m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/4 *	約90%	樹葉面の緑が濃い	R 129
124	S K7000 土部群 林	(口徑)13.1m (樹高) 2.3m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/4 *	ほぼ充分	樹葉面の緑が濃い	R 131
125	S K7000 土部群 林	(口徑)13.0m (樹高) 2.3m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/4 *	約80%		R 130
126	S K7000 土部群 林	(口徑)16.6m (樹高) 7.4m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄 外：*	2.5YR2/3 *	約80%	口徑の1/4	R 174
127	S K7000 土部群 林	(口徑)13.1m (樹高) 2.3m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄緑 外：*	2.5YR/3 *	約70%		R 167
128	S K7000 土部群 林	(口徑)12.7m (樹高) 2.5m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/4 *	ほぼ充分		R 166
129	S K7000 土部群 林	(口徑)13.6m (樹高) 2.4m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄 外：*	7.5YR2/4 *	約90%		R 87
130	S K7000 土部群 林	(口徑)13.2m (樹高) 2.8m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄 外：黄緑	7.5YR2/4 2.5YR2/3	約90%		R 96
131	S K7000 土部群 林	(口徑)13.2m (樹高) 2.3m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄緑 外：K.白い-黄	10YR4/1 10YR2/4	約80%		R 90
132	S K7000 土部群 林	(口徑)13.7m (樹高) 2.5m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄緑 外：*	2.5YR/4 *	約70%	樹葉面の緑が濃い	R 86
133	S K7000 土部群 林	(口徑)14.2m (樹高) 3.5m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：緑 外：*	7.5YR2/6 *	約70%		R 84
134	S K7000 土部群 林	(口徑)13.0m (樹高) 3.5m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：緑 外：*	7.5YR2/6 *	約100%		R 80
135	S K7000 土部群 林	(口徑)18.6m (樹高) 4.3m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：緑 外：*	7.5YR2/6 *	約40%		R 89
136	S K7000 土部群 林	(口徑)12.5m (樹高) 2.5m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄緑 外：黄緑	10YR2/3 *	約90%		R 108
137	S K7000 土部群 林	(口徑)13.2m (樹高) 2.5m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/4 *	ほぼ充分		R 107
138	S K7000 土部群 林	(口徑)12.2m (樹高) 2.5m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄 外：黄赤褐	5YR6/6 5YR5/6	約90%		R 112
139	S K7000 土部群 林	(口徑)14.6m (樹高) 3.3m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：緑 外：*	7.5YR2/6 *	約90%		R 106
140	S K7000 土部群 林	(口徑)16.2m (樹高) 2.7m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/3 *	約90%		R 111
141	S K7000 土部群 林	(口徑)13.5m (樹高) 2.7m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：緑 外：*	7.5YR2/6 *	約80%		R 142
142	S K7000 土部群 林	(口徑)13.2m (樹高) 2.6m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/4 *	約90%		R 143
143	S K7000 土部群 林	(口徑)13.2m (樹高) 2.7m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/3 *	約90%	内葉裏面は強くマダヒ 感あり	R 168
144	S K7000 土部群 林	(口徑)12.5m (樹高) 2.6m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：緑 外：*	7.5YR2/6 *	約80%		R 169
145	S K7000 土部群 林	(口徑)15.6m (樹高) 4.7m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：K.白い-黄緑 外：*	10YR2/4 *	約70%		R 170
146	S K7000 土部群 林	(口徑)12.8m (樹高) 2.6m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：緑 外：*	7.5YR2/6 *	約80%		R 162
147	S K7000 土部群 林	(口徑)12.8m (樹高) 2.7m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄 外：黄緑	2.5YR/2 2.5YR/3	約40%		R 161
148	S K7000 土部群 林	(口徑)12.6m (樹高) 2.7m	白楕圓×コナデ、体部ナデ、 オヤシ	常	良好	内：黄緑 外：*	2.5YR/4 *	約40%	樹葉面黄緑色	R 154

No	品名	数量	調整・注目の特長	加工	構成	色	調整	既着床	備考	設備番号
149	S K 7000 土留部材	(口径)12.8mm (高さ)2.7mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：黒 外：黒	7.5YR6/6 #	約60%		R 155
150	S K 7000 土留部材	(口径)12.8mm (高さ)2.8mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：黒 外：黒	7.5YR7/6 #	約60%	柱状充填	R 160
151	S K 7000 土留部材	(口径)13.2mm (高さ)2.8mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	良好	内：灰黄緑 外：灰黄緑	10YR6/2 7.5YR6/4 #	約60%		R 156
152	S K 7000 土留部材	(口径)12.8mm (高さ)2.5mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：灰黄 外：黒	2.5YR/3 #	約60%		R 159
153	S K 7000 土留部材	(口径)14.2mm (高さ)2.8mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：黒 外：黒	7.5YR7/6 5YR6/4 #	約60%		R 157
154	S K 7000 土留部材	(口径)15.4mm (高さ)3.6mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	やや砂質多いが密	良好	内：灰黄緑 外：黒	10YR/4 #	約60%		R 158
155	S K 7000 土留部材	(口径)15.7mm (高さ)3.3mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	若干ふたしい	内：灰黄 外：黒	2.5YR/3 #	約60%		R 144
156	S K 7000 土留部材	(口径)15.0mm (高さ)2.8mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	良好	内：灰黄 外：黒	10YR7/4 #	約60%		R 133
157	S K 7000 土留部材	(口径)12.8mm (高さ)2.5mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	やや砂質多いが密	良好	内：灰黄 外：黒	10YR7/4 #	約60%		R 132
158	S K 7000 土留部材	(口径)13.2mm (高さ)2.8mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：灰黄緑 外：灰黄緑	10YR6/4 7.5YR6/3 #	約60%	柱状充填 密着面の厚縮すすむ	R 104
159	S K 7000 土留部材	(口径)15.0mm (高さ)2.8mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	密着	内：灰黄緑 外：黒	10YR6/4 #	約60%		R 305
160	S K 7000 瓦脚部材	(全径)6.7mm (高さ)1.7mm	外周クロナテ、底部ク ロナテ、内面ナゲ	密着	密着	内：灰黄 外：黒	2.5Y7/2 #	両面径の 1/3		R 96
161	S K 7000 土留部材	(口径)13.2mm (高さ)3.4mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	やや砂質多いが密	良好	内：灰黄緑 外：黒	10YR6/4 #	約60%		R 171
162	S K 7000 土留部材	(口径)15.2mm (高さ)2.8mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：灰黄緑 外：黒	10YR6/4 #	約60%		R 172
163	S K 7000 土留部材	(口径)13.4mm (高さ)3.1mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	やや砂質多いが密	良好	内：灰黄 外：黒	7.5YR7/4 #	約60%	柱状充填	R 173
164	S K 7000 土留部材	(口径)13.1mm (高さ)2.8mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	やや砂質多いが密	良好	内：黒 外：黒	5YR7/5 #	約60%	柱状充填 密着面の厚縮すすむ・風化著しい	R 145
165	S K 7000 土留部材	(口径)14.6mm (高さ)3.3mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	密着	内：灰黄 外：黒	7.5YR7/4 #	約60%	密着のゆるみ大きい	R 138
166	S K 7000 土留部材	(口径)13.0mm (高さ)2.7mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：灰黄 外：黒	7.5YR7/4 #	約60%		R 75
167	S K 7000 土留部材	(口径)13.0mm (高さ)3.0mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	良好	内：灰黄 外：黒	10YR7/3 #	約60%		R 88
168	S K 7000 土留部材	(口径)12.8mm (高さ)3.1mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	密着	内：灰黄緑 外：黒	10YR6/3 #	約60%		R 69
169	S K 7000 土留部材	(口径)13.0mm (高さ)3.2mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：灰黄 外：黒	10YR7/4 #	約60%		R 70
170	S K 7000 土留部材	(口径)13.2mm (高さ)2.5mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	良好	内：灰黄緑 外：灰黄緑	10YR6/4 10YR7/4 #	約60%		R 80
171	S K 7000 土留部材	(口径)15.2mm (高さ)3.3mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	良好	内：灰黄 外：黒	7.5YR6/4 #	約60%	径10mm程度の特殊形状孔 を内から内へ通す	R 71
172	S K 7000 土留部材	(口径)13.2mm (高さ)2.5mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	密着	内：黒 外：黒	5YR6/6 #	約60%		R 72
173	S K 7000 土留部材	(口径)14.9mm (高さ)2.7mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	良好	内：灰黄 外：黒	10YR6/4 #	約60%		R 77
174	S K 7000 土留部材	(口径)14.5mm (高さ)2.8mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密着	良好	内：灰黄 外：黒	10YR7/4 #	約60%		R 78
175	S K 7000 土留部材	(口径)15.2mm (高さ)2.5mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：灰黄 外：黒	10YR7/4 #	約60%		R 76
176	S K 7000 土留部材	(口径)15.5mm (高さ)4.0mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	やや砂質多いが密	良好	内：灰黄 外：黒	10YR7/4 #	約60%	外周に粘土接着剤付	R 79
177	S K 7000 土留部材	(口径)15.0mm (高さ)2.5mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：黒 外：黒	7.5YR7/6 #	約60%	柱状充填 密着面の厚縮すすむ	R 83
178	S K 7000 土留部材	(口径)15.2mm (高さ)2.5mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：灰黄 外：黒	2.5YR/3 7.5YR7/6 #	約60%		R 81
179	S K 7000 土留部材	(口径)13.0mm (高さ)2.5mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：黒 外：黒	7.5YR7/6 7.5YR6/6 #	約60%		R 82
180	S K 7000 土留部材	(口径)13.0mm (高さ)2.5mm	口留部材コナテ、内面ナゲ オキス	密	良好	内：灰黄 外：黒	7.5YR7/4 #	約60%		R 164

No	地上建群	用途	数量	調整・注意の事項	給土	構造	色	調整	残存率	出典の号	建群番号
181	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.1m (幅員)2.9m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	中々金太い	内:既装 外:*	5.5YR/2	約80%		R 165
182	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.4m (幅員)2.6m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:Kふい-黄緑 外:*	10YR7/4	ほぼ完全		R 163
183	S K7000	土地区画 区分	(口積)12.7m (幅員)2.5m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:黒 外:*	7.5YR7/6	約90%		R 126
184	S K7000	土地区画 併合	(口積)12.7m (幅員)2.5m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	堅固	内:Kふい-黄緑 外:既装塗	10YR6/2 10YR5/3	約60%		R 160
185	S K7000	土地区画 併合	(口積)14.0m (幅員)3.0m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:黒 外:*	7.5YR6/6	約90%		R 110
186	S K7000	土地区画 併合	(口積)15.2m (幅員)3.6m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:Kふい-黄緑 外:*	10YR7/3	約90%		R 127
187	S K7000	土地区画 併合	(口積)12.5m (幅員)3.4m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	良好	内:黒 外:*	7.5YR7/6	約40%		R 120
188	S K7000	土地区画 併合	(口積)11.8m (幅員)3.0m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:Kふい-黄緑 外:*	10YR7/4	約40%		R 134
189	S K7000	土地区画 併合	(口積)12.3m (幅員)2.7m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:既装塗 外:*	10YR8/4	約60%		R 102
190	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.5m (幅員)2.9m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	堅固	内:Kふい-黄緑 外:*	10YR7/4	約80%		R 135
191	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.3m (幅員)2.9m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:Kふい-黒 外:*	7.5YR7/4	約90%		R 103
192	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.3m (幅員)2.7m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:既装塗 外:*	10YR8/4	約70%		R 136
193	S K7000	土地区画 併合	(口積)24.6m (幅員)11.7m	口積型コナダ、併合内面 タテカ、テズリ、内面ナ ダ、オキユ	密	良好	内:黒 外:*	7.5YR7/6	約70%		R 73
194	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.2m (幅員)3.1m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	良好	内:Kふい-黒 外:*	7.5YR7/4	約90%		R 138
195	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.1m (幅員)3.1m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:黒 外:*	7.5YR6/6	約40%		R 137
196	S K7000	土地区画 併合	(口積)12.5m (幅員)2.7m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	良好	内:黒 外:*	5YR6/6	約90%		R 93
197	S K7000	土地区画 併合	(口積)12.5m (幅員)2.9m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:Kふい-黒 外:*	7.5YR7/4	約90%		R 101
198	S K7000	土地区画 併合	(口積)14.2m (幅員)2.5m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	良好	内:既装塗 外:*	10YR8/4	約90%		R 100
199	S K7000	土地区画 併合	(口積)14.0m (幅員)2.9m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:既装塗 外:*	10YR8/4	約60%		R 92
200	S K7000	土地区画 併合	(口積)14.5m (幅員)3.0m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	良好	内:黒 外:*	7.5YR7/6	約90%		R 94
201	S K7000	土地区画 併合	(口積)16.4m (幅員)3.5m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:黒 外:*	5YR6/6	約70%		R 91
202	S K7000	土地区画 併合	(口積)16.6m (幅員)3.7m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:黒 外:*	7.5YR7/6	口積の1/4		R 90
203	S K7000	土地区画 併合	(口積)20.4m (幅員)12.8m (幅員)0.7m	口積型コナダ、併合内面 ナダ、断面外壁ヘラシ リ	密	良好	内:Kふい-黄緑 外:*	10YR7/4	約90%		R 74
204	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.3m (幅員)2.9m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:Kふい-黒 外:*	7.5YR7/4	約90%		R 116
205	S K7000	土地区画 併合	(口積)12.0m (幅員)2.9m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	堅固	内:Kふい-黄緑 外:*	10YR6/2	ほぼ完全		R 56
206	S K7000	土地区画 併合	(口積)12.8m (幅員)2.4m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	良好	内:Kふい-黒 外:*	7.5YR7/4	約80%		R 122
207	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.8m (幅員)3.5m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:黒 外:*	7.5YR7/6	約90%		R 125
208	S K7000	土地区画 併合	(口積)14.6m (幅員)3.6m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:黒 外:*	7.5YR6/6	約60%		R 123
209	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.8m (幅員)3.5m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:Kふい-黒 外:*	7.5YR7/4	約90%		R 120
210	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.3m (幅員)2.7m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密着	良好	内:Kふい-黒 外:*	7.5YR7/4	約90%		R 141
211	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.5m (幅員)2.6m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:既装塗 外:*	10YR8/4	約90%		R 121
212	S K7000	土地区画 併合	(口積)13.2m (幅員)2.8m	口積型コナダ、併合ナダ オキユ	密	良好	内:既装塗 外:*	10YR8/4	ほぼ完全		R 57

No.	西土産質	形 種	容 量	製造・加工の特徴	加工	質 感	色 調	気味	備 考	登録番号
213	S K7000	土器鉢 鉢	(口径)15.2cm (高さ)3.6cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製	良好	内：灰白・黒 外：灰白・黄褐色	7.5YR6/3 10YR7/3	約70%	R 113
214	S K7000	土器鉢 鉢	(口径)13.4cm (高さ)2.4cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製	良好	内：灰白・黄褐色 外：灰白	10YR7/4	約70%	R 55
215	S K7000	土器鉢 鉢	(口径)14.1cm (高さ)2.6cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰白・黄褐色 外：灰白	10YR6/3	約60%	R 118
216	S K7000	瓦器陶板 板	(合厚)9.1cm (長さ)3.2cm	外周部コナダ、内面ナダ	磨	良好	内：灰白・黄色 外：灰白	10YR7/2	約50%	R 85
217	S K7000	瓦器鉢 鉢	(底径)5.0cm (高さ)2.5cm	内周部コナダ、底面部オヤエ	磨	良好	内：灰白 外：灰黄	5Y7/1 2.5Y7/1	底径の1/3	R 97
218	S K7000	土器鉢 台付鉢	(合厚)14.7cm (高さ)5.0cm	外周部コナダ、内面ナダ	やや砂質多いが磨	良好	内：灰黄褐色 外：黒	7.5YR8/4 5YR7/6	台径の1/4	R 177
219	S K7000	土器鉢 鉢	(口径)18.4cm (高さ)7.1cm	口縁部コナダ、底面外周ナダ、オヤエ、内面ナダ	やや砂質多いが磨	良好	内：灰黄褐色 外：灰	7.5YR6/4	口径の1/4	器裏面の厚肉寸十七
220	S K7000	土器鉢 鉢	(口径)20.6cm (高さ)7.3cm	口縁部コナダ、体部外周部オヤエ、内面ナダ	磨	良好	内：灰黄褐色 外：灰	10YR8/3	口径の1/4	R 178
221	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.0cm (高さ)2.8cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製	良好	内：灰白・黄褐色 外：灰	10YR7/4	約60%	R 3
222	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)11.8cm (高さ)2.3cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：黒 外：灰	7.5YR6/5	約40%	R 25
223	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)11.9cm (高さ)2.3cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製	良好	内：灰黄褐色 外：灰	10YR6/4	約40%	R 48
224	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)11.9cm (高さ)2.8cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製な砂質多いが磨	良好	内：灰黄 外：灰	2.5YR8/4	約60%	R 15
225	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.3cm (高さ)3.7cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰白・黄褐色 外：灰	7.5YR6/5	約45%存在	R 11
226	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.1cm (高さ)3.3cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰黄褐色 外：灰	10YR6/4	約60%	R 34
227	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)13.2cm (高さ)3.2cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製	良好	内：灰黄 外：灰	2.5YR8/4	約40%	R 38
228	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)14.2cm (高さ)3.1cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：黒 外：灰	7.5YR7/4	約30%	R 54
229	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.9cm (高さ)3.0cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰黄褐色 外：灰	10YR6/3	約40%	R 30
230	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)14.5cm (高さ)3.4cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰黄褐色 外：灰	10YR6/4	約60%	R 30
231	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)13.3cm (高さ)2.9cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰白・黄褐色 外：灰	10YR7/4	約60%	R 36
232	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.9cm (高さ)2.7cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰白・黄褐色 外：灰	10YR7/4	約60%	R 49
233	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.0cm (高さ)2.4cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰黄褐色 外：灰	10YR6/4	約40%	R 29
234	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.8cm (高さ)2.9cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製	良好	内：灰白・黄褐色 外：灰	10YR7/4	約45%存在	R 9
235	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.2cm (高さ)2.8cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰白・黄褐色 外：灰	10YR7/4	存在	R 43
236	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.6cm (高さ)2.6cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製	良好	内：灰黄褐色 外：灰	10YR6/4	約60%	R 37
237	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)13.3cm (高さ)2.8cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製な砂質多いが磨	良好	内：黄褐色 外：灰	10YR7/6	約70%	土器製成後焼成
238	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)13.2cm (高さ)2.8cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製な砂質多いが磨	良好	内：黒 外：灰	7.5YR7/5	約30%	口縁部に施装付
239	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.8cm (高さ)2.7cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰黄褐色 外：灰	10YR6/4	約50%	R 45
240	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.9cm (高さ)2.7cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	やや中まじり	内：灰黄褐色 外：灰	10YR6/4	約60%	全周著しく磨耗
241	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)13.0cm (高さ)2.7cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製な砂質多いが磨	良好	内：灰白・黄褐色 外：灰	10YR7/4	約45%存在	R 2
242	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.3cm (高さ)2.5cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨	良好	内：灰黄褐色 外：黒	10YR6/4 7.5YR7/6	約40%	器裏面に著しく磨耗
243	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.5cm (高さ)2.3cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製	良好	内：黒 外：灰	5YR6/6	約50%	R 7
244	S K7040	土器鉢 鉢	(口径)12.3cm (高さ)2.6cm	口縁部コナダ、体部ナダ、オヤエ	磨製	良好	内：灰黄 外：灰	2.5YR7/3	約60%	R 22

No	品上通群	品名	数量	用途・仕立の仕様	品上	品名	色	規格	現貨数	注記	号	登録番号
245	S K7040	土師部 杯	(口径)13.3cm (高さ) 2.5cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR7/4	約40%	粘土層結合良好		R 26
246	S K7040	土師部 杯	(口径)13.3cm (高さ) 2.7cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR7/3	約50%			R 40
247	S K7040	土師部 杯	(口径)12.8cm (高さ) 2.7cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR7/3	完形			R 18
248	S K7040	土師部 杯	(口径)12.8cm (高さ) 2.7cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR7/4	約48%			R 31
249	S K7040	土師部 杯	(口径)12.8cm (高さ) 2.8cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：黄 外：ぶい	5YR6/6	約50%	胴部のゆがみ大きい		R 46
250	S K7040	土師部 杯	(口径)12.5cm (高さ) 2.6cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：灰黄緑 外：ぶい	7.5YR6/4	完形			R 17
251	S K7040	土師部 杯	(口径)14.3cm (高さ) 3.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：灰黄緑 外：ぶい	10YR6/4	ほぼ完形			R 19
252	S K7040	土師部 杯	(口径)14.2cm (高さ) 3.3cm	口縁部二角コナデ、体部 ナデ、オヤヒ	青	良形	内：黄 外：ぶい	5YR7/6	約60%	底面がよく磨耗する		R 44
253	S K7040	土師部 杯	(口径)15.0cm (高さ) 3.1cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：黄 外：ぶい	7.5YR6/6	約48%			R 32
254	S K7040	土師部 杯	(口径)15.4cm (高さ) 3.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：灰黄緑 外：ぶい	10YR6/4	約45%			R 24
255	S K7040	土師部 杯	(口径)15.1cm (高さ) 3.1cm	口縁部二角コナデ、体部 ナデ、オヤヒ	青	良形	内：黄 外：K.ぶい-黄緑 外：K.ぶい-黄	5YR6/6 10YR7/4 7.5YR6/3	約60%	内面に黄褐色物質 外に二次磨滅による赤黄 緑色をみる		R 4
256	S K7040	土師部 杯	(口径)18.8cm (高さ) 3.7cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：黄 外：ぶい	10YR6/3	約50%			R 53
257	S K7040	土師部 杯	(口径)12.4cm (高さ) 2.6cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：黄 外：ぶい	5YR6/6	約70%			R 284
258	S K7040	土師部 杯	(口径)12.3cm (高さ) 2.6cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：灰白 外：灰黄	7.5YR6/2 2.5YR/3	完形			R 1
259	S K7040	土師部 杯	(口径)15.3cm (高さ) 3.6cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：黄 外：ぶい	7.5YR7/6	約48%			R 162
260	S K7040	土師部 杯	(口径)12.8cm (高さ) 2.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：黄 外：ぶい	5YR6/6	約58%			R 47
261	S K7040	土師部 杯	(口径)12.5cm (高さ) 2.6cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：黄 外：ぶい	5YR6/6	約50%	胎面は砂粒を含む		R 21
262	S K7040	土師部 皿	(口径)11.8cm (高さ) 2.5cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：黄 外：灰黄緑 外：黄緑	10YR6/4 10YR6/6	約48%			R 28
263	S K7040	土師部 皿	(口径)12.4cm (高さ) 2.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：黄 外：ぶい	7.5YR7/6	完形			R 10
264	S K7040	土師部 皿	(口径)13.6cm (高さ) 2.3cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR6/3	約50%			R 5
265	S K7040	土師部 皿	(口径)13.8cm (高さ) 2.4cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：灰黄 外：ぶい	2.5YR/4	約78%			R 41
266	S K7040	土師部 皿	(口径)13.3cm (高さ) 1.8cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：黄 外：ぶい	7.5YR7/6	約75%	外壁に粘土層結合あり		R 14
267	S K7040	土師部 皿	(口径)12.1cm (高さ) 1.9cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：灰黄緑 外：ぶい	10YR6/4	約80%			R 16
268	S K7040	土師部 皿	(口径)12.6cm (高さ) 1.7cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR7/4	約50%			R 27
269	S K7040	土師部 皿	(口径)12.7cm (高さ) 1.9cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	砂質多い	やや歪しい	内：黄 外：ぶい	5YR7/6	約50%	胎面は砂粒を含む		R 265
270	S K7040	土師部 皿	(口径)13.6cm (高さ) 1.9cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR7/4	約50%			R 8
271	S K7040	土師部 皿	(口径)12.3cm (高さ) 1.4cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR7/4	約58%	一部に胎面が強く磨んで 磨耗する 外壁に粘土層結合あり		R 13
272	S K7040	土師部 皿	(口径)12.3cm (高さ) 1.6cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：K.ぶい-黄 外：ぶい	7.5YR7/4	約50%			R 23
273	S K7040	土師部 皿	(口径)12.1cm (高さ) 1.8cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：黄 外：ぶい	7.5YR6/6	ほぼ完形			R 12
274	S K7040	土師部 皿	(口径)14.0cm (高さ) 1.5cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	黄緑	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR7/4	ほぼ完形	内面に灰状の塊状物7が 付いた模様あり		R 6
275	S K7040	土師部 皿	(口径)13.9cm (高さ) 1.8cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：灰黄緑 外：ぶい	10YR6/4	ほぼ完形	胎面のゆがみ大きい		R 282
276	S K7040	土師部 皿	(口径)12.4cm (高さ) 1.4cm	口縁部×コナデ、体部ナデ、 オヤヒ	青	良形	内：K.ぶい-黄緑 外：ぶい	10YR7/4	約50%			R 33

No	国土産別	産 品	数 量	調査・試験の特徴	防 土	構 成	色 調	透水性	備 考	試験番号	
277	S K7040	土壌防草 品	(口徑)12.4mm (篩高) 1.4mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：既製 外：#	10YR6/4	約60%	R 283	
278	S K7040	土壌防草 付付材	(口徑) 8.4mm (篩高) 3.7mm	口縁部ナダ、体部ナダ、 コナダ、底層ナダ、内層ナダ	覆	良砂	内：既 外：既	7.5YR7/6 10YR6/4	高台部の 約60%	R 30	
279	S K7040	土壌防草 品	(口徑) 7.3mm (篩高) 1.8mm	口縁部コナダ、体部内 層コナダ	覆	良砂	内：既白 外：#	5YR7/2	高台部の 1/4	R 42	
280	S K7020	土壌防 草	(口徑) 9.4mm (篩高) 1.7mm	口縁部コナダ、体部ナダ	覆	良砂	内：こぶい黄 外：#	10YR7/4	ほぼ完全	R 306	
281	S K7020	土壌防 草	(口徑)10.0mm (篩高) 2.3mm	口縁部コナダ、体部ナダ	覆	良砂	内：こぶい黄 外：#	10YR7/4	約70%	R 307	
282	S K7020	コナダ 防草	(口徑) 9.4mm (篩高) 2.3mm	口縁部コナダ、体部内外 層コナダ、底層防草	覆	良砂	内：既 外：#	7.5YR6/5	約60%	R 308	
283	S K7020	コナダ 防草	(口徑)14.3mm (篩高) 4.9mm	口縁部コナダ、体部内外 層コナダ、底層防草	覆	良砂	内：既 外：#	2.5YR/3	約70%	R 305	
284	S K7020	コナダ 防草	(口徑)14.5mm (篩高) 7.3mm	口縁部コナダ、体部内外 層コナダ、内層ナダ、底 層ナダ	覆	良砂	内：既製 外：#	10YR6/4	内側に多数のヘア状工具 の当り有り、調査に長	R 300	
285	S K7020	土壌防 草	(口徑) 9.3mm (篩高) 2.0mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：こぶい黄 外：#	10YR7/4	約60%	R 301	
286	S K7020	土壌防 草	(口徑) 9.3mm (篩高) 1.5mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：こぶい黄 外：#	10YR7/4	約60%	R 289	
287	S K7020	土壌防 草	(口徑)12.0mm (篩高) 1.8mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：既製 外：#	2.5Y7/4	約60%	R 300	
288	S K7020	コナダ 防草	(口徑) 9.3mm (篩高) 1.5mm	口縁部コナダ、体部内外 層コナダ、底層防草	覆	良砂	内：既製 外：#	10YR6/3	約60%	R 287	
289	S K7020	コナダ 防草	(口徑) 4.6mm (篩高) 1.3mm	口縁部コナダ、体部内外 層コナダ、底層防草	覆	良砂	内：既製 外：#	2.5YR/3	約60%	R 288	
290	S K7020	コナダ 防草	(口徑) 4.6mm (篩高) 2.0mm	口縁部コナダ、体部内外 層コナダ、底層ヘア状 工具ナダ	覆	良砂	内：既製 外：#	2.5YR/3	約60%	R 302	
291	S K7020	コナダ 防草	(口徑) 8.0mm (篩高) 4.0mm	口縁部コナダ、体部内外 層コナダ	覆	良砂	内：既製 外：#	2.5YR/3	高台部のみ	R 303	
292	S K7061	土壌防 草	(口徑) 9.4mm (篩高) 1.7mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：こぶい黄 外：#	10YR7/4	完全	R 285	
293	S K7061	土壌防 草	(口徑) 9.3mm (篩高) 1.8mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：既製 外：#	2.5YR/3	ほぼ完全	内側に粘土層状成	R 282
294	S K7061	コナダ 防草	(口徑) 9.3mm (篩高) 1.5mm	口縁部コナダ、体部内外 層コナダ、底層防草	覆	良砂	内：既製 外：#	2.5YR/3	ほぼ完全	高台部の風化すすむ	R 281
295	S K7061	コナダ 防草	(口徑) 9.3mm (篩高) 2.0mm	口縁部コナダ、体部内外 層コナダ、底層防草	覆	良砂	内：既製 外：#	2.5Y7/3	約60%	R 286	
296	S K7061	防草 (山吹色)	(口徑) 6.3mm (篩高) 2.0mm	体部内外層コナダ、底 層ナダ	覆	良砂	内：既製 外：#	2.5Y7/3	高台部のみ	R 284	
297	S K7061	コナダ 防草	(口徑) 6.7mm (篩高) 2.0mm	体部内外層コナダ、底 層ナダ	覆	良砂	内：既製 外：#	2.5YR/3	高台部のみ	R 285	
298	S K7061	コナダ 防草	(口徑)10.0mm (篩高) 2.0mm	口縁部コナダ、内層コナ ダ、底層ヘア状	覆	良砂	内：既 外：#	7.5YR7/6	約60%	R 289	
299	S K7061	土壌防 草	(口徑)11.7mm (篩高) 2.0mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：既製 外：#	5YR/3	約60%	粘土層状成あり	R 286
300	S D7014	緑地防草 品	(口徑) 7.0mm (篩高) 1.7mm	体部内外層ヘア：オキ、粘 付型付	覆	良砂	色：もみぎ色 粘土：既白色	7.5YR/1	高台部の 1/4	内側全面に高 級改良	R 310
301	S D7027	緑地防草 品	(口徑) 7.7mm (篩高) 1.3mm	体部内外層コナダ、粘 付型付	覆	良砂	色：同色 粘土：既製	2.5YR/4	高台部のみ	ほぼ完全	R 311

第104次調査

No	国土産別	産 品	数 量	調査・試験の特徴	防 土	構 成	色 調	透水性	備 考	試験番号	
1	S E7000	土壌防 草	(口徑)13.2mm (篩高) 2.6mm	口縁部コナダ、体部ナダ	覆	良砂	内：既 外：#	5YR6/4	約70%	R 13	
2	S E7000	土壌防 草	(口徑)15.4mm (篩高) 3.0mm	口縁部コナダ、体部ナダ	覆	良砂	内：既 外：#	7.5YR2/6	約70%	内側に葉状状文	R 22
3	S E7000	土壌防 草	(口徑)13.4mm (篩高) 2.3mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：既 外：#	5YR6/4	約60%	R 25	
4	S E7000	土壌防 草	(口徑)14.5mm (篩高) 3.3mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：既 外：#	5YR6/4	約60%	R 14	
5	S E7000	土壌防 草	(口徑)13.2mm (篩高) 3.3mm	口縁部コナダ、体部ナダ、 オキエ	覆	良砂	内：既 外：#	5YR6/6	約60%	R 16	

No	品上コード	品名	仕様	特徴・注意の特長	積上	積成	色	調	残存率	備考	登録番号
6	S E7000	土師器 鉢	(口径)13.4cm (高さ)3.0cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	5YR6/8 #	約70%		R 6
7	S E7000	土師器 鉢	(口径)13.5cm (高さ)3.0cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	やや砂質多いが青	内：黒 外：黒	7.5YR2/6 #	完存		R 3
8	S E7000	土師器 鉢	(口径)13.3cm (高さ)3.0cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	2.5YR3/3 #	約70%		R 34
9	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.1cm (高さ)3.2cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	黒青	良好	内：黒 外：黒	5YR6/8 #	約80%		R 17
10	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.5cm (高さ)2.7cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	黒青	良好	内：黒 外：黒	5YR7/8 #	約90%	器表黒緑層薄い	R 20
11	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.3cm (高さ)3.1cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	7.5YR2/6 #	約80%		R 33
12	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.3cm (高さ)3.0cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	5YR2/6 #	約80%		R 33
13	S E7000	土師器 鉢	(口径)15.6cm (高さ)3.6cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	7.5YR2/4 #	約80%		R 8
14	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.3cm (高さ)2.5cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	黒青	良好	内：黒 外：黒	7.5YR2/6 #	約60%	内面にキズ1の痕跡が残る	R 24
15	S E7000	土師器 鉢	(口径)13.9cm (高さ)3.6cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：黒	10YR2/4 #	約90%		R 31
16	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.6cm (高さ)3.6cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	5YR2/8 #	約80%		R 5
17	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.4cm (高さ)3.7cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	5YR6/8 #	約80%	内面に十字にへら痕あり	R 15
18	S E7000	土師器 鉢	(口径)15.8cm (高さ)3.8cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	7.5YR6/6 #	約70%	内面に放射状と環状の 筋文	R 12
19	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.2cm (高さ)3.3cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：K.ぶい-黒 外：黒	7.5YR2/4 #	ほぼ完存	器底に内面にの穿孔	R 7
20	S E7000	土師器 鉢	(口径)17.3cm (高さ)3.5cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	やや砂質多いが青	内：黒 外：黒	7.5YR2/6 #	約60%		R 35
21	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.0cm (高さ)1.5cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	5YR6/8 #	約90%		R 9
22	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.6cm (高さ)1.7cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：黒	10YR2/4 #	約90%		R 4
23	S E7000	土師器 鉢	(口径)14.0cm (高さ)2.3cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	やや砂質多いが青	内：黒 外：黒	7.5YR2/6 #	約80%	器土質が硬い	R 10
24	S E7000	土師器 合付片	(口径)11.0cm (高さ)5.8cm	外周5cm/mのへら、内周 ナナ、裏面黒部コナナ	黒青	良好	内：黒 外：黒	7.5YR2/6 #	全体の 黒青		R 32
25	S E7000	黒色土師 器	(口径)19.8cm (高さ)5.7cm	内周へらとぎ、外周ナナ、 口縁部黒部コナナ	黒青	良好	内：黒 外：黒	N1.5/0 7.5YR7/8 #	約80%	黒色土質 内面に放射状筋文	R 1
26	S E7000	黒色土師 器	(口径)17.4cm (高さ)13.2cm	内周へらとぎ、外周ナナ、 口縁部黒部コナナ	黒青	良好	内：黒 外：黒	N1.5/0 7.5YR7/8 #	約80%	黒色土質 内面に放射状筋文	R 2
27	S E7000	土師器 蓋	(口径)16.3cm (高さ)1.5cm	外周7cm/mのへら、内周 ナナ、裏面黒部コナナ	黒青	良好	内：K.ぶい-黄緑 外：K.ぶい-黄緑	5YR5/4 10YR2/4 #	約90%	内面に黒色土質、 また器底に放射状筋文	R 18
28	S E7000	土師器 蓋	(口径)17.3cm (高さ)1.5cm	外周5cm/mのへら、内周 成部内周ナナ	青	良好	内：黒 外：黒	10YR2/4 #	約70%	使用履歴認められない	R 19
29	S E7000	民具陶器 鉢	(口径)14.2cm (高さ)4.7cm	体部コナナ、口縁部黒部 コナナ	青	良好	内：灰白 外：灰白	5YR/1 #	約60%	内面に輪状に並ぶ浅い 筋文が特徴的な点	R 29
30	S E7000	民具陶器 蓋	(口径)6.5cm (高さ)2.4cm	体部コナナ、口縁部黒部 コナナ	黒青	良好	内：灰白 外：灰白	5Y7/1 7.5Y7/2 #	器全体の 黒青	内面に輪状に並ぶ浅い 筋文	R 28
31	S E7000	民具陶器 蓋	(口径)14.6cm (高さ)7.0cm (高さ)4.1cm	体部外周コナナ、内周 ナナ、口縁部黒部コナナ	青	良好	内：灰白 外：灰白	5Y7/1 5Y7/2 #	完存	器底内面に黒色筋文	R 37
32	S E7000	民具陶器 小皿	(口径)18.0cm (高さ)1.5cm	体部コナナ、口縁部黒部 コナナ	黒青	やや小さい	内：K.ぶい-黄緑 外：K.ぶい-黄緑	10YR2/3 5Y7/1 #	約80%		R 27
33	S E7000	民具陶器 小皿	(口径)4.0cm (高さ)3.5cm (高さ)1.5cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 口縁部黒部コナナ	青	良好	内：灰白 外：灰白	5YR/1 7.5Y3/3 #	完存	外周に多数の自然釉付着	R 11
34	S E7000	民具陶器 蓋	(口径)22.2cm (高さ)14.6cm	口縁部コナナ、体部コナ ナ	黒青	良好	内：灰白 外：灰白	5YR/1 7.5YR7/2 #	器土質の 黒青	器土質の 黒青	R 26
35	S E7000	民具陶器 蓋	(口径)11.6cm (高さ)3.0cm	体部ナナ、口縁部ナナ	青	良好	内：灰白 外：灰白	7.5Y7/1 #	約80%	器底の内面に「本」の筋文 が特徴的	R 40
36	S E7000	土師器 鉢	(口径)13.2cm (高さ)2.3cm	口縁部コナナ、体部ナナ、 オヤエ	青	良好	内：黒 外：黒	5YR6/8 #	約80%	器底外周に「本」の筋文	R 36
37	S E7000	民具陶器 蓋	(口径)14.7cm (高さ)7.3cm (高さ)2.7cm	体部外周コナナ、内周 ナナ、口縁部黒部コナナ	青	良好	内：灰白 外：灰白	5Y7/1 5Y6/2 #	約90%	器底内面に「本」の筋文 と環状筋文、内面に輪状に 並ぶ筋文	R 38

No	出土遺物	器種	数量	調査・調査の特徴	出土	器式	色調	保存度	備考	登録番号	
38	S E 7065	土器器 小皿	{口径} 8.2cm {高さ} 1.0cm	内面ナズ、外面ナズ・オサ エ	菅	良形	内：肌質 外：#	2.5Y8/3 #	完好		R 41
39	S E 7066	土器器 盆	{口径} 11.5cm {高さ} 2.0cm	内面ナズ、外面ナズ・オサ エ	菅	良形	内：肌白 外：#	2.5Y8/2 #	約80%		R 43
40	S E 7065	土器器 盆	{口径} 12.7cm {高さ} 2.4cm	内面ナズ、外面ナズ・オサ エ	鹿野な砂岩を含むが 菅	良形	内：#、白、肌質 外：#	MYR6/4 #	約90%	器土結合良好	R 42
41	S D 7063	灰陶器器 碗	{口径} 16.4cm {高さ} 5.6cm {厚さ} 0.9cm	外面外面コナナズとヘラ ナズリ、内面ナズ、底面小 切欠コナナズ	鹿野	良形	外面：肌白 内：オリーブ質	7.5Y7/1 7.5Y6/3	約80%	内面に輪状に重なり跡あり	R 39
42	物本器	青銅 鏡	{直径} 4.3cm {厚さ} 3.0cm	適合内面ナズリ、他は全面 黒色	菅	良形	外面：青銅鏡 鏡面 内：オリーブ質	MYR2/4 14B/0 10Y5/2	適合型の 約5/7	見込入庫に不鮮明な利用	R 38

注) ○Noは本書遺物実測図の番号と一致する。

- 器種の項では、それぞれ「～形土器」の表現を省略した。
- 法量の「口径」は口縁端部の最高点を結んだ長さを示す。
- 色調は農林水産省農林水産技術会議事務局他監修の『新版標準土色帖』（1988年度版）を参照した。
- 登録番号は遺物・図面の整理及び管理上の番号で、各調査回数ごとに実測された遺物すべてに通して付されている。

斎宮跡発掘調査次数一覧表

次	年度	調査地区	次	年度	調査地区
1	S45	試掘	13-6	51	中坂内375-1(南)
2	46	古屋A地区	13-7		東 墓328(小川)
3		＊ B地区	13-8		西加座2771-1(細井)
4	47	＊ C地区	13-9		＊ 2773(細井)
5	48	＊ D地区	13-10		東 墓362-1(児島)
6-1		Aトレンチ	13-11		西加座2681-1(浮田)
6-2		Bトレンチ	13-12		＊ 2721-3, 2724-2(桑川)
6-3		Cトレンチ	13-13		東前沖2506-2(宮下)
6-4		Dトレンチ	14-1	52	2 Eトレンチ
6-5		Eトレンチ	14-2		2 Fトレンチ
7	49	古屋E地区	14-3		2 Gトレンチ
8-1		Fトレンチ	14-4		2 Hトレンチ
8-2		Gトレンチ	14-5		2 Iトレンチ
8-3		Hトレンチ	15		斎宮小学校
8-4		Iトレンチ	16-1		竹川町道A
8-5		Jトレンチ	16-2		＊ B
8-6		Kトレンチ	16-3		＊ C
8-7		Lトレンチ	16-4		＊ D
8-8		Mトレンチ	16-5		＊ E
8-9		Nトレンチ	16-6		＊ F
8-10		Oトレンチ	17-1		竹神社事務所
8-11		Pトレンチ	17-2		竹神社防火用水
9-1	50	Qトレンチ	17-3		西加座2721-6(西沢)
9-2		Rトレンチ	17-4		楽 殿2894-1(中川)
9-3		Sトレンチ	17-5		＊ 2895-1(西口)
9-4		Tトレンチ	17-6		出在家3237-3(吉川)
9-5		Uトレンチ	17-7		＊ 3237-1(屋中)
9-6		Vトレンチ	17-8		楽 殿2894-1(西村)
9-7		Wトレンチ	17-9		東海造機
9-8		Xトレンチ	18	53	6AEL-E-I(下園)
9-9		Yトレンチ	19		6AEN-M-N-O(御館)
9-10		Zトレンチ	20		6AEO-I-J(柳原)
10		広城園道路	21-1		6AGN-B(蔵治山、北山)
11-1		西加座2661-1(山中)	21-2		6AEI-D(西加座2711-2, 2717-4他、山崎)
11-2		＊ 2681-1(山名)	21-3		6AFD-D(東前沖2649-1, 大西)
11-3		東前沖2483-2(前田)	21-4		6AFH-F(西加座2678, 2679-3, 森下)
11-4		下 園2926-9(吉木)	21-5		6AGD-K(東前沖、波部)
12-1	51	2Aトレンチ	21-6		6ACA-T(古屋3269-2, 中西)
12-2		2Bトレンチ	21-7		6AFE-F(東前沖2631-1, 鈴木)
12-3		2Cトレンチ	21-8		6AEG-A(楽殿2909-3, 大西)
12-4		2Dトレンチ	21-9		6AED-R(猿林3218-3, 宇田)
13-1		東加座2436-7(浜口)	22-1		6AGU
13-2		＊ 2436-4(中村)	22-2		6AGU
13-3		古 屋3283(村上)	22-3		6AGW
13-4		楽 殿2916~2917(松井)	23	54	6AEL-B(下園)
13-5		御 館2974-1(川本)	24		6AGF-D(西加座)

次	年度	調 査 地 区	次	年度	調 査 地 区
25-1	54	6ADP-K (牛糞3029-1、三重土地木-A)	37-12	56	6AFH-J (西加座2681-1・3・4、渋谷)
25-2		6ACA-Y (古里3270、藤田)	37-13		6AGK-F (西加座335-3、336-3、竹内)
25-3		6ADD-F (篠林3139-3、池田)	38		6ACD-S (塚山)
25-4		6AER-H (牛糞3014、牛糞公民館)	39		6ABD-R・S・T (古里)
25-5		6AGN-H (鍛冶山2392、九山)	40		6AGH-L・M (東加座)
25-6		6AFH-A (西加座2675-5、谷口)	41		6AGJ-J他 (斎宮地内)
25-7		6AEK-V (下園2926-10、奥田)	42-1	57	6AEI-D・F (楽殿)
25-8		6AFC-D (西前沖2064-5、山本)	42-2		6AEK-A・B (楽殿)
25-9		6ACN-C (広瀬3387-1、北出)	43-1		6ADC-C (出在家3235-2、水田)
25-10		6AEV-A (鈴池339-1、水島)	43-2		6ADT-B (木葉山308-1、山本)
25-11		6ACF-B (東裏364-1、沢)	43-3		6ACP-T (南裏241-1、辻)
25-12		6AEE-Y (楽殿2892-3、山本)	43-4		6ADS-D (牛糞123-3、西山)
25-13		6AEJ-E (西加座2766-1、山内)	43-5		6ADE-D (篠林3220-3、澄野)
26-1		6AFR (中西)	43-6		6AGE (東前沖、町道側溝)
26-2		6AEX~6ACQ (鈴池、木葉山、南裏)	43-7		6ABD-F (古里588-6、今西)
26-3		6AEV・W・X (鈴池)	43-8		6ADQ-H (牛糞3025-2、大西)
26-4		6ACR (木葉山、南裏)	44		6AFL-A・B (鍛冶山2759-1、他)
27		6ACG-S・T (東裏)	45		6AEG-P・Q (楽殿2304-2、他)
28		6AEO-D (御蔵)	46		6AGN-C・D (鍛冶山2737-1、他)
29		6AF1、6AFL、6APK、6AFM、6AGJ	47		6ADJ-D・G他(西加座、御蔵、宮ノ内、上園)
30	55	6ABJ-M・X・W (中垣内)	48-1	58	6AGM-M (広瀬3385、斎宮小)
31-1		6ADO-M (内山3038-13、岩見)	48-2		6ADP-Q (牛糞3033-1・2、吉田)
31-2		6ACP-I (南裏227-2、鈴木)	48-3		6ABL-M (中垣内434-6、西川)
31-3		6ABD-A (古里588-4、北畹)	48-4		6AGL-B (東前沖2480、倉田)
31-4		6ADQ-T (牛糞3018-2、百五銀行)	48-5		6AGD-6AFE (東前沖、町道側溝)
31-5		6ACC-G (塚山3338-3、水谷)	48-6		6AGC-A (西前沖3550-1、今西)
31-6		6ABO-X (古里576-1、池田)	48-7		6ADT-H (木葉山307、森西)
31-7		6AGI-L (東加座2427-1、竹内)	48-8		6ACL-E・F・G (東裏334-15、他)
31-8		6ACN-G (広瀬3388-1・5・8・9、森)	48-9		6AEV-J (鈴池341-1、乾)
31-8		6AGD-L (北野2487-1、中川)	48-10		6AGT (牛糞、町道側溝)
31-10		6ADM-O (内山3043-3、斎宮駅)	48-11		6ADP-E (鍛冶山2351-1、2352-1、神坂)
31-11		6ADT-I (木葉山304-2、澄野)	48-12		6AFC-H (西前沖2604-8・9、清水)
31-12		6ADT-J (木葉山304-7、宇田)	48-13		6ACM-O (東裏、斎宮小)
32		6ACE-D・E・F (塚山)	48-14		6AET (牛糞、町道側溝)
33		6ADE-C・D他 (篠林)	49		6ADI-D・U・V・W・X (上園3083、他)
34		6ADE-F・G・H (西加座)	50		6ACH-H (東裏294、297、山本)
35		6APE他 (西前沖)	51		6AFF-D (西加座2663-1・4、2664、暮下)
36	56	6ABI-F (中垣内)	52		6AGF-D (西加座2703、他)
37-1		6AFC-M (西前沖2064、日本経木)	53-1	59	6ACM-P (東裏294、体育館)
37-2		6ADQ-R (牛糞3021-2、野田)	53-2		6ACA-M (古里3280-2、中西)
37-3		6AFC-F (西前沖2604-6、神田)	53-3		6ABE (古里573-2、永納)
37-4		6AFC-M (西前沖2604、日本経木)	53-4		6ACL-S (東裏271-1、田所)
37-5		6AFC-G (西前沖2064-7、中村)	53-5		6ACR (木葉山97-5、田中)
37-6		6ABD-A (古里588-2、北畹)	53-6		6AGO (鍛冶山、町道側溝)
37-7		6AEC-M (薄平2861-2、斎王公民館)	53-7		6ADD-U (篠林3147-3、野呂)
37-8		6ADR-P (木葉山128-8・13-14、富山)	53-8		6AGE-O (東前沖2470-2、上田)
37-8		6AGK-E (東加座2355-1、竹内)	53-9		6ACS-O (木葉山86-2、浅尾)
37-10		6AED-O (楽殿3217-1、渡部)	53-10		6ACA-R (古里3267-1、西川)
37-11		6ADN-O (内山3043-3、斎宮駅)	53-11		6ADR-W (木葉山131-7、西村)

次	年度	調 査 地 区	次	年度	調 査 地 区
53-12	59	6ABL-K(中畑内464-2、沢)	70-10	62	6AFD-B・D(西前沖2649-4、大西)
53-13		6ADQ-L(牛養3022、辻)	70-11		6AGO-H(殿治山2363-2、川合)
53-14		6ACM-O(東裏287-3、体育原)	70-12		6ADD-F・G(篠林3158、長谷川)
53-15		6AFK-C・D(西加座2721-1、鈴木)	70-13		6AEC-N・G(苧干、佐藤)
54		6AFE-N(西前沖2630、他)	70-14		6ABL-R(中畑内459、北岡)
55		6AEN-P(柳原、御館2785-1、他)	70-15		6AFD-A(西前沖2644-1、山本)
56		6ACH-S(東裏289-1、他)	70-16		6ACB-A他(町道塚山線拡幅)
57		6AGF-H・I(東加座2441、他)	71		6ABE(古里501、他)
58-1	60	6AFK-C・D(西加座2721-1、鈴木)	72-1		6ABE(古里500、他)
58-2		6AFH-N(西加座2681-8、三村)	72-2		6ABF(古里523、他)
58-3		6ACM-N(東裏3385-2、斎宮小)	72-3		6ABF(古里551-2、他)
58-4		6ABL-A(中畑内4731-1、小家)	72-4		6ABF(古里528-1、他)
58-5		6ADQ-Q(牛養、町道御溝)	73		6AFF-B・C・E・G(西加座2663-5、他)
58-6		6ADR-V(本薬山131-3、西山)	74-1		6ABF(古里523、他)
58-7		6AGS-G(中西611、山路)	74-2		6ABF(古里522、他)
58-8		6ABM-A(中畑内430-3他、近鉄)	74-3		6ABE・F(古里524、他)
59		6ACJ-I(広瀬3379-1、他)	74-4		6ABE(古里548-1、他)
60		6AGJ-B・D・G(東加座2450-1、他)	74-5		6ABE(古里543、他)
61		6AFF-H・I・D(西加座2663-1、他)	75		6AGF-C(西加座2702、他)
62		6AGI-J・K(東加座2425、他)	76-1	63	6ADB-A・D(町道塚山線拡幅)
63		6AFG-M・N(西加座2659-1、他)	76-2		6ADE-F・G(篠林3158、長谷川)
64-1	61	6ACO-H(牛養3395-1、トウカイ)	76-3		6ABE(古里554、明和町)
64-2		6AGL-F(東加座2435-1、大和谷)	76-4		6ACK(東裏354-13、山際)
64-3		6ADD-A(篠林3136-1、山路)	76-5		6AEE-W(東殿577、岡田)
64-4		6AGR-N(笹川2340、丸山)	76-6		6ACB-A(塚山3276-1、今西)
64-5		6ACM-R・Q・P(東裏3385-2、斎宮小)	76-7		6ACM-M(広瀬3385-2、斎宮小)
64-6		6ACK(東裏361-2、竹川自治会)	76-8		6AFM-G(殿治山2736-3、近鉄)
64-7		6AGI-G(東加座2435-2、大和谷)	76-9		6ACQ(南裏144-1、田所)
64-8		6AGR-J(笹川2341-6、山下)	76-10		6ABD-U(古里579、池田建設)
64-9		6ADQ-M(牛養、町道御溝)	76-11		6ABE(古里554、明和町)
64-10		6ACF-A(東裏365-1、樋口)	76-12		6AEE(東殿、町道下水管)
64-11		6ACM-O(東裏3385-2、斎宮小)	76-13		6ADD-K(篠林3143、中西)
64-12		6ADE-B(篠林3162-3、江崎)	76-14		6AEE-S(東殿2878-3、山路)
65-1		6ACC-M(塚山3331-1)	76-15		6ABF~6ABH(中畑内、県道拡幅)
65-2		6AEG-S(東殿2908-2、他)	76-16		6AEK-B(下瀬2936-2、明和町)
65-3		6AEI-L・M(東殿2917-4、他)	76-17		6AEV-A(銚池339-5、水島)
66		6AGG-C(東加座2437-1、他)	77		6AGJ-D(東加座2453、他)
67		6ABF(古里523、他)	78		6ADL(宮ノ前3054、他)
68		6ABF(古里502、他)	79		6AGG-A・B(東加座2440、他)
69		6AGM-E-H(東加座2373、他)	80		6AFG-F~I(西加座2696、他)
70-1	62	6ACC-X(塚山3325-1、江崎)	81-1	H1	6AEC~F(町道塚山線拡幅)
70-2		6AEE-W(東殿2875-2、岡田)	81-2		6ABJ、6ABK(古里、県道拡幅)
70-3		6ADR-I(木薬山129-5、大西)	81-3		6ADS-M(木薬山137、中川)
70-4		6ACN-A・B・E・L(広瀬3389-8、林)	81-4		6AED-L(東殿2881-2、山本)
70-5		6AEW-A(銚池333-1、八田)	81-5		6AFQ-C(中西597-2、水戸口)
70-6		6ABEL-S(中畑内430-6、奥山)	81-6		6ADD-F(篠林313、池田)
70-7		6AEE-T(東殿577、浅尾)	81-7		6ABL-U(中畑内430-7、川本)
70-8		6AEU・6AEX-A(牛養、銚池、三重県)	81-8		6ABJ(古里、明和町)
70-9		6AEP-C・D(御館、柳原、近鉄)	81-9		6ACF(中畑内、三重県)

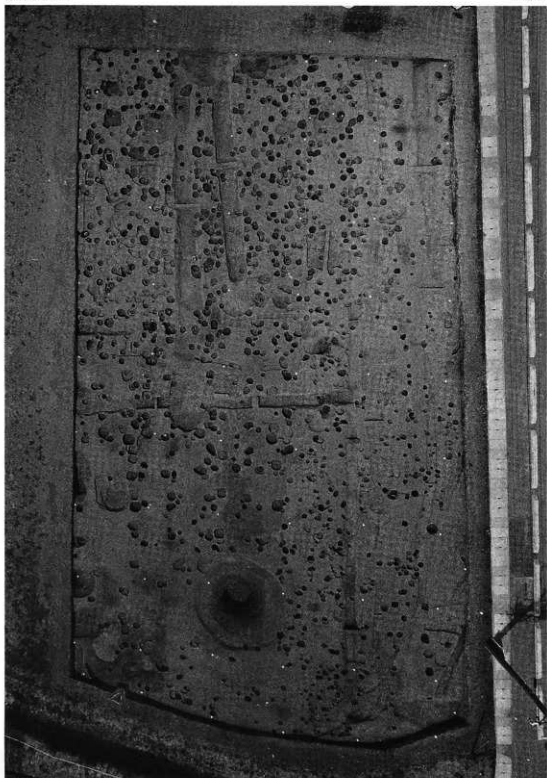
次	年度	調 査 地 区	次	年度	調 査 地 区
81-10	1	6ADR-V (木栗山297、明和町)	91	3	6ABH-F (中垣内393、他)
81-11		6ACM-N (広瀬3385-2、明和町)	92		6AGN-A (鍛冶山2734-3)
81-12		6AED-A (篠林3225、中川)	93		6ADN (内山3045-12、他)
81-13		6ACB (塚山3276-19他、明和町)	94		6AEM (御館2942)
81-14		6AED-F (楽座2844-2、澄野)	95	4	6ADN (内山3046-17、他)
81-15		6AED-U (楽座2885-2、西山)	96-1		6AGM (東加座2374 丸山)
81-16		6AG (北野3655-1、他)	96-2		6ADO (内山3068-3、他 明和町)
82-1		6ADI-F~J (上園3095、他)	96-3		6ACA-D (古里3260 清水)
82-2		6ADI-K~L (上園3100、他)	96-4		6AFN (中西2749-1 本山)
83		6AFJ-C~F (西加座2770-3、他)	96-5		6ADR-T (木栗山28-3 加藤)
84-1		6AFJ-G (西加座2764-3)	96-6		6ADD-D (篠林3138-1 藤井)
84-2		6AFH-G~H (西加座2679-1、他)	97		6AEM (中垣内482、他)
85-1	2	6ABD~6ACD (古里、三重県)	98		6AFM-C~E (鍛冶山2745、他)
85-2		6ACA-P (古里3279、松本)	99	5	6ADN (内山3046-11、他)
85-3		6ACJ-B~D (東裏、明和町)	100		6ABI-T (中垣内423)
85-4		6ABE (竹川573-1、永納)	101		6ADG (篠林3194)
85-5		6AED-U (楽座2885-2、西山)	102-1		6ADS (木栗山119-5 澄野)
85-6		6AFH-B (西加座、明和町)	102-2		6AED-J (楽座2882-5 杉本)
85-7		6ACB-C (塚山3276-3 他、加藤)	102-3		6AAQ (花園663-1 中川)
85-8		6ABI-N (中垣内427-1、小林)	102-4		6ACF-A (東裏985-1 樋口)
86		6AFH-F~G~H (西加座2679-1 他)	102-5		6ABJ-D (中垣内493-6 川口)
87		6ACE-N~Q~R (塚山3356他)	102-6		6AG (鍛冶山地内 明和町)
88		6AGN-C~D (鍛冶山2411-1 他)	102-7		6ACG-E (東裏318-1 川本)
89-1	3	6ADM-O (内山3043-5、近鉄斎宮駅)	102-8		6AE (楽座地内 明和町)
89-2		6AGI-M (東加座2432-2他、北村)	103		6AEQ-A (柳原2779-3)
89-3		6ADM-N-O (内山3060-4、近鉄斎宮駅)	104		6AGT (笛川1048-1、他)
90		6AFH-A~B (西加座2680他)			



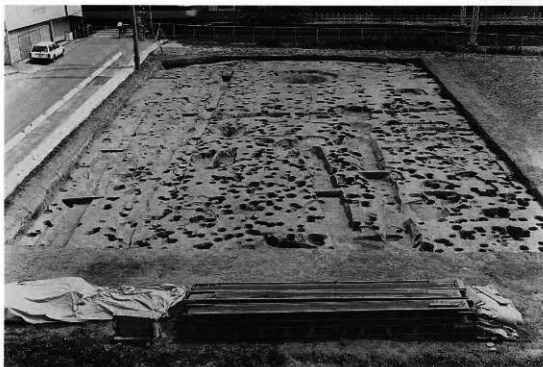
第40图 晋宫殿地区表示



版



調査区全景（真上から）



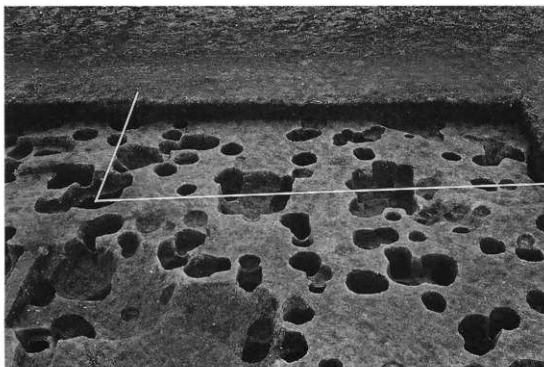
調査区全景（北から）



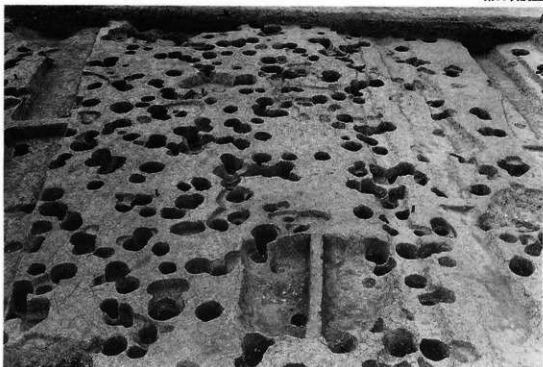
調査区北東部（南から）



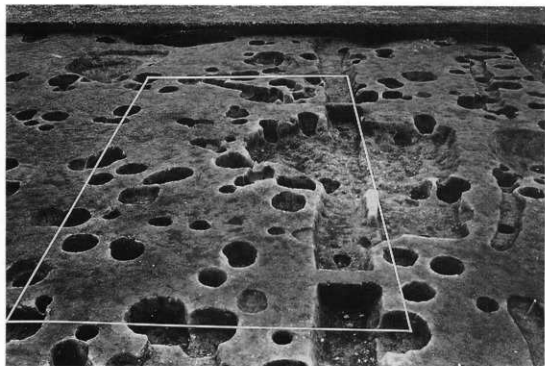
調査区南東部（北から）



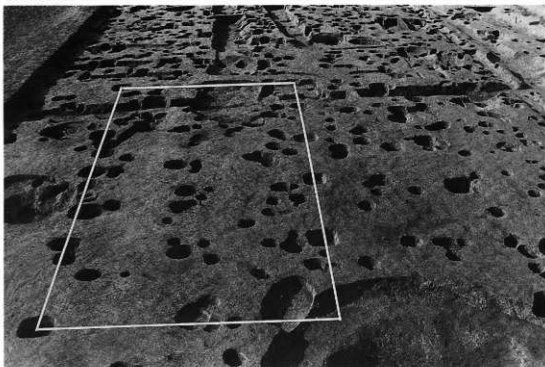
SB0251（東から）



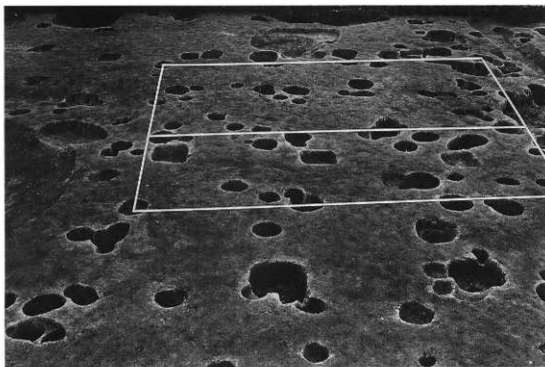
調査区北部（南から）



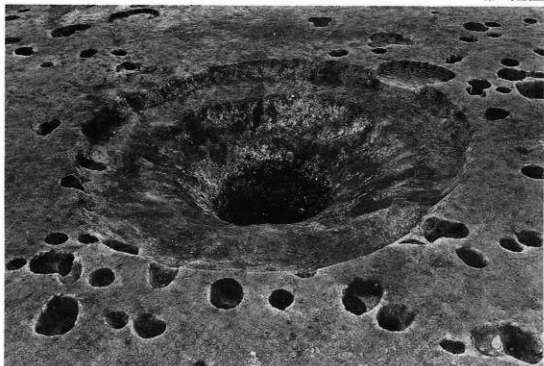
SD6919・SB6922（東から）



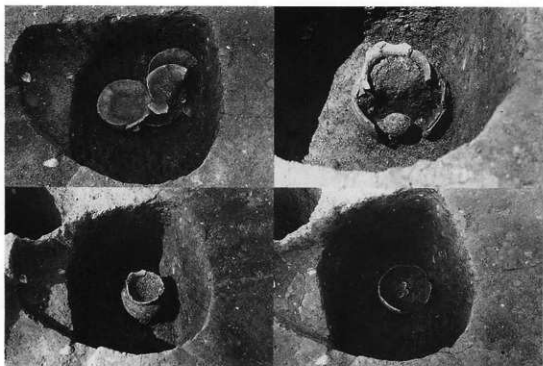
SB6918 (南から)



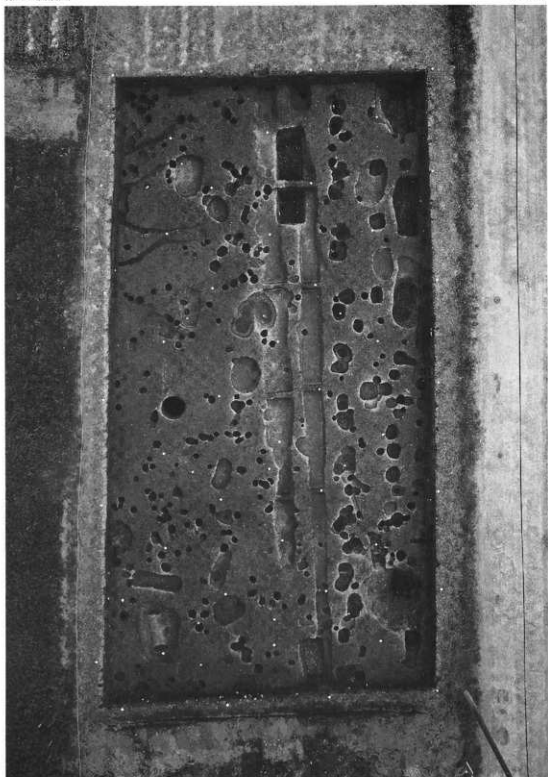
SB6923 (東から)



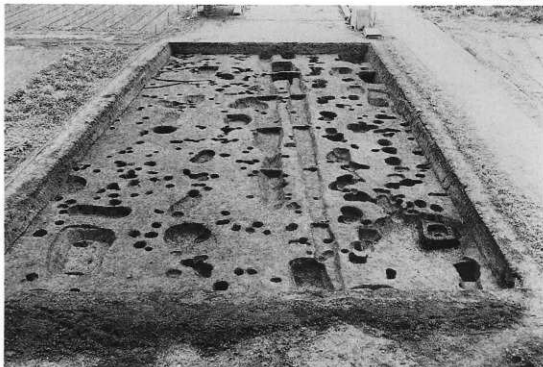
SE6920 (東から)



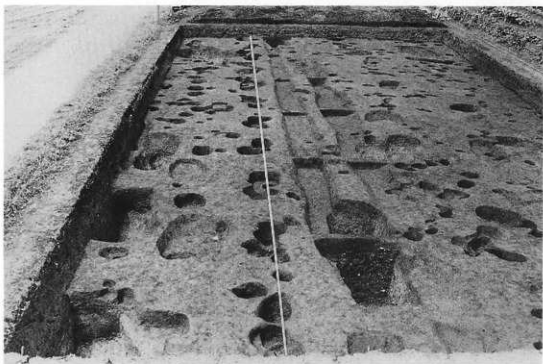
SX 6900検出状況 (南から)



調査区全景（真上から）



調査区全景 (西から)



SA6940・6941～6943 (東から)



調査区全景（真上から）



調査区全景（北から）



SF 6983南端（西から）



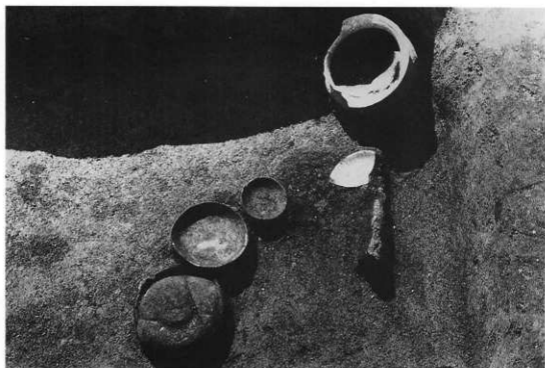
SF 6983 (南から)



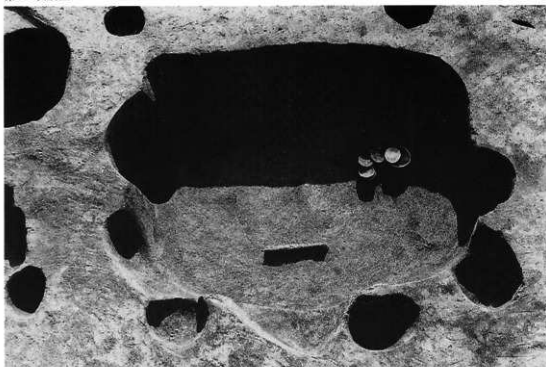
中世基群 (北から)



S X 6975 (南から)



S X 6975遺物検出状況 (東から)



SX6977 (東から)



SX6976 (南から)



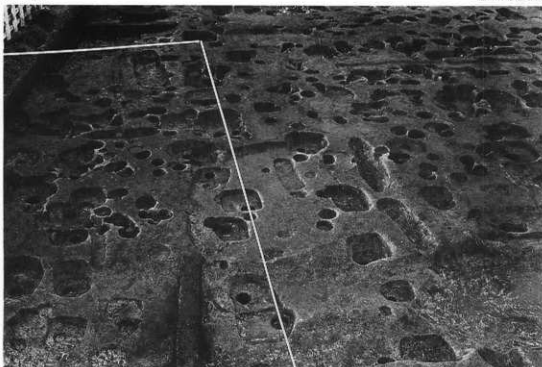
調査区全景（真上から）



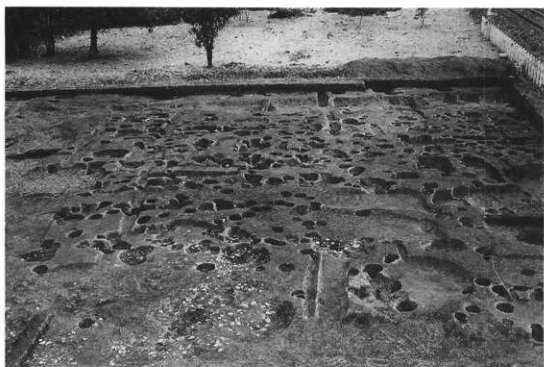
調査区全景（西から）



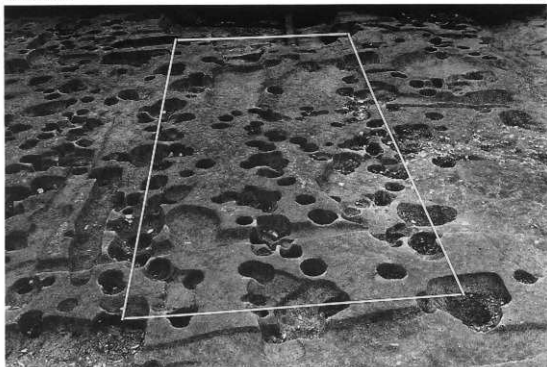
調査区全景（北西から）



SA7000 (東から)



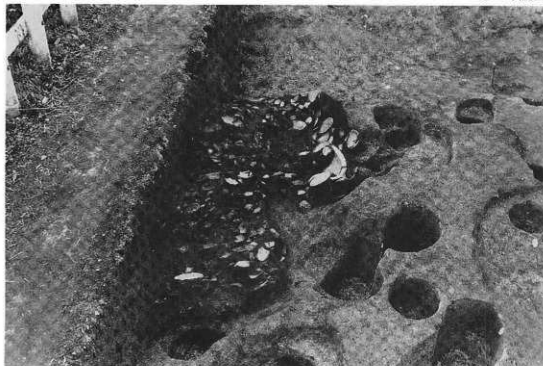
調査区南東部 (西から)



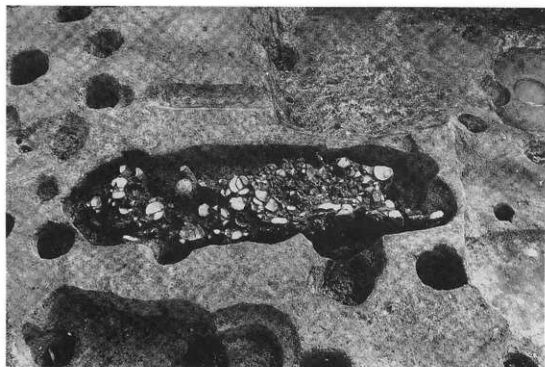
SB7024 (北から)



SB7020 (西から)



SK7017 (東から)



SK7040 (北から)



SK7030 (東から)



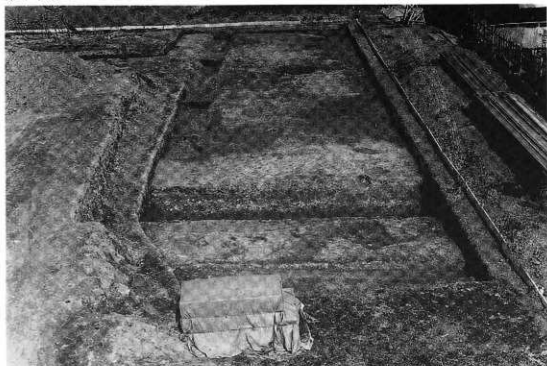
SK7030遺物検出状況 (北東から)



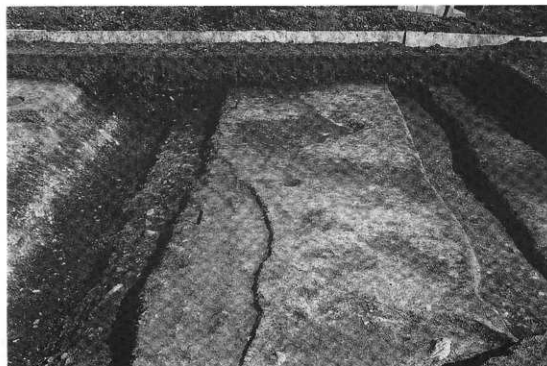
調査区遠景（南から）



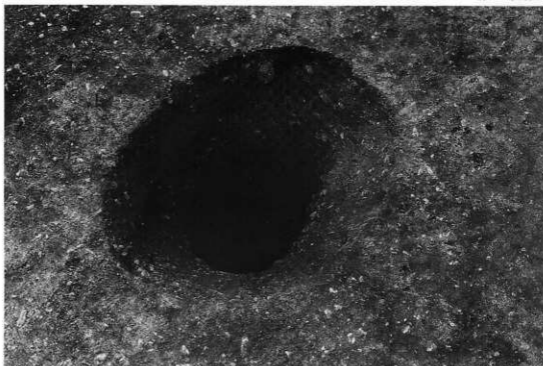
調査区遠景（東から）



調査区全景（南から）



SD7067（西から）



SE7060 (東から)



SD7063 (南から)



98



96



100



67



101

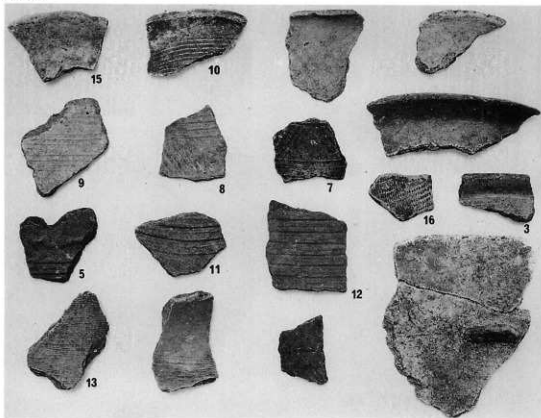


65



102





第100次調査 出土遺物



第101次調査 出土遺物



第104次調査 出土遺物

P L 26



第103次調査 出土遺物

国史跡 齋宮跡

平成5年度
発掘調査概報

平成6年3月31日

編集発行 齋宮歴史博物館
印刷 光出版印刷株式会社
